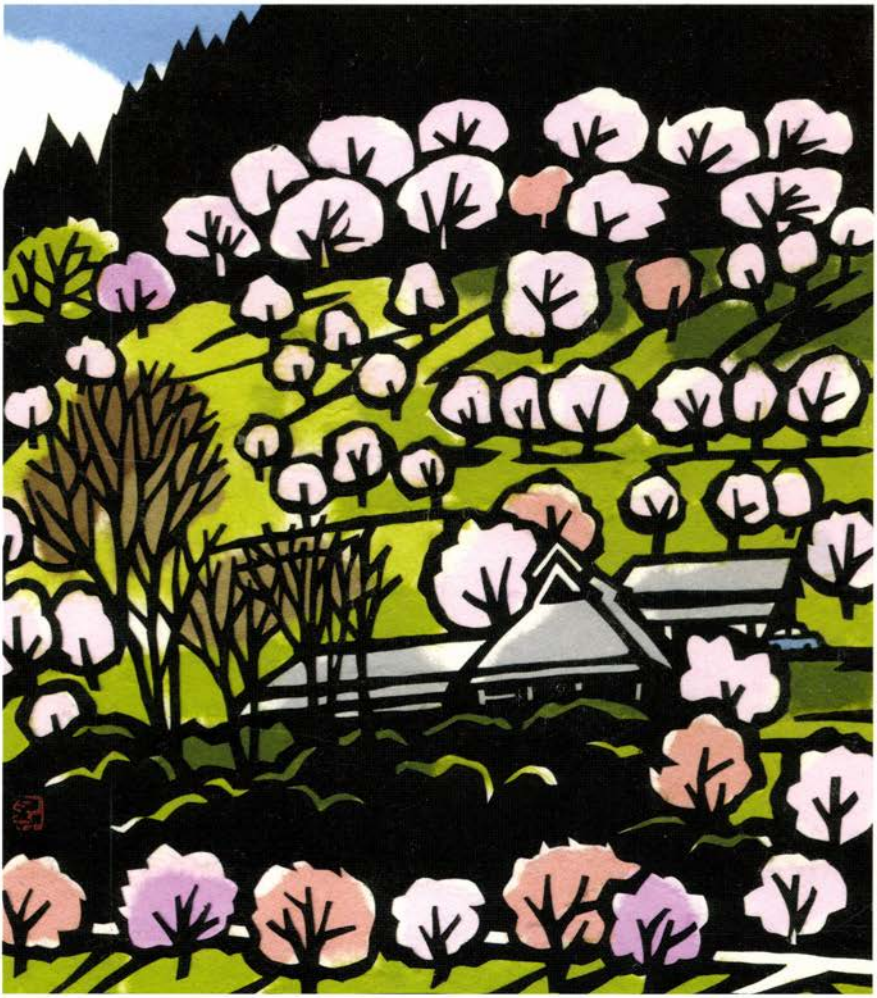
川柳塔

昭和四十一年一月九日 第三種郵便物認可
平成二十二年四月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通巻九九五号



日川協加盟

No. 995

四月号

川柳雑誌・川柳塔　通巻一〇〇〇号記念

「私の珠玉の一句」大募集

通巻一〇〇〇号発刊を記念して、同人・誌友の皆様の「川柳」を募集します。川柳を始められてから今日までに詠まれ発表された句の中から、これぞ「私の珠玉の一句」と思われる句を投句して下さい。

締切日　平成二十二年六月十五日

掲載誌　平成二十二年九月号

投句用箋　巻末の専用柳箋を使用し、本社事務所に郵送して下さい。
（葉書・FAXはご遠慮下さい。）

自費出版　川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

あらゆる印刷物の事なら、まずお電話を……。
あなたの思いをかたちにします。

美研アート

〒530-0022　大阪市北区浪花町９番４号
TEL（06）6372－1178
FAX（06）6372－1196
E-mail：bikenart@wonder.ocn.ne.jp

一、〇〇〇号への道　その四

河内天笑

昭和20年8月15日の天皇陛下の玉音を挟んでの川柳雑誌終刊（18年12月号）と、昭和22年8月号での再刊当時の社会的背景を詠んだ作品を、いくつか抜粋して今年の一・二月号で見て頂いた。

あの忌まわしい戦役をもたらした軍部支配の昭和初期には、朝日新聞は軍縮を訴えたり、軍部の独断的な雰囲気を批判した記事を掲載するという特徴をもつ新聞だった。しかし、当時全国的な勢力を広げていた「在郷軍人会」などからの不買運動の為、発行部数が激減、軍に対して何らかの協力を余儀なくされた。この暗い戦時下に「笑い」という文化を取り入れようとしたのも朝日新聞で、日中戦争勃発して半年後の昭和13年1月に戦線への慰問団の派遣が朝日新聞紙上で発表される。帝国空軍の荒鷲隊をもじった「わらわし隊」がそれで、吉本興業が朝日の依頼に応えることになる。ちなみに第一回わらわし隊のメンバーは柳家金語楼、花菱アチャコ、柳家三亀松等一行六人は北支へ、横山エンタツ、玉松一郎・ミスワカナ等の一行八人は中支への慰問班として派遣された。

第二回のわらわし隊は、昭和13年11月に派遣されたが、わらわし隊の「笑い」は戦地の惨状がひどくなるにつれ「相応しくない」との批判を呼び、終止符を打つ事となる。

一方、川柳雑誌S16～17年のエピソードに興味深い一欄を見つけた。

産めや殖やせのご時勢に年子で四人出来た夫婦、男子1に女子3では些か増産計画も狼狽気味で男子がもう一人欲しいという話。「今のままなら七割五分がスフ、せめて四分六にしたいもんや」と夫。「へえ、そういう意味でっか、然しそら違いまっせ」「何でや」「そうかて女の子は純綿ですがな」「参った参った。」因みに自分は養子でありました「ワハハハハ。」又、ある夜の噺、「男一人に女三人やったらワンスリーになるなァ、今度女やったらフォアボールや、キャッチャーしっかり頼んまっせ」「でもフォアボールやったらピッチャー交替でっせ」これは栞先生と美与子ご夫妻の夜話だったとか。察するに三人目の女性は古今堂蕉子さんという事に相成りますな。

《心の糧》　河内天笑

七いろの虹を追いかけ回す日日
したいこと抱え切れないほど抱え
一つだけでも夢中になれる事があり
必要とされる居場所があるいのち
雑用に追いかけられているいのち

座右の句

俺に似よ俺に似るなと子を思ひ　（路郎）

私の句

孫の風邪爺ちゃん婆ちゃん旅やめる　臼井二英

川柳塔　四月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田　尋「桜山・西吉野村」

■巻頭言　一、〇〇〇号への道　その四……河内天笑…（1）
薫風川柳の知的な詩性……瀬戸まさよ…（2）
川柳塔（同人吟）……河内天笑選…（4）
川柳塔の川柳讃歌(64)……木津川　計…（47）
自選集……（48）
温故知新……（51）
水煙抄……川上大輪選…（52）
句集紹介『女ごころ』……山本義子…（72）
■エッセー　ニュースの順序……仁部四郎…（73）
檸檬抄「文房具」……三宅保州・髙田美代子共選…（74）
麻生路郎句抄……（77）

薫風川柳の知的な詩性

瀬戸　まさよ

俳人の大石悦子氏は、かつて川柳は季語や切字の制約という形式の恩寵がないだけに丸腰で立たねばならない文芸だ。だから強い詩精神が必要であるということを新聞紙上で述べられたことがある。こういうときに思い出されるのは薫風師の句である。日常生活に裏打ちされた詩性は薫風師独特のもの、知的な詩性の輝きをもつ作品を今一度思い出したい。

革命さはじめてコーラ飲んだ日は

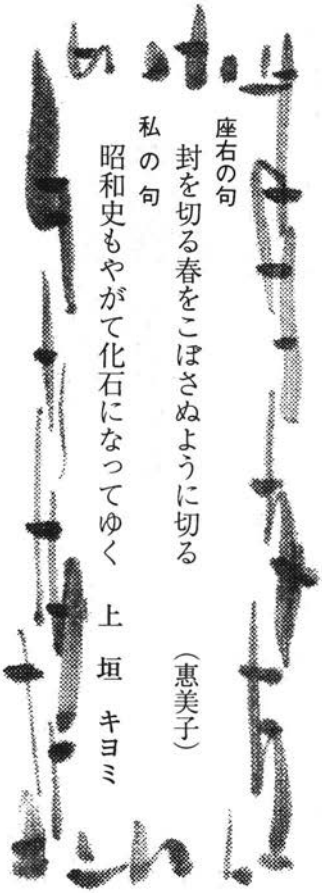
一九四五年（昭和二十年）敗戦国日本へ戦勝国のアメリカは軍を進駐させ君臨した。そのとき、日本人は初めて薬くさいペプシコーラ、コカコーラを口にした。今まで味わったことのない飲み物？と同時に日本の戦後は革命的な変化を遂げた。

平成の埴輪マモルの宇宙服

一九九二年（平成四年）毛利衛さんは宇宙飛行士として日本人初のスペースシャトル（エンデバー号）に搭乗した。宇宙服を着た毛利マモルさんは古代、甲冑を身につけた兵士の埴輪にそっくりなのだ。宇宙的スケールの詩性と言える。

来世紀もうにんげんの世ではなし

愛染帖……新家完司選……(78)
誹風柳多留一一篇研究 56……(82)
一路集
「学ぶ」……播本充子選……(84)
「女神」……山本義子選……(84)
「デビュー」……坪井孝一選……(85)
初歩教室「優しい」……鈴木公弘……(86)
秀句鑑賞
同人吟……川端一歩……(88)
水煙抄……中居善信……(90)
■エッセー　多読多作……小川注湖……(91)
三月本社句会……(92)
各地柳壇（佳句地十選／鈴木いさお）……(96)
四月各地句会案内……(114)
柳界展望……(116)
■編集後記（ひとこと／足立　茂）……尚士・光久・能子……(118)



座右の句

封を切る春をこぼさぬように切る　（惠美子）

私の句

昭和史もやがて化石になってゆく　上垣キヨミ

核の廃絶、地球温暖化、水資源の不足、先進国と途上国の対立等々、現在の世界は難問山積の状況にある。二十世紀は戦争の時代だった。二十一世紀の百年、人は生き残れるのだろうか。もう人間の世界ではないのかも……。

流される雛よわたしもケア・ハウス

ケア・ハウスができたのは十数年前。人は若く元気で働いているときは、もてはやされ、高齢になればケア・ハウス行きなのだ。古くなった用済みの雛人形は川や海へ流される。役目を終えた人間、雛人形が捨てられる運命にあるのは同じ。シニカルなユーモアと哀愁の込められた句である。

風見鶏の館タツノオトシゴの家

赤れんがの建物の尖頭の風見鶏（雄鶏）のトサカはタツノオトシゴの頭の形そっくり。北野坂を歩きながら見上げる風見鶏の家は、本当にタツノオトシゴの館のように見える。神戸異人館の風見鶏の館は国指定重要文化財。

ローソンへグランパパをゲットして

現代の幼い子たちにとってローソン、ファミリーマートなどは昔の駄菓子屋と同じ感覚。孫にせかされてお供を仰せつかるお祖父さん、昔も今も変わらない光景である。

四月二十四日は薫風師の五年目のご命日、改めて薫風師の句に接する喜びを味わう。

川柳塔

河内天笑選

大阪市　森田明子

神様が気まぐれに絵馬選っている
枝先に触れ気をもらう二月の木
不規則なテンポで春がやってくる
若者と通訳なしで話せます
まぐれだと言われて闘志涌いてくる
若い若いと互いに褒めるクラス会

豊中市　安藤寿美子

昔からいじわる婆は不滅です
地袋にどうせニセモノ古掛軸
ねんごろにしていて最後騙される
ぼんやりと日々是好日いいのかよ
老人で閑人でちょい野次馬で
郵便はまた葬儀屋の御案内

茨木市　藤井正雄

妻見舞うはじめて買っているメロン
方言で会話が出来る美味い酒
初恋の街に旅して独り酒
地球儀のほこりを払う広い海
厄年の賽銭弾む気前良さ
イケメンの割に根性悪すぎる

吹田市　須磨活恵

決断をせよと夕日が沈みかけ
運命に逆らう術を持つでなし
居場所を弁えているかすみ草
きっぱりと諦め過去をふり向かず
どちらにも言い分がある海と山
しがらみも絆も絶った国の駅

藤井寺市　鈴木いさお

ボケ切ってしまえば怖いものは無い
夫婦喧嘩もう勝てぬからやめました
寝たきりとボケを秤にかけてみる
忘れたいことあり少し濃いお酒
オレによく似たヤツ俺は大嫌い
妻ならばボクを殺すの訳もない

丁寧に洗う米寿へ生きる顔
冬至から五十余にちで日足伸び
ネギ刻む音で独りをなぐさめる
自分ながら愛想尽かす物忘れ
行列につくほどグルメにはなれぬ
容赦なく過ぎる月日を恨みたい

八尾市　生嶋　ますみ

ささやかな好意で波紋呼んでいる
同罪といわれるうれしさもあった
握手した感触忘れられぬ人
断っておくが一泊出来ません
丁度よい日差しへ脱いだ胸の内
春はたしかに京都からくる花便り

藤井寺市　鴨谷　瑠美子

ロウバイが咲いて鬼門が美しい
「よりんさい」「あたりんさい」と春ごたつ
金のことでだいじな心捨てはせぬ
そり返るウマにはのらぬことにする
鍬ひとつモグラと唄う春の唄
山なみのみどり無言の愛である

鳥取県　佐伯　やえ

見ていると顔がほころぶ梅の花
冗談が通じぬ人を怒らせる
配達の灯油は晴れの日に頼む

鳥取市　有沢　せつ子

うまそうに食べキッチンを喜ばす
一年中三色すみれ咲かせてる
自販機とケータイ街は無口です

羽曳野市　三好　専平

占領がまだ続いてる嘉手納基地
三万人自殺先進国日本
三途の川わたる訓練するプール
砂漠より墓場になってゆく都会
マンボもルンバも踊っていまは車椅子
黒門の面影のこる河豚問屋

黒石市　相馬　一花

そっとしておこう二人の関ヶ原
詐欺師らはマニュアル通り人を嵌め
評判のよい娘はすぐに値が上がる
ストレスの功罪を説くお寺様
目玉焼きたまに作るとやぶにらみ
コップ酒喜怒哀楽を中和する

大阪市　谷口　義

神様をお持ち帰りは出来ません
普通の町で昨日と同じ服を着て
根性がなくなったので飴をなめ
後ろから追掛けてくる縁もある
くじ運が悪いのも縁なんだろう
よっぽどの縁だと思う箸の先

和歌山市　木本朱夏

針刺しに二十のころの母の髪
母が居たころの音色でオルゴール
母の忌に母の匂いのせぬ仏間
ほんものをしっかり食べた骨密度
新しい靴が馴染まぬ春なのに
歳月を束ねて粗大ゴミに出す

八尾市　宮﨑シマ子

春は名のみ今夜も父は鍋奉行
すすめても飲まないお茶を入れ替える
悲しいのは認知の夫と話すとき
取り組むのも本気嫌になったのも本気
落ちてなお雄蕊を守る紅椿
許し乞う仏に灯り差上げて

豊中市　江見見清

星空が見えるか訊いて旅プラン
下戸だけでボジョレヌーボは買っている
ボケ防止のお祈り今日も忘れてた
淋しい日ついついようけ食べている
お祈りの秘密へはずむお賽銭
夜は鍋葱が顔出すレジ袋

出雲市　森茂美

この家は胡坐のかける家である
何も無い雪の世界にある鉄路
こんな夜は会ってもみたい雪女
初夢にまだ出てこない山の神
日向ぼこしてる夫婦のお茶時間
居酒屋もご無沙汰してる雪が降る

吹田市　穴吹尚士

真っすぐに生き変人にされている
子の無理をためらいもなく妻は聞き
見るからに男になって子の帰省
まだ死ねぬ墓地のローンが残ってる
離婚する勇気がなくて共に老い
まだまだとデフレ眺めている財布

神戸市　両川無限

ジャズ流れ別れ話は女から
優しさの根にしっかりと母性愛
棺にも紙とエンピツ入れてやる
目には目をどこまで神を悲します
愛してる方がいつでも待たされる
目が悪いのでいつも会釈を欠かさない

藤井寺市　髙田美代子

梅の香が沁みる天満宮の絵馬
就活へ紺のスーツが忙しい
高齢者ばかりが乗った午後のバス
いくつでもいいのに歳をまた聞かれ
生きるとは泣いて笑ってまた泣いて
はてさてといちごの旬を忘れかけ

大阪市　升成　好

お日様の添い寝がぬくい干し布団
菓子の名の優雅さを買う京土産
よく書けた投書匿名惜しくなり
喜びを倍にしたくて飲むお酒
飲みすぎに注意と瓶に書いてない
子も釘も曲がらずに打つむつかしさ

鳥取市　近藤佳子

母に似た優しい叔母がまだ元気
母さんと言えた真冬の流れ星
お年玉みたいな賀状くれる孫
見かけより器大きくなった友
生きてるかなどと何でも言える友
大げさに喜ばず深刻に哀しまず

吹田市　大谷篤子

楽しませ楽しんでいる話術持ち
好きな道好きな歩幅で歩いてる
リハビリに上り下りの道ばかり
杖を持ちほいほいほいと出掛けてる
車椅子乗った目線の先に春
吠えました麻酔の切れたあの痛さ

島根県　持田多輝子

風化した無縁仏に花あげる
無骨でも強くて温い父のうで
肩書きを外して農にカムバック
私を軌道修正する句作
神在月貧乏神もやってくる
改革は見えぬが不況だけ見える

河内長野市　坂上淳司

ピーナツは酒の肴に隠す鬼
この豆は外国産と嗤う鬼
青春の切符楽しむ老い仲間
ミステリーツアーにちょっと気を惹かれ
ふる里の駅のポストはまだ丸い
墓石が揃いの雪の綿帽子

八尾市　寺川はじむ

色眼鏡外して見れば良いお方
散歩こそ宝と今日も老いにムチ
笑うこと増やして脳を軽くする
今日も飲む元気貰っている薬
流れ星過去を問わない青テント
順番が決ってるのか蟻の列

尼崎市　山田耕治

代役が棒読みにする感謝状
熟年のデート土日を避けてます
ぎりぎりに現れるのも芸の内
頭悪いおかげで悪いこともせず
オレオレを信じてくれぬおばあちゃん
飲んだ夜も揃えて脱いでおきましょう

堺市　齋藤　さくら

お互いに意地を張ったらええ勝負
好物の大福食べて仲直り
自分から夢は捨てぬと言い切った
雨の日は濃い目の紅で出掛けよう
ああそれも人生だった離婚した
あの人が来るので行こう同窓会

大阪市　田浦　實

パンの耳で舞ってくれますユリカモメ
納めるより税金食らい威張ってる
ばらまきは鼠小僧が上手かも
議員定数どうか仕分けを願います
伏魔殿覗けと酒が背中押す
酔っ払っても悪口だけは覚えてる

八王子市　播本　充子

いそいそとブリ大根を温める
どうしょうマル秘ノートが見当らぬ
まごころの介護儲かるものでない
最初はグーと無料宿泊券ゲット
世も末と言いつつ一票を投じ
中傷を溶かす男の厚い胸

愛知県　早川　遡行

禁酒する気など毛頭ありません
気の強い方に分がある車輛事故
それぞれの嗜好が分かるバイキング
おばちゃんのパワー全開バイキング
城島に再起を賭けるタイガース
年寄りに見られたくないサングラス

羽曳野市　吉村　久仁雄

忙中を知らない閑を持て余し
正座して人間臭を少し消す
前のめりに生きて猫背が直らない
火中の栗拾うやけどの跡の数
前略と記して水に流す過去
夫の座が針の筵と知る六十路

砂川市　大橋　政良

悪いところばかり気になる自己主張
人情の醗酵してる仮住まい
その涙必死で堪えるいじらしさ
風の絵の中で笑った仏様
どの辺に定規を当てる物忘れ
ふる里は屋根だけ出して雪の中

三田市　堀　正和

マンネリの献立ですね冬ですね
自家製のふろふき大根待つ銚子
悩みごとしばし忘れてバイキング
ここからはプライバシーとそっけない
平成と昭和の違い長い脚
怒ること忘れて恙なく暮らす

奈良県　天正千梢

点滴も五日続けば泣きとなり
おもんみる齢に不足はなけれども
八十年懺悔の仕方まだ知らず
うまい物毎日食べよ医者すすめ
病んでみて人の情けをひとりじめ
やまとにはまだこんな嫁いたんだよ

大阪市　井丸昌紀

いたずらな神が背中をそっと押し
気まぐれなヒト科脅えている地球
騙した夜喉に小骨が突き刺さる
同情にオゴリとルビを振っておく
父さんの禿げる素質を受け継いだ
忘れたい事はきっちり覚えてる

鳥取県　石谷美恵子

好物を知っててくれた旅みやげ
難点は承知で買った品に飽き
記念日の来る幸せに気がつかぬ
茹蟹はオヤツであった遠い絵よ
お茶飲んでお喋りをしていい気分
いい気分部屋中ランの香り満ち

神戸市　山田婦美子

音痴でも歌ってみたい酒の席
熱燗に胸のしこりが取れてゆく
ワイパーが疲れますよと雪の道
咳一つ美人の風邪は許される
辛い目に合うのも生きている証拠
文明の世に無縁死という地獄

堺市　大久保のん子

年とれば失うものに慣らされる
点滴がなおるなおると落ちてくる
驚きは朝の鏡の中の顔
こだわりを捨てると余生生きやすい
歳月が心の傷の妙薬だ
尊敬に遠い最敬礼がいや

美作市　山本玉恵

外地へ翔ぶ子へ愛の充電ままならず
卒寿まで生きて人生かえり見る
ひとつの嘘をジャブジャブ洗う水の冷え
まだ夢は捨ててはいない命とや
昨日も今日も嘘でなかった生きていた
逝く時はいとしい人の名を呼ぼう

西宮市　牧渕富喜子

冬ごもりもう一月が過ぎている
ふるさとの日の出の時刻きいている
筆入れの消しゴムだけがよくちびる
寝ころべば思考自ずと横になる
母の倍生きてははの絵かけずいる
いつ見てもお花にお水お地蔵さん

今日の恥明日だけ見つめケセラセラ
血圧を上げに嫌いな人が来る
さり気ない優しさ元気湧いてくる
金が無いのに何故か体重だけ増える
日々感謝優しさの中生かされる
欠点も個性と胸を張り生きる

箕面市　出口セツ子

足跡に水仙の香を残す人
冬の星座亡父の声を聞きました
土の中から目覚めの音がして二月
ハイタッチ手の温もりを伝えあう
五体満足まだしなやかに生きている
財源は消費税だと言うてはる

阪南市　森村美花

風上に立った景色にあこがれる
財産のひとつ悲しみ知っている
帰省して原始人化の国なまり
老の字がすりよる紅葉マーク車で
二本目の燗ビンにある妻の策
通夜説法僧ありがたき小声なり

堺市　和田つづや

溺愛が重荷ですよとひとりっ子
熟睡の老母の心音確かめる
有名校受験の絵馬が目立つ位置
あれこれと詮索好きな妻の酌
脚色して父母の出逢いを子に語る
カーナビにそっと教える恋の地図

大阪市　鶴田遠野

鎖より強くて脆い血の絆
薬にも人の口にも副作用
ちょい悪のほうの棒グラフが伸びる
死後の世界あると言ってるのはお寺
継ぎはぎをしてる下着が温かい
心ではいつも褒めてる妻の味

宇部市　平田実男

厄介な相談らしい一升瓶
同居した孤独は誰も気がつかぬ
疲れたか今日の夕日は元気ない
犬も人も足早に去る冬木立
木枯しに頬なでられてしゃんとする
一言が雪崩れて悔いる深い谷

松江市　津川紫晃

孫が来て覚えて帰るどっこいしょ
新しい花芽不況にさらされる
定説に少し反抗したくなる
いびきない男なんだか頼りない
斜に構え儲け話を聞いている
失速のコマに似ている我が家計

横浜市　菊地政勝

大阪市　津村志華子

肩の荷を下ろして手持無沙汰なり
思う事いっぱいあって忙しい
霊園の横がわたしの現住所
うっとりと見ればおかめになる鏡
深入りはしないで置こう傷になる

大阪市　奥村五月

定年後妻はのびのび僕萎縮
何もない過疎に変らぬ旨い水
威張らずにランク落としてお付合い
弁当が今日も駄目かと職さがし
ありがたみしっかり分かる妻の留守

大阪市　吉内タカ子

戴いた余生無駄なくコマネズミ
厄餅を貰いかたどる厄行事
もう立春趣味と介護に明け暮れる
留め置きも長寿保険に身が削がれ
冬晴れに窓開け放し部屋を干す

大阪市　岩崎玲子

北風が身も心をも塞ぎ来る
賽銭が届いてますか神仏
気の弱り人の言葉が刺さる日日
寂しいと母の好物食べている
樹や花の蕾見る度夢も見る

大阪市　小泉ひさ乃

男性を可愛くさせる飲む仕草
プライドも子のためになら捨てられる
贅沢を知らないままの箸二膳
立場違えど介護の知恵をもらい合い
辛口の助言を包むオブラート

大阪市　小糸昭子

うっかりと聞けば信じるマニフェスト
口癖はああもったいない　かなんなあ
子狸に間違えられるメタボ猫
基地反対どうする鳩の豆鉄砲
一日のうちの温度差身に沁みる

大阪市　岡本久峰

兵隊が好きで志願の奴もいる
兵隊嫌いまんまと検査免れる
スターリンに兵士の命奪われて
兵隊好き恩給貰いぬくぬくと
皮肉にも兵隊嫌い先に死ぬ

大阪市　近藤正

薄曇り月を映した手水鉢
青テント横で紅白花の宴
カジノ視察府民の役に立ちますか
オバマさん武器を売っても平和賞
やんちゃくれ竹馬の友が先に逝き

大阪市　吉村一風

脱サラの古いいくさを省りみる
炎えたがる火種大事に握りしめ
どん底でこそのぬくい手忘れない
そっと風吹いた小さな運にのり
人生の苦汁の味は忘れない

大阪市　松尾柳右子

水盤の花が迎えてくれた宿
ぷくぷくのある湯宿にて夢ごこち
寒風にお出掛け早くなる歩幅
テレビ欄先に見ている新聞紙
雀来る物干しなごむ春うらら

大阪市　大川桃花

土ついた牛蒡子芋に胸おどる
他人の句見れば何でもないような
ピカソよりうまいと孫の絵を褒める
比べたらきっと幸せ逃げて行く
憧れの初舞台です馬の足

大阪市　岩崎公誠

借りあって苦いはなしに耳を貸す
知らぬ間に十億くれたお母さま
万馬券味しめてから道はずす
博士号持っても学ぶこと残す
甘い汁吸って二度目の天下り

大阪市　萩原大朔

自慢の子いつの間にやら不肖の子
喜んで迎えておいて首を切る
名乗り出て貧乏籤を引かされる
落胆を歓喜に変えた差し違え
忠告を喜び合える友がいる

大阪市　小谷集一

満期まで生きたら損になる保険
淑女から魔女へと変える蟹の足
正論を吐いていつでも傷だらけ
名案も雑念もなく春うらら
貧乏な昔が古き良き時代

大阪市　原田すみ子

八百八橋逢うて別れて流されて
行く水を橋から眺め飽きもせず
虹の橋渡るつもりのメーキャップ
遠回りより丸木橋行くDNA
歩道橋元気さ計るバロメーター

大阪市　板東倫子

節分に土俵の鬼が去って行く
七億円黙ってくれる母が欲し
みなし児と化した小泉チルドレン
寒風に痩せファッションの女たち
何のために生まれて来たのハイチの子

大阪市　平嶋　美智子

お日さんに感謝お布団ふっかふか
極楽の境地に感謝風呂掃除
おトイレに赤い花生けありがとう
川柳に生きがいもらい苦も然り
生きてます先祖に感謝手を合わす

大阪市　川端　一歩

陽が昇るまるでベートーベンの顔
いい言葉拾った辞書を離せない
尊厳死家族論議でケリつかず
難民がいるのに武器の売りや買い
みながまん昔どこかで聞いたこと

大阪市　中村　れんげ

ブロックの割れ目にのぞく白い花
波静かわたくしなりの帆を上げる
おのろけを聞いては嫉妬する椿
全没よ友と乾杯はずみつけ
陽が沈む何もなかったかのように

大阪市　中村　叡子

日々変る気温に老いはただ黙し
こんなにも物が溢れて何故空し
馥郁と梅の香薫る大阪城
外国の日本苛めがじわじわと
適齢の人が異性を遠く見る

大阪市　江島谷　勝弘

悪いことせずに来たから金がない
うっとこは仏と神が同居する
今はもう忍の一字で同居する
今の子も竹トンボには目が光る
私よりみんなしたたか舌を巻く

大阪市　神夏磯　典子

いい返事待つ一週の長いこと
脱皮する皮がだんだん薄くなる
ピンピンの体で来はるヘルパーさん
反戦の唄ならすぐに覚えられ
メールメールばあちゃんかって忙しい

大阪市　津守　なぎさ

道端の小さい花にいやされる
丸かぶりする巻寿司に笑われる
鬼は外他所の豆まで掃く羽目に
ＣＭにつられた衝動買いを悔い
書く事は苦手お喋りならすこし

大阪市　坂　裕之

手を振って歩き出したい春間近
優しさが人の憂いを解きほぐす
悩んだら歩けば何か見えてくる
塩加減控えすぎたかボケてくる
パソコンが機嫌損ねて黙秘権

鼻の先指の先から春が来た
名のみの春桜時計は動いてる
中心をずらせば丸く納まった
新聞とコーヒー持って日向椅子
じゃまくさいめんどうくさいは許さない

大阪市　古今堂　蕉　子

約束があるから朝も起きられる
おはようの言葉で終るわだかまり
ドア開く飛び込んで来た笑い顔
翼つけ今日も行きたい彼の元
すばらしい嘘ついた時悲しくなる

大阪市　榎　本　舞　夢

永田町濃淡無限雲が湧く
どうしても点と線とがつながらぬ
走り根が支える大樹に鳥育つ
図書椅子を和ましている菜の花忌
それぞれがネガティブ野次の永田町

大阪市　桑　田　ゆきの

言い負けて硬い顔して皿洗う
蟻の列サボるやつなど見当らぬ
懲りもせず掘り出し物を狙う妻
空腹に妻の手料理星三つ
行儀よい寝相で怖い夢を見る

大阪市　伏　見　雅　明

日本が好き日本語で笑ってる
時間という厄介物に走らされ
欠点を長所と誉めてくれた友
納得をしてきみまろに酔っている
尽すのが幸せですと思ってる

大阪市　榎　本　日の出

子は何時か親の視野から遠ざかる
最後まで飲んべエ残るクラス会
胃カメラが癌のサインを見逃さず
原価割る仕事子育てやっと終え
雀百までピーポを見に走る

大阪市　川　原　章　久

旧婚のご旅行らしいペアルック
大根の首はね今年の寒終わる
お互いに安否きづかう長電話
まだ若いつもりの妻の春化粧
焦点が少しぼけてる妻のグチ

和泉市　横　山　捷　也

一と月の入院横道逸れただけ
背の丸さ妻に諭されシャキッとする
迷う事有りませんよと老い進む
嫁さんと娘のお蔭生き返り
心地良い寝起きに朝を感謝する

和泉市　西　岡　洛　酔

泉佐野市　山本蛙城

負けるから喧嘩しないと決めている
お互いの弱さ知り合う友がいる
血圧が不安興奮などしない
あのころのこの日は紀元節だった
どこででも乾盃役の歳となり

交野市　森本弘風

キャンプ中だけは日本一のトラ
今岡も千五百万なら高くない
検察は不起訴と決めてハイ終り
今朝もまた元気な僕を見る鏡
今日は奈良明日は大阪惚けられぬ

河内長野市　植村喜代

悪い人ばかりが目立つ国になり
いい人もいるだろうのに淋しいね
一日が大事言いつつ無駄に過ぎ
昨日と今日変らないのがよいのかも
年と共寒さ暑さが辛くなる

河内長野市　村上直樹

愛車には青葉枯れ葉をまえうしろ
傘寿越え記念コンペが相言葉
寒月を浮かべて酎のまわし呑み
地図となり杭ともなった親父の背
ピンコロリ鍵は節酒か信心か

河内長野市　黒岩靖博

傑作を残して去った謎の絵師
夢心地で美女に誘われ罠におち
浮かぶ人沈む人あり世は無常
寒風に漁り火の舟見え隠れ
ポスト受け広告物が幅利かす

河内長野市　井上喜酔

生きるのも芸術人生ねばり抜く
努力した老いのパソコン気持よく
話しかけペットの機嫌とる娘
贅沢な知事の我儘そこまでや
傘寿越え先を読むのが怖くなる

河内長野市　山岡冨美子

地位協定びみょうに揺らぐ嫁姑
メイドインチャイナわたしを包囲する
わたくしのへそくり目減りさすオバマ
韓流のドラマにわたくしの昭和
持っている人ほど渋くなるらしい

岸和田市　堤楢代

これしきと思うが歳に勝てません
コマーシャル サプリメントでぎっしりと
警報器鳴るほどまでに鰯焼き
ぜいたくな暮し感謝を忘れさせ
素人が巻いたか太いかぶり寿司

岸和田市　原　さよ子

川柳に親しむ余生羨まれ
仏壇に話し気のすむ老いの愚痴
デパートの孫の根気につきあえず
ぐっと手を握ったままのもらい泣き
一言が暗い尾を引く検診日

岸和田市　米富淳風

一日が無事に終った夜の安堵
突き詰めてやがて落ち入る自己嫌悪
醒めた目で下界見下す冬の月
昨日より今日が良かれと願う朝
朝食が美味しいことに感謝する

岸和田市　雪本珠子

夫婦でも心の動き読み取れず
若かった幸せの色気が付かず
愛猫に励まされてる老いふたり
マイペース風向きなんか気にしない
作句にもちょこっと入れる隠し味

岸和田市　井伊東吉

勝ち組のトヨタ世界に狙われる
国会は政治の二流写し出す
国政は知らなかったで済まされぬ
寝不足をまたもや誘うバンクーバー
褐色の庭にちらほら緑増す

岸和田市　土橋房枝

つけまつげパタパタと風が来る
ファッション誌さながら若い娘たち
草食系イケメンだけど金欠病
生きざまを見せているよな丸い背な
マスクは便利スッピンだって謎のまま

岸和田市　岩佐ダン吉

人の世よ長さを選ぶより熱さ
浮き沈みどれだけ助けられたろう
輪になろう皆ながら見えてきませんか
笑みばかり母は遠い人になる
反省と今日も三回書いている

岸和田市　森元ふみよ

一筋に励んで来た顔神々し
異世代の若人進む道けわし
あちこちでエコバック買い置場ない
エコエコと唱える父は蚊帳の外
昭和初期エコより凄い物資ゼロ

堺市　志田千代

はばからず杖をついても歩きたい
女ごころ熱燗の句もちりばめて（いわゑさんの句集によせて）
飲みっぷり褒められてもみたい女
出合わねばよかった初恋の人に
つれ合いをけなす幸せだったころ

大根も柿も干されて増す誇り
妻に客僕は放牧されました
コンビニへ笑顔も買いに行くひとり
話題またサプリメントの同期会
力士には品格議員には人格

堺市　柿花和夫

お月さま昨夜いとこが死にました
月冴えてこどもに戻るあねいもと
三日月は師を偲べとて細くなる
初体験ばかりの中で子は育ち
お土産の同じ匂いのバスの中

堺市　山本半銭

木に耳をあてて芽吹きの音を聞く
好物をのせてお皿が威張り出す
半分は自分に向けている咎め
未練げに見送る親へあっさりと
一日が終わり二人の大あくび

堺市　宮本かりん

散歩コースに梅園のある幸せよ
曇天も良し梅の香に包まれる
輪唱の蛙の歌に引き込まれ
そこのけとロボット掃除機が通る
消費税に加担している浪費癖

堺市　源田八千代

ハローワークニュースで聞いたほどじゃない
八百万の神にもあるよ得手不得手
担当じゃないお受験も祈願され
犯罪も男女均等らしくなる
僕よりは頭よさそうオバカキャラ

堺市　加島由一

葬式のたんびにひねた顔揃い
同病の人より軽く気が休む
小遣いが足らんくらいに遊びたい
表裏なく頼りにもならぬ人
嬉しさを顔に出さずにおれぬ人

堺市　奥時雄

年末の頑張りたたる年始め
腰痛へ膝を抱えた寝正月
夫婦でも人の痛さは通じない
MRI楽な姿勢の辛いこと
耐え兼ねて紛らわしてる鍼灸院

堺市　荻野像山

豪雪の予報かわいい雪だるま
威勢よい声に寿司ネタ蘇生する
お寿司屋で妙なプライド出て困る
また寒波箒逆さに立ててやる
何ひとつ不自由ないと言う辛さ

堺市　大隅克博

堺市　村上玄也

見直してみても気付かぬ誤字脱字
経歴を喋りついでにプチ自慢
親元を離れたままの出世魚
聞き流す振りして胸に刻み込む
未来より過去が大事なお年寄り

堺市　西村りつえ

心技体心に躓く朝青龍
福は内鬼より怖い病蹴り
平凡に事件の外で生きてます
纏わずに凜としている冬木立
苦虫よりストレート投ぐ人が好き

四條畷市　吉岡修

ペットが来るいよいよ僕は自立する
親の顔見たい言うなら私です
まぜかえす程度の頓知なら出ます
母が言うた運の強い子なのだボク
もう二度とホールインワンしたくない

吹田市　山本希久子

余生いま世間は花の真っ盛り
あわただしく舞い終えました舞台裏
真っ二つの意見中間ありません
春風にひらひら噂飛んでくる
てのひら開いてこだわりを捨てる

吹田市　太田昭

妻の名が出なくなったらどうしよう
ユニクロで身丈に合ったお洒落する
さん付けを呼び捨てにして酒を酌む
産んでやったと親が勝手な恩を売り
バーゲンの服を見せ合う立ち話

吹田市　瀬戸まさよ

苦しまず死を迎えたい口揃え
山並みも朝昼夕と変わる顔
温室のトマトイチゴに個性無い
朝青龍大好きでした淋しいね
六十の定年プラスもマイナスも

吹田市　木下敏子

ひと言を控えて丸く泳いでる
梅一輪咲いて隣と立ち話
まだ若いつもりでペダル踏んでいる
美しく老いる勉強難かしい
おだてられ調子に乗って舞うとんぼ

吹田市　野下之男

一つだけ足りないものに気が付かず
ヤジだけが元気だしてる永田町
寝た振りを許してくれぬ妻の声
戦友はこんなものかな老い二人
好きな事言うてオウムも良い気分

高石市　浅野房子

梅ほころび少し日足が伸びてきた
虎の尾を踏む思いです告知以後
決心が付いて歯医者に行くことに
あちこちが痛み出したら加齢だよ
無駄なことみんな省くと味気ない

高槻市　峯村勲弘

春一番たすきを渡し寒波去る
予報士は美人似合わぬ雨模様
過ぎ去った過去一瞬の走馬灯
腹を据えじっと検診結果待つ
母居ないその日暮しの鳩も居る

高槻市　井上照子

お詫び状下手でもせめて筆ペンで
一時間歩くと決めた雨の日も
高齢者小さくなって席もらう
同居して動ける間自炊する
郷に入り従うことのむずかしさ

高槻市　杉本義昭

窓際になって緩んだいい笑顔
ピヨピヨピヨ今車椅子渡ります
座禅組み心の鬼を黙らせる
いい年になれどつっぱる欲の皮
ポンコツの体にキーを入れ走る

高槻市　乙倉武史

大見得を切った手前のマニフェスト
身から出た錆横綱棒にふる
角界のゆる褌締めろと貴の花
ベランダのミニ園芸で老いの春
退屈という贅沢を敵にする

高槻市　佐甲昭二

それなりに歯ごたえのある冷奴
あの人に出会って運が向いてきた
風向きを気にすることもない無職
結び目が少しゆるんできた夫婦
秋晴れに家族全部が干してある

高槻市　左右田泰雄

本心は胸にたたんで知らん顔
日本語をこわす言葉が情けない
チャンネルをくるくる回す冬炬燵
せかせかとあくせく通り過ぎた過去
欲ぼけが仕舞い忘れを悔んでる

高槻市　富田美義

如才ない稼ぎで暮らし整える
老いへ風吹いても姿勢崩さない
奇跡的いのちと生きる恐ろしさ
絞りにも絞った俺の通夜の客
大法螺を吹いても叱責ない歳に

高槻市　生田義一

政治と金トップ二人がふらふらに
大相撲またも国技の名を汚し
やんちゃくれ度が過ぎ遂に居場所なし
お目出とうところであんた誰だっけ
初春の一番風呂だ軍歌出る

高槻市　安田忠子

華やかにフラをしながら食事会
カニツアー波の花とぶ越前路
温泉とご馳走攻めで風邪治る
ツアーバス帰りはみんな眠りこけ
怪我越えて十七年の金字塔（魁皇幕内通算最多勝記念）

高槻市　執行稲子

流された怖さの記憶蘇る
潰されたメロンお味はでも最高
ピンポンと押して神様売りに来る
ころころと笑う子声色満点だ
紅葉の手また増えました嬉しいね

豊中市　松尾美智代

窮屈な中でまあるく暮してる
知恵くらべ今日はカラスに負けました
忙中閑ゆっくり友の句集読む
寒中見舞頂き友の病知る
つくづくと元気が嬉し深呼吸

豊中市　水野黒兎

不景気な港のクレーン大あくび
毎日が本場所妻の台所
時により聞こえないふり聞いたふり
ゲンコツの味を知らない平成っ子
点滴は今日で終了雨上がる

豊中市　藤井則彦

方便の嘘は信じるふりをされ
ミス庇い過ぎるコーチは疎まれる
逆境には我を信じて生きるのみ
空気にもアンモニアにもなる夫婦
鏡見てはまだ毛があると胸を撫で

富田林市　中井アキ

遠くから祈るばかりの守り札
補聴器が好きな昭和の恋艶歌
エスカレーター手を繋いでる杖ふたつ
可愛くてつい買い過ぎるミニトマト
束にして残してあったラブレター

富田林市　稲川惠勇

末席に慣れて野心が陰りだす
疎開地が芋づるの味覚えさせ
おっとりと構えていたらだし抜かれ
神様にもいじわるが居て福が来ぬ
老いの坂喝采はまたあきらめず

富田林市　大橋鐘造

名刹を残す匠の道具箱
そろそろへ墓のカタログ取り寄せる
一呼吸おけば素顔が見えてくる
汚されぬ何時かは神とつなぐ手だ
それぞれの掟で暮す自尊心

富田林市　片岡智恵子

寒暖の差に健康を試される
お互いが命綱かも老いふたり
いい加減がよい背のびせず欲張らず
朝寝坊の理由が違う冬と春
犬しゃがみあきらめて待つ立ち話

寝屋川市　冨山ルイ子

淋しさを心の隅に押しかくす
膝小僧抱いて独りの夜を過ごす
長所だろうか誰にでも声かける
温かい家族と共に老い過ごす
母の年百まで生きたらどうしよう

寝屋川市　籠島恵子

春よ春心の疵も芽吹き出す
てにをはを変えて前進いたします
謎なぞが解けたばかりに寒くなる
言い切って欲深い私を晒す
そうなんやちょっと丸さが見えてくる

寝屋川市　森茜

絵手紙の虎がしょぼくれないように
ひびわれをきれいに閉じた陽のぬくみ
辛抱を笑顔に変えた母の皺
言い過ぎぬように冷たいお茶含む
ひきだしの隅にも氷雨降っている

寝屋川市　太田とし子

イケメンの孫にこんがりパンを焼き
湯タンポを譲る切ない猫の髭
スンナリと手足を伸ばす朝の風
朝取りの野菜に恩を着て温い
一ぱいの地酒で親と子の会話

寝屋川市　森田麗

テレビから今日の満月教えられ
冬寒の満月ちょっと仰ぎ見る
犬が逝き怠け癖つく万歩計
正直な手が夫の背に鬼は外
赤い実が啄まれてた今朝の庭

寝屋川市　平松かすみ

児童からきれいに書いたお礼状
思い出はみんな私の宝物
ああ遺影森繁さんの白い髭
毎日が発見二歳児の目玉
和服着て一人前の顔になり

念願の老後安泰当て外れ
正直な人の予感はよく当たり
悪友に学んだ無駄が生きてくる
パスポート大阪弁で押し通す
性格の全く違う無二の友

羽曳野市　酒井一壺

呼び名まで昔のままのクラス会
誕生日喜ぶ齢はとうに過ぎ
合併で歴史に残る名前消え
太陽の恵みまだまだ無駄にする
シンプルが何より便利お年寄り

羽曳野市　永田章司

花束に囲まれている有頂天
眼鏡手に眼鏡を探す四月馬鹿
心の中見透かされそう目をそらす
いたわりが過ぎたか花が萎えている
咳ばらい父は居場所の誇示をする

羽曳野市　安芸田泰子

残念は嘘に呑まれた真人間
就活を励ます父も職がない
捨てるかといえば鳴り出す古ラジオ
杉花粉山もお化粧直しする
わたくしも土筆蕨もズンタッタ

羽曳野市　徳山みつこ

リサイクル親の形見は捨てられぬ
我が家の紋は帛紗の中で知り
アルバムに残っています過去たんと
本籍はまだ置いてますふるさとへ
一人舞台自由時間を独り占め

羽曳野市　福田悦子

息切れの私を笑うカメの足
単調な幸せでよい砂時計
入門をしたが出口が分からない
大阪人はがめついなあと戎さん
依怙贔屓しすぎと思う福の神

枚方市　海老池洋

定年後背広ネクタイ欠伸する
楷書から草書に変える定年後
熟睡をする人明日を信じてる
週末は鍋を囲んでいる絆
おでん鍋やっぱりコップ酒がよい

枚方市　寺川弘一

孫来たりおもちゃ散らばる三箇日
陽だまりを受けてベンチに病む右手
朝食をすませ聞き合うスケジュール
呑みほした酒へやめたとコップふせ
名前呼ぶ妻が元気でいてくれる

枚方市　二宮山久

枚方市　伊達郁夫

神様の設計通り生きてます
百点と声から先に戻る孫
空いている道を急いだ行き止まり
あの時のまだ返せない電車賃
燃えるゴミ実は私もそうなんだ

枚方市　小林わこ

背丈みな伸びて谷間にいる私
寂しいな友の背中が遠ざかる
ことば一つ心ぐんぐん温める
人柄の良さにぐんぐん魅きこまれ
ゆっくりとレモンを噛んで脳に喝

枚方市　二宮紫鳳

ランドセル　スキップルンルン雪が舞う
孫二人両手に花で添い寝する
大吉をひいてイエスと決断す
六十路坂心のナビがへそを曲げ
欲少し捨てたゆとりがここち良い

枚方市　安達忠央

夕焼けに明日があると教えられ
スタートのみな自信ある面構え
居酒屋の隅ぐちりあう三次会
敬われ立居振舞い気が抜けず
怒られて怒られてまた腕上げる

枚方市　丹後屋肇

寝入るまで面影を抱く寂しがり
仏恩に供える冷えた缶ビール
手袋の片方拾い木に吊す
節分の善男善女奪い合い
老衰で眠れる如き死を夢む

藤井寺市　俣野登志子

携帯と鏡両手に降りるまで
姿見をちょっと覗いてゴミ出しに
メガネのための鼻筋ほしい親ゆずり
愚痴のろけ何でも言うて笑う仲
空席にヒップが思案ご迷惑

藤井寺市　津田シルク

銀行のカメラにちゃんと顔を見せ
鬼も老いまかれた豆に足とられ
老婆心だけど野暮だのダサイだの
無洗米ネイルアートの指が買う
桜咲いたに飛んで行きます熨斗袋

藤井寺市　若松雅枝

森羅万象朧の月に浄化され
十指皆動いて今日も無事終る
義理からみ里も気楽に過せない
同病と聞いてベンチで握手する
ダイエット意志薄弱と思い知り

藤井寺市　増井ヨシ枝

暖かくなれば逢おうと言う便り
遼くんがきくと言うからルルを飲む
里帰り大和の茶粥うまかった
春だなあ出合い頭に欠伸くる
恋人のように命日僧を待つ

藤井寺市　太田扶美代

受験子へ気合いの入る台所
胸おさえいやいやこれは言わんとこ
伯母と兄連れもって逝く無人駅
健康食という名で売っている粗食
知らないでいた幸せに感謝する

藤井寺市　伊藤アヤ子

これからもぶれずに生きる夫婦道
寒明けて水仙の花日向ぼこ
豆撒いて早く来いこい春よ来い
痛いとこだらけの体持て余す
爆弾を抱えて明日の夢を見る

東大阪市　北村賢子

鳥たちも三三五五と寄る夜明け
なにごともほどほどが良い今悟る
気づかいのつもりはないが疎まれる
ありがたい昨日と同じ朝が来た
いま悔む無駄に過ごした若い日日

東大阪市　佐々木満作

卓袱台を囲んだ昭和遥かなり
ワンデーパス安くて名所巡る旅
訳有りの野菜にもある自己主張
国の長手前勝手な言い逃れ
司馬遼の人気益益菜の花忌

東大阪市　米田水昇

齢を経て日毎消えゆく漢字たち
ナツメロにあの日あの人よみがえる
金銭でうめき声立つ国会よ
鬼ごっこした友達は夢の中
胸にすむ鬼さんたまに顔を出す

箕面市　広島巴子

花便り浮き浮き足が動き出す
恋心春風に乗りやって来る
バレンタイン夫婦黙ってチョコを食べ
何型か知らぬが風邪に少し負け
寒暖に弄ばれてノックダウン

守口市　井上桂作

孫連れて花月漫才笑いこけ
国思う竜馬の話胸を打つ
春ですね心の憂さを晴らしましょう
春まぢか水仙を見た淡路島
心配をかける子供はまだかわい

八尾市　村上　ミツ子

虹を見る何かいいことありそうな
掃除機が春のハミングきいている
絵馬に書く文字はきちんと辞書引いて
蛸置いて合格祈願しています
腹立てて得することは何もない

八尾市　髙杉　千歩

不言実行身にしみている八十路
メモ用意前頭葉に喝を入れ
物欲も食欲も失せ日々愉し
ワンテンポずれた同士でウマが合い
大正と昭和マニフェスト信じない

八尾市　笹倉　ひろし

基地不況小沢で明けた三重苦
生活保護受けになにわへ移住する
大声で通り過ぎ行く中国語
ベテランは一つ勝ち越すコツを知り
国会と成人ドラマ児に見せず

大阪府　澤田　和重

お礼などいらぬと言えばそれっきり
返杯が欲しくて注ぎにゆくお酒
気弱な日妻に頼ってばかりいる
うっぷんを晴らした顔で出るのれん
休んでも支障がないと労られ

大阪府　籾山　隆盛

初夢や歌会始め招かれる
追憶の恋ほんのりと咲く未練
わすれな草の香りをのこす消えた恋
地に還るいのち安らかなる眠り
あんたより一日遅く逝くという

大阪府　野田　栄呼

週三回リハビリしても拗ねる腰
喜寿悶々どうなるでなくどうするへ
介護などしないされない思い遣り
紫にたそがれていく人生観
ファッションに気遣っている喜寿の艶

大阪府　米澤　俶子

待ったなし時容赦なく小走りに
如月の生まれで倍の寒がりや
冬将軍去るのをじっと待つ二月
我が家忘れたら外出控えます
幾度となく眺めて飽きぬ諭吉さま

神戸市　田中　章子

ふっくらと冬の雀の愛らしさ
手で顔で言葉伝えるフラの風
無理してる両目笑っていないから
風邪ひけば一つ覚えの卵酒
留守中の家内はなにをしてるやら

眠れない夜は句作も行き詰まる
睡魔には負けてあれこれみな明日
見直せばいいことたんと身のまわり
歳重ね鈍感力を力とし
コーヒーを濃目ケーキで喝入れる

神戸市　山口美穂

新妻の顔は幸せこぼれそう
凡人に詐欺師の顔はできません
惜しみない拍手で送るハネムーン
おめでとうと引きさがれない怒り肩
溜息をついても赤字儘ならず

神戸市　山口光久

しておけばよかった事は数えない
病床の友と一緒にハールヨコイ
漢字パズル自信持ったり失くしたり
御自慢の酒器に水仙匂わせる
冬のソナタ三回目でも涙ぐむ

神戸市　木村貴代子

野党慣れしない自民の脇甘い
受診カード夫婦で数を競い合う
たっぷりと蜜を塗ってたマニフェスト
栄転と左遷の花は区分けする
春一番ビルの谷間で帽子追う

神戸市　伊勢田毅

やり直しきかぬ人生急ぐまい
舞い下りて鶴風格のある歩幅
八起き目の汗へやさしい神の愛
四捨五入ここにも人の運不運
一合の晩酌明日の起爆剤

相生市　中塚礎石

朝ネジを巻いた分だけ動く脳
生きていることの証か税取られ
泥吐けば素直に書ける顛末書
飛んだけど妻の手のひら降りただけ
未来ロボ飯風呂寝るか聞いてくる

明石市　糀谷和郎

十七歳たまご御飯を流しこむ
流行り風邪のように少女の恋終わる
未来図の修正をする冬の底
カロリーオフ一品添えるお献立
冬のバラ凛と存在主張する

尼崎市　長浜美籠

京の移ろい画報でめぐる冬籠り
ほっこりと千両万両庭灯す
ゆきずりの風に想い出ゆらゆらと
夢か幻夫が添うていてくれる
生き過ぎたと友の電話に何をか言わん

尼崎市　春城年代

尼崎市　軸丸勝巳

静養と格好つけて冬ごもり
歳の数腹一杯に福の豆
冷蔵庫正月の餅ぐずり出す
待たされて日当ほどの還付金
贅沢は敵だとエコが叫んでる

芦屋市　黒田能子

シャワー全開わたしは何も聞えない
幻の夢を見ている宇宙船
玄関の一輪差しが出迎える
近隣の誰も知らない家族葬
どうぞどうぞ一つの席が空いたまま

伊丹市　山崎君子

胡蝶蘭春を告げます花三つ
ろう梅のつぼみも黄色春を呼ぶ
腰痛にひとりで泣いて亡母の夢
今朝の雪庭は真白花あわれ
のど自慢九十歳の声量よ

川西市　米原雪子

珍しく積った雪に予定消え
何時までも解けぬ疑惑がじれったい
亡き父の年に来て知る深い愛
失敗を見て見ぬ振りも難しい
鈍くなり友の気遣い知らず過ぎ

川西市　西内朋月

見渡せばがらくたばかりある我が家
主治医から釘をさされて逆らえず
血圧と喧嘩している酒煙草
春夏秋冬理由を付けて飲んでいる
罪のない色気話で盛り上り

加西市　金川宣子

晴れ舞台辛苦も混ざる笑顔みせ
夫連れて預金引き出す夫名義
ウグイス餅五感が急に動き出す
若夫婦頼りにされる老いの知恵
娘の説教聴いて悪酔いしています

三田市　北野哲男

水仙も一本添えて蟹届く
犬掻きで句会遊泳しています
神仏を敬う割に賭けが好き
今日からは姑になる裾模様
不機嫌なわたしの前で大あくび

三田市　臼井二英

相部屋に運不運あり大イビキ
大イビキ本人だけがカヤの外
高イビキ他人眠らせずよう寝るな
むかしなら寝首刈られた大イビキ
ヒョッとしてボクもかくかも大イビキ

三田市　上垣キヨミ

節約が下手でケチにはなり切れず
親友にカギは要らない勝手口
辛口の友の意見に目が覚める
献体で世に恩返しするつもり
初恋はケシゴム借りたあの日から

三田市　久保田千代

美意識過剰躓いてばかりいる
涙した日から強さも優しさも
自分史に秘めてることが二つ三つ
頑固さと白髪だんだん増してくる
好きだった胃腸薬をもお供えし

三田市　石原歳子

いたずらに集中してる孫静か
揚げ物の真っ最中に鳴る電話
酒飲んで酒にのまれて楽しそう
直ぐ売れる静かなブーム自然食
晩酌の時間待つのも楽しみだ

三田市　福田好文

粗相した犬がしょぼくれ目を外らす
羽振りよい男二次会取り仕切る
年金の悲鳴知らないランドセル
一人旅隣の席は美女と決め
少子国次次消える遊園地

西宮市　片山忠

ラブシーンなんか縁ないひとつ屋根
適当に聞くまだ現役という話
放っといて下さいひとりで注げるから
第六感働き前に進めない
バリアフリーそんなことまでしなくても

西宮市　緒方美津子

節分は豆撒きよりも恵方巻き
少子化で草食系の鬼が増え
うふふふふ風邪のマスクに歳かくれ
庶民には信じがたいが八億円
厨に灯けんかの出来る妻が居る

西宮市　山本義子

自己流で青竹を踏み肉を食べ
ゆきどまり投げ出した趣味五つ六つ
それなりの三味線いまや部屋の隅
わがマニュアルその日その時風次第
自己流に脳かきまぜて生きのびる

西宮市　秋元てる

しなやかさも一匙ほしい若いママ
来年も此処でこうして花見しよ
シミ一つない大空が怖くなる
磨崖仏は草茫々がよく似合う
また寝にも叱る人なし今朝の冷え

西宮市　藤本　直

バリバリの元気な友の訃報聞く
宝くじ当りそうなる春が来た
ハイハイと二つ返事が癖になり
鍋一つ絆の在りか確かめる
鉛筆が老いの加速を少し止め

西宮市　亀岡哲子

早とちり祖母に似た子がいとおしい
雪分けて恋路辿ったことがある
音もなくハイブリッドのお通りだ
兄弟にスーツ着る職着ない職
エイ・ヤーと生きる力で立つお尻

西脇市　七反田順子

有楽町イメージソングだけ残り
水仙郷一望千里の海景色
雨の日は古いアルバム捲ります
年齢は括弧に入れて若返る
美人の湯その気になってポーズする

姫路市　古川奮水

保育器の中で二世が欠伸する
白旗に気付かぬ妻が焦れったい
水仙の蕾目覚める磯の風
バンダナを振りふり別れ里の島
鹿を呼ぶホルンが響く奈良の春

奈良市　米田恭昌

大トラの調教幹事慣れたもの
福相に騙され添うて五十年
風見鶏の変り身早い処世術
わだかまりとれて酒酌む俺お前
恐いもの見たさに覗く女風呂

生駒市　飛永ふりこ

祈祷されふんわり後光立ち上り
五色豆ぽろりぽろりと数え歌
ハートフル手作りチョコはあなただけ
別腹が甘い顔してリバウンド
父母達のえらさ自分を律しきる

香芝市　大内朝子

浪曲を聞きつつ偲ぶ父の膝
アメちゃんを持っていないと落ちつかぬ
プライドがちょこちょこ顔を出す元気
道草をいっぱい食べて来た器
鍛えられ開き直りの術を知る

橿原市　居谷真理子

うつしみを包む形見のスカーフで
君からだケータイ青い色で鳴る
ゆっくりと白湯を含んでとかす棘
遠い日の餅が教えたカビの味
守られて夕べにともすお灯明

こころ変りとうに知ってる寒の月
歪な愛斬りつけてくる鎌の月
この辺で言っておかねばならぬこと
手始めに奥の引き出し空にする
覚悟の上始めています旅仕度

橿原市　安土理恵

行雲流水自分探しの春遍路
春霞土筆がそっと喋り出す
花ごしらえ修二会の僧にあるドラマ
愛はまだ言葉に成らぬおぼろ月
五体満足今日も母さんありがとう

大和郡山市　坊農柳弘

人ひとり許して浴びる花吹雪
花の下で誓った恋はもう時効
老いの恋肴に弾む花見酒
優しい風待つたんぽぽに夢がある
友の助言少しねじれて聞いている

奈良県　渡辺富子

水仙の清楚に初春を迎えられ
喜怒哀楽天秤にかけ生きている
生い立ちを聞けば目頭熱くなる
風向きがどうあれ今日の米を研ぐ
誘われてうきうきしてるコンパクト

和歌山市　玉置当代

風を追いゆめ追い求め踏む大地
心に杭打って女は立ち直る
茶柱へ気合いを入れて朝の靴
海の蒼見詰め直して生きようか
ジャズに酔い涙を過去にして女

和歌山市　松原寿子

思い出を惜しむ時間に虹かかる
ふるさとの流れに浮かぶ母の影
面影を心の糧に福寿草
釣竿に亡夫の面影見えかくれ
母の名で私を呼んだ里の道

和歌山市　松尾和香

長蛇の列待たせ小銭を出すお客
その話前にも五六回聞いた
認知症他人事とは思えない
玄関へ見知らぬ犬に居座られ
心を鬼に餌やらないぞやらないぞ

和歌山市　田中みね

踏み込んだ話は距離を置いて聴く
欲ひとつ離して楽になりました
賛成の意見に誘う屋台酒
寸分の隙もないから湧く疑問
したたかな女主張を裏返す

和歌山市　喜田准一

和歌山市　古久保　和　子

株分けを頼んでからのおつき合い
裏山の梅は咲いたか父卒寿
三日目の鍋で白菜くたびれる
無駄な汗流した頃が宝もの
バス停の夕日に溶けてしまいそう

和歌山市　武　本　碧

会えばすぐ挨拶抜きで酌み交わす
降ってきたチャンスは素手で掴まえる
役果ててまでも案山子の一本気
元彼もカップルだった初詣で
一日を丸く治めて明日を待つ

和歌山市　福　本　英　子

スケートもゴルフも囲碁も若返り
平均寿命へやっと届いた長い途
戒名を二つ戴きまだ逝けぬ
雑用に追われ死ぬことつい忘れ
侮った初級クイズに夜が更ける

和歌山市　堀　冨美子

転ぶ度膨んでいく知恵袋
病める日も笑顔でタクト振っている
悩む子に祈りの深い母で居る
嫁姑越えて苦労を分かち合う
リタイアのあとも土日の寝坊癖

和歌山市　坂　部　紀久子

ハードルを五センチ下げた気のゆるみ
新築の部屋で不自由ない孤独
入歯洗う見栄も女もそこに無い
当選へ一番違いで恙無く
五臓六腑プラス志向へセットする

和歌山市　岩　本　美智子

年の数豆食べ入れ歯折れました
節分に鬼追い出して淋しいよ
福寿草寒波訪れ竦んでる
寒空に呆けているのか木瓜満開
粕汁にほんのり頬を染める下戸

海南市　堂　上　泰　女

嫁さんを誉めて息子を喜ばす
夫活けた花と会話をしています
バレンタインデーに婚姻届出す
スリムになって美しすぎる冬木立
嬉しくて自慢がしたい嫁が来る

田辺市　岡　本　昇

国会のやりとり攻めと逃げでチョン
ひょいひょいと登れそうです逆さ富士
温暖化慌てふためく蕗の薹
誘い水して開けさせる知恵袋
枯れ野原銀色に染め霜降りる

鳥取市　岩崎　みさ江

道草も無駄ではないと言える齢
生き延びる知恵を生きものから学ぶ
虎になる夢から醒めた猫である
ふところの深いところに棲む情け
如月の坂を越せずに友が逝く

鳥取市　池澤　大鯰

ポケットにペン勤めのならい今も生き
文鎮は河原で拾った石がいい
専用の原稿用紙在庫あり
わが机上たいていのもの予備がある
葉書サイズスケッチブック持ち歩く

鳥取市　山宮　愛恵

朝一の笑顔鏡に見てもらい
読み書きも泣くのもみんな台所
何時かはきっと腹から笑う時がくる
雪しんしん心が内にむきたがる
降り続く雪にロマンが吸い込まれ

鳥取市　岸本　宏章

五輪迫るバンクーバーに雪よ降れ
正直なハートが顔に出て困る
政治家は平気で赤字予算組む
雪国に冬の星座は縁がない
田舎にも墓石のようなビルが建つ

鳥取市　岸本　孝子

春到来わくわくさせるキャンプイン
告白をハートのチョコにギュッと詰め
おめかしに爪の化粧も忘れない
ひまつぶしテレビショップが丁度いい
食い意地が張っても思うダイエット

鳥取市　池原　天馬

黄砂来る花粉症出る春がきた
もったいない倅のセーター古希で着る
今日までに八万回も食事した
昼畑夜風呂で死ぬ最高だ
税申告半日かかる村に住む

鳥取市　奥谷　彩子

ひんまがるスルメあぶって囲炉裏酒
ほろ酔いにくの字くの字の雪の跡
スーパーで妻とかご持ちぬれ落葉
二ン月逃げ三月子等の巣立ちみる
することがある今日もいい日になりそうだ

鳥取市　宮脇　道子

天敵を知らずに鳩は馴れ遊ぶ
生きた道無駄を残して身は軽い
薬漬け効いた薬が解らない
美味いもの制限されて自棄で食べ
孫達は祖母のふところ狙ってくる

鳥取市　横田春名

子沢山産むたび太る肝っ玉
姑さんイエローカードうまく出す
タレントの火の恋花火見てるよう
老いの身に啄木の歌悲しすぎ
曽孫のおむつニコニコ取り替える

鳥取市　中村金祥

美人の湯何度行っても同じ顔
定年へやっと迷路が抜けました
引退へ男の美学などはない
花回廊自信に満ちた花が咲く
単身赴任伯耆の峰が迎え入れ

鳥取市　福西茶子

思いやりあしたも少し足して生く
老人会はつらつとした人ばかり
ときめきが次から次にあり無職
一日を気ままに生きている無職
なれそうでなれぬ無色に憧れる

鳥取市　平尾菜美

願うのはすてきな別れアロハオエ
道端に身ぶり露な御婆さん
爪に灯をいつか大判振るまいに
履いている二足わらじにひげがある
企画する嫁と背合せゴマをする

鳥取市　鈴木公弘

具がとても気になる安いちらし鮨
減量に役立つチョコをくださいな
因幡屋さんの鼻猛烈なアレルギー
拳骨を開いてみたが無職なり
賛成の挙手が義理だと言っている

鳥取市　田村邦昭

大海を知って小さき己知る
少年の小指に潜む淡い夢
貧しさが義理も情けも捨てさせる
仮面なら脱がしてやってさようなら
百歳を生きた明るい顔が好き

鳥取市　西川和子

古い殻脱げず世間を狭くする
進んだりバックしたりの繰り返し
さりげないフォローに何時も助けられ
喪に服す辛い記念日多くなり
毎日を積んで健康維持をする

鳥取市　太田幸枝

古日記亡夫の愛情ほのぼのと
記念日に立てた日の丸虫がくい
横ばいの私の生活蟹のよう
残された余命楽しく暮そうよ
米寿まで年を忘れて飛んでいた

人の輪に入り気付いた親近感
無縁社会他人事でない匂いする
老春の幸せ色のペアルック
堅実派カードの恐怖まだ知らぬ
日替りの灯油価格へ寒気団

鳥取市　吉田弘子

マスクして顔かおカオの不気味さよ
幼子のように老いぼれじゃれている
よぼよぼの爺は散歩か徘徊か
着ぶくれて三本足の杖たより
淋しさと悲しさ同居しています

鳥取市　夏目一粋

何文句言うではないが留守が良い
多数決それが真実とも言えず
妻少し無理した保険金無気味
コラーゲン耳には心地よく響く
異文化の心に触れる恋ひとつ

鳥取市　加藤茶人

嘘誠涙が見せる生きる術
もう先の見えた余生が尻叩く
のら猫の金の目玉に見据られ
物探す時間が予定狂わせる
無印の私にもある参加賞

鳥取市　中宇地秀四

両耳が痒い春風吹くらしい
日向ぼこ渋茶をすする老後の絵
黄昏にやっと歯車かみ合って
共犯者にされてしまっていた日暮れ
そして冬母へ唄った子守唄

鳥取市　倉益一瑶

精巧に神が造った人体図
歯を入れておかねば今に人が来る
酒を少々飲んでいるマイペース
叱られて反発しないアホかいな
手の内をかえて臨んだ初碁会

鳥取市　武田帆雀

思うほど人は自分を気にしない
失敗も笑うと策が見えてくる
自分からもっとほほえみかけてみる
とりあえず今すぐできることをする
できるだけ元気な人に会いに行く

鳥取市　春木圭一郎

ほどほどの酒でシャキッとする頭
ほどほどに酔えばかわいい猫である
ほどほどの化粧で女みな美人
おせっかいほどほどにしてまだ元気
ほどほどに忘れて頭軽くする

鳥取市　永原昌鼓

鳥取市　土橋はるお

認知症銭を見せてもよろこばぬ
政治家になると大嘘つきになる
年金でオール電化は楽じゃない
冗談がわかりだしたら一丁前
努力した足跡だけは残したい

鳥取市　土橋睦子

携帯も車も無いがよく遊ぶ
鍋囲みみんなの顔を見て笑う
島国と言われ住みよい四季がある
ハイハイと夫唱婦随で支え合い
6Bでノートの漢字跳ね回る

倉吉市　野口節子

飛んでます後期高齢枠の中
ひっそりと流れています高齢圏
峠越えほれほれ春はもうそこだ
時ならぬ雪にびっくり蕗の薹
日本が忘れられない渡り鳥

倉吉市　猪川由美子

大物逮捕Xデーへ固唾飲む
訳ありの舅抱える総理です
強いだけじゃダメマナーもよアスリート
我が鳥取怪死事件で変に知れ
子二人産みメダルも狙う柔ちゃん

倉吉市　山中康子

凡人が先を案じて金をため
よく耐えた辛かったねと思いやる
うん十年古着着もせず捨てもせず
お疲れさんその一言がうれしくて
母恋し近くにいても逢えぬ人

倉吉市　最上和枝

枯木焼くストーブで蕗焼いている
記念日は日帰り旅行でもしよう
予算枠財布に入れてお買物
眼鏡枠変えて小さなお洒落する
ピラミッドに昇り転んだ夢を見た

倉吉市　山本玲子

衰える足に達者な口があり
空白の日記はきっと不精な日
また聞きを物知り顔で話す人
あてがいの三食たべて退院日
八方美人幹事の役はむきません

倉吉市　松本よしえ

赤字国債孫子の世まで引きずるか
どうしよう夫残した本の山
亡夫のセーターみんな私の手編です
何しても寒いひとりの寝正月
流れ付くハングル文字のゴミ集め

実を結ぶ深い絆を授かった
生き物の価値判断は自己本位
デフレーション財布は紐を弛めない
和やかな渡り廊下が家にある
小川さえ深い窪みを持っている

米子市　野坂なみ

情け移らぬうちに去りゆく雪椿
誘惑はないが鎧を着けて出る
傘寿でも仄かな思慕という玩具
クリアして優しく生きてゆく小径
近ずくと傷つき易い風の塔

米子市　白根ふみ

おふくろの味には打算などはない
走られる喜び車輪うれしそう
スピーチの前夜原稿書いて消す
古ぼけた車輪だけれど光らせる
今日あるが明日があるとは限らない

米子市　門脇晶子

ガラガラと回せばポンと出るティッシュ
お湯割一杯情報をおつまみに
節約の財布ひとしお寒い冬
自然体欲はしっかり腹にある
ほっこりと遠い灯ともすクラス会

鳥取県　細田裕花

拾っても年の数ほど食えぬ豆
よくもまあ老人ばかり同期会
集まって酒を飲むのは元気者
退職し着ない背広がぶら下る
愛着はあるが古着は捨てましょう

鳥取県　竹信照彦

品格を問うは相撲か政治家か
電気には少し距離置き掘り炬燵
一億がなびく政治は何時の日か
節分に追われた鬼は戻ってた
五月雨を集めるダムは仕分けされ

鳥取県　深田倶久

農業に肩たたきなどありません
いつのまにか結婚記念日忘れてる
雪耐えた玉ネギの葉にキスをする
野党では大臣なれぬくらがえす
冷暖房つけてストーブゴミになり

鳥取県　北村稔

封印を出来ぬ戦争語り継ぐ
テレビから聞かぬ日はないマニフェスト
看護師が走ると不安つのります
拉致のことピッチ上げてよ親老いる
うっかりと漏らした言葉波紋よぶ

鳥取県　山下節子

鳥取県　山本正光

年金日素泊りだけの諭吉翁
内緒だが昼間もちょいと飲んでます
まだ生きるまだ食ってないものがある
政界に虚像の鬼が同居する
もの忘れ呑むことだけは覚えてる

鳥取県　松川行男

税込みでないと速決できないわ
寄付しない会費払わぬ人が増え
肩叩き昭和の子供やってくれ
寝て一時三時に起きて行くトイレ
生まれつき日本の心持ちつづけ

松江市　安食友子

おでん鍋大根ばかりターゲット
ぽつねんと昔気質に浸る柿
ずり落ちるパワー背筋で加速する
然り気無くゆとりをくださいなオーラ
陽がさすと多少なりとも皮膚笑う

松江市　松本知恵子

還暦の集い一足とびに過去
ドラ猫の弱さ大きな声で鳴く
しっとりと春呼ぶ雨の音になる
面上げたまえケータイよりも朝の海
孫の熱引いて大山窓に見え

松江市　三島淞丘

充電も放電もして老いを生く
春の陽へ梅の蕾のラブコール
一病息災なんと羨ましい言葉
耕して肥やして脳の活性化
焼酎で今日の芝居を締めくくる

松江市　川本畔

消えることとうに覚悟の靴の跡
大根は白い手足を投げ出す気
手の届く距離から怠慢が攻める
豆腐といえど鍋の中では攻めてくる
もう少し待ってと春の陽にたのむ

松江市　小川注湖

サイズ合わせてダイエットやる気だな
一言が井戸端会議風を変え
雑草も自己主張する花咲かせ
垣根越し花色褒めて種もらう
酒五合まだ語りたいロマンあり

出雲市　石倉芙佐子

シクラメンが届いた夜は眠れない
愛か恋かと問い詰められし有夫恋
きりりっとなさいと私が私に
折々に母のべっこう挿してみる
森の奥におとぎの国は有るらしい

出雲市　小白金　房子

靴音を気づかいながら友見舞う
丹念な亡母の夜なべを思い出す
雛さまを今年も飾るいい日柄（二月一日）
春の音五百羅漢も目をさます
踏み台になった老母の背を拝む

出雲市　岸　桂子

輪が揺れるタブーを口にした途端
振り返るみんな恩ある人ばかり
飽食に飢えた昔を重ねみる
終止符が打てない話みかんむく
詩を愛す男が魚焼いている

出雲市　富田　蘭水

一輪の花に出勤かるくなる
勿体ない露天に一人妻子思う
エレベーター皆のゆくとこ知っている
車いすじっと眺めて余命思う
逢うは嫌変装マスク深帽子

出雲市　竹治　ちかし

末席で数に入っている無口
ラブレターあなたがくれたマニフェスト
思うこと沢山抱いて道半ば
同じ時刻み長い日短い日
父母が逝き里は他人の距離となる

出雲市　多久和　敬子

心にも顔にも春の化粧する
老い家族ユーモア孫が持って来る
上げ底の土産にいつも腹を立て
味付けは誰にも負けぬ主婦の自負
まっ新な手帳に夢が溢れ出る

島根県　伊藤　寿美

三面鏡後ろ姿は映さない
豪雪を案じてくれる子のメール
行商の訛なつかし目刺し買う
労りが欲しかっただけ柚子の刺
いつまでの独りか今日も米洗う

倉敷市　撰　喜子

のせられて深みにはまるお人好し
歳とれば願いは一つ長寿だけ
退職した夫外出増えた妻
開けごま閉ざす心に呼びかける
確約をとれば扱い雑になる

美作市　大石　あすなろ

デジタル化やがて昭和の絵が消える
良くも悪くも欲が支えている命
空想をかき消すようにドアチャイム
写経する筆から罪が雫する
引き返す決断積荷軽くする

美作市　福原悦子

泥遊び草抜き老いて土いじり
少年の机に夢の世界地図
薄味に手加減してる老い二人
幾山河やがて夫婦の塔とする
お邪魔でも捨てると丸い石になる

真庭市　国米きくゑ

飾らない言葉心に沁みてくる
たっぷりの愛を注いで待つ発芽
遅咲きの花を咲かせた古希同士
パーティが好きな小狐大狐
湯タンポに昭和の想い出よみがえる

真庭市　福嶋智恵子

如月の夢のしぼんだ春の雪
老いクラブ平均寿命越えてきた
不用品交換をする老いの知恵
恵方巻き独り暮しに荷が重い
節分の豆撒きのまめ可哀想

竹原市　岩本笑子

掌の雪儚さの中で解け
綺麗ですねと久しぶり夜空
みかんむく夫の帰りを待ちながら
時々は女の怖さ言ってみる
少し痩せてガンの薬を飲んでます

竹原市　石原淑子

せせらぎもやさしいおとに光り春
ガボガボの服からのぞく小さな掌
時代雛栄枯盛衰経た疲れ
雛めぐり母の面影かいまみる
泣き笑い顔に刻んだ朝鏡

竹原市　時広一路

期待通りの芽を出させてた庭の土
日に三度食事と仲が良い薬
源流のロマン究極の水わかす
のんびりとしたくアンテナ低くする
過去少し思い出したい回れ右

府中市　藤岡ヒデコ

寒暖の差にたじたじの老いぼたる
もう五分温い布団が離さない
政権が変って別のわるさ見え
時局柄もしやは悪い方へ向く
進学の孫に桜を咲かせたい

府中市　岩本雅代

養老の身にも忘れぬ薄化粧
立春の声に心も温まる
せせらぎの音もやさしい出湯里
足元から立春を告げる福寿草
今年こそ笑って済ます腹を決め

府中市　馬場利子

明日へのシナリオ抱いて風光る
絵手紙へ虎の本音がまだかけぬ
遠い日の記憶の中で若返る
罪一つ消したくなって米を研ぐ
ポケットの深さへ夢がたまりすぎ

美祢市　安平次弘道

政敵にしてはブランド着て歩き
都合よく放任主義でいきますか
死んだ振りしてはいつでも困らせる
気紛れにしては疑い深い声
右向け右やっぱり妻の声だった

東かがわ市　川崎ひかり

物忘れ今日も夫婦のこぜり合い
ハンガーに明日の喜び吊っている
残飯にするに作った米じゃない
数えれば十指に余る今日の悔
遺産分けまでは仲良し三姉妹

東かがわ市　伊勢八重子

住み付いた心の鬼を持て余す
損得を抜いた時から温い仲
認知症家事が得意の姑でした
家計簿に優しいチラシ取って置く
青空に心の迷い吹きとばす

東かがわ市　清川玲子

レンタルの晴れ着ではたち闊歩する
衣擦れの音も雅びな茶会席
喪服着た妻の色気が他人めく
諦めることにだんだん馴れてくる
節分の豆は年毎食べ切れず

東かがわ市　原賢

深追いは返り血浴びぬ距離で追う
終章は身丈に合った夢を追う
繕った言葉の端に本音みえ
信じ合うために小さい嘘も混ぜ
花の咲く庭で余生の夢をみる

松山市　髙橋宏臣

入口にしてはもらえぬ非常口
弦楽器些細なことで鳴っている
錯覚のままでおさめる花の宴
とりあえず過去におさめて昼寝する
ポケットの底に夕焼け空がある

松山市　古手川光

不景気へ春一番よ早く吹け
損得の話になると冴えてくる
ラジオ体操布団の中で聞いている
ロボットに職人気質などはない
さらさらと春の小川が流れない

松山市　宮尾　みのり

お隣の被害を後になって知り
韓国に洗脳されている地デジ
能力のことは言わずに職探し
身辺整理したが迎えがまだ来ない
切実な話をお寺さんとする

大洲市　中居　善信

ポケットの底に溜めてる鬱がある
寒のサバ鯛もヒラメも敵じゃ無い
時々は羽目外してる男とや
無垢な女にこつんと頭小突かれる
ネジ巻けば五体の軋む音がする

西予市　黒田　茂代

九度三分嵐の去るの待っている
寂聴の源氏にのめり込んでゆく
いじめはあった光源氏の時代にも
料理番組好きな偏食家の夫
弘法でないから筆を選びます

高知市　小川　てるみ

来てみいや龍馬が招くであい博
燁あかぎれ昔を知っている火鉢
儲かった話も聞かぬ不況風
あくまでも白は白くと物干し場
サクラサクラ十二の春に咲きました

高知県　小澤　幸泉

駅前の酒場の灯り今日も魚
大雨に洗われている哀しみも
笑わせて泣かせてあとは押し黙る
散り際に花は悲しい仕草みせ
喧騒もやっとおさまる冬景色

唐津市　坂本　蜂朗

中国の旅でコピーがまといつく
妻といるのにバーのママ会釈する
バランスの悪い夫婦で続いてる
父の背な精一杯の痩せ我慢
祖父二人孫の秤に乗せられる

唐津市　井上　勝視

老いた身は宛行扶持に慣らされる
核の傘やがてなるかも丸裸
染め直しきかぬ歯痒さ黄昏の彩
そうですかとそのまま話打ち切られ
猪口一杯飲めぬ老妻欠伸する

熊本県　髙野　宵草

補聴器と眼鏡で僕に今朝が来た
あどけない孫に怖さを教えとく
遠慮なくジョークが言える仲となる
手に余る庭木の育ち老いを知る
核兵器の過剰予防が恐ろしい

熊本県　岩切康子

九十まで大丈夫だと主治医から
君の夢見たと電話をくれる友
寒い日の草取り夫に叱られる
老犬を玄関に入れ看視する
不勉強書きたい文字が浮かばない

熊本市　永田俊子

ちぎれないあなたの釦になった幸
愛の手が欲しい孤独の背の釦
もの言わぬ日々で言葉がもつれ出し
着ぶくれてばあちゃんスタイル自認する
言い過ぎた朝は溶けない角砂糖

シドニー　坂上のり子

トヨタだけ世界の不評気にもせず
世界一の信頼崩れだす早さ
朝青龍良くも悪しきも遺した名
割り勘の飲まぬお酒も頭割り
ほほ笑みが優しい母を飾ってる

黒石市　佐藤古拙

ケイタイが攻めたててくる間をおかず
ケータイが許そうとせぬひと呼吸
ピーナッツを剥きつつ食べる孤独感
介護士にだけは大事にされている
妻はそのまま眼鏡だけ取り換える

十和田市　阿部進

いやなこと笑ってすます年になり
この一年じっと我慢のことばかり
人びとを生きてる限り助けたい
母さんの笑顔ほんまに好きです
古里に母の墓地だけ今もあるよ

平川市　小寺花峯

料理番組横目に呷る水茶漬け
ケータイを持てぬ男で落ちこぼれ
孫が来る四の字固めの日曜
ゴキブリと挨拶交わす午前二時
焼き具合知らせてくれるシシャモの目

弘前市　福士慕情

一日を独りで過ごすカタツムリ
個人情報マスクを掛けて出すポスト
怒ってもしょうがないがと怒られる
行くあてを模索しているはぐれ雲
数珠玉が年を重ねて艶をだす

弘前市　今愁女

氷点下暖冬いずこ雪しまく（風巻く）
雪のんの読書捗る冬静か
殻つきの落花生撒く鬼は外
猫柳も耐え兼ねている寒い春
菓子舗は春うぐいす餅にさくら餅

粒々辛苦金はあとからついてくる
妻がすることは時々わからない
格差社会蜜蜂だって蟻だって
ピカピカで触りたくなる消防車
この世をば老・老・老・と漕いでゆく

弘前市　髙瀬霜石

手取りでは話さず本給見合席
あの時の補欠採用今の幸
一合を許してもらう聴診器
就職難第三希望にありつけず
クラークの言葉を抱いて海に出る

弘前市　須郷井蛙

朝茶酌みからだ温めて雪掻きへ
凍るみち悔いを残せぬ足の裏
きさらぎや油断の出来ぬ寒もどり
物忘れ顔を見合せ苦笑い
今日ありて明日のくらしの処方箋

弘前市　岡本花匠

気負いなく生きると肩が軽くなる
言い勝ってからの空気が重くなる
昭和史の侭で凍てつく北の島
名曲の海でひと時溺れたし
巣立たせて夫婦ですするお茶の味

弘前市　高橋岳水

成果主義まだ未来図も先のさき
湯豆腐の手酌はぼくの農閑期
周波数さがしあぐねている別れ
雑用に馴れて操作に無駄がない
温度差を折衷案でなら解る

弘前市　相馬銀波

根回しへ人間らしさ見失う
土下座したスーパーマンを見て仕舞う
金婚式愛に染まった深い皺
人生の袋小路で慈悲に逢う
辻説法頑固な耳がそそり立つ

青森県　松山芳生

何も無い故郷などはどこにも無い
猫の名を呼べば尻尾で返事する
助けてと手を振る人に手振るだけ
億のニュース見て年金の遣り繰り
女子アナと言うが言わない男子アナ

さいたま市　星野育子

ワンパターン手締めで終わる同期会
始まりは気のない返事だけだった
年毎に塩気薄まる妻の味
眼も脳も年相応にやや不満
留守番に飽きて子犬が声嗄らす

国分寺市　野崎勝

東京都　岸野　あやめ

いつの間にか親を試している子供
貫録でダイヤに見せているガラス
大切なペットにつけるバーコード
お墓より自然の中に還りたい
それなりの都市美東京丸の内

東京都　清原　悦子

目一杯頑張り過ぎて風邪を引く
忙しいこんな日もあるバケーション
温もりを貰うと胸に灯が点る
バランスの食事早起き欠かさない
錆び付いた五感を覚ます春の風

武蔵野市　亀井　円女

私にとって皺は立派な勲章だ
よく見れば泣く皺ケラケラ笑う皺
笑うのも泣くのも辛抱出来ぬ性
かくさない自慢の出来る皺だもの
どの皺も私の人生宝物

横浜市　小野　句多留

ぐちゃぐちゃな雪でも燥ぐ都会っ子
イケメンに群れる女の軽い乗り
横綱の引退ネタがひとつ消え
黄門を見る時間から飲み支度
お隣にコンビニ無精癖が出来

川崎市　三浦　きぬ

神々が誠おわすか森の静
傑出の議員はいづこ日本国
私には私のうつがあって老い
百均で買物心豊かにす
政治家は逃れるルートたんと持ち

富山市　島　ひかる

灰汁抜けたように畑の雪も解け
温暖化進む雪解け早くなり
山桜不況風にも耐えて咲き
一人一本みどりの地球取り戻す
照る日曇る日一緒に歩く影ぼうし

静岡県　薗田　獏沓

からす鳶空中戦見る一茶の気
おみくじの吉を信じて賽銭箱
何時よりか駅までの道亀の足
いい寝顔不況を忘れそうになり
エアロビのリズムにのった娘の妙技

可児市　板山　まみ子

遠ざかる音に安心救急車
約束の雨戸を開けて元気です
食欲にまかせた罰の腹まわり
家庭持つ意志のないままアラフォーに
パンくずをまいて野鳥を待つ窓辺

犬山市　関本かつ子

どこにでもある顔増えてきた団地
受話器から雪に慣れてる里の声
雪乗せて単線走る命綱
顔ぶれを聞いてランチの仲間入り
薄味にされてたっぷり唐辛子

犬山市　吉田幸子

マージャンで脳トレ爺と婆の連れ
メタボへの管理ずさんな腹の虫
愚痴で捌いてスッキリ戻るブーメラン
泡立てて美肌夢みる老いの皺
悩み事包みきれずにジンマシン

犬山市　金子美千代

大根の並ぶ足湯の仲間入り
快適な温度に慣れている弱味
神仏へ俄信者の受験絵馬
経済が回る衝動買いもよし
チマチマとケチリどかんと抜けている

京都市　高島啓子

傾いた柱時計の父だった
弾よけのポーズで首をかたむける
中年の昔話がなまぐさい
あとであとでと傷を大きくしてしまう
ライバルは大きな墓を建てている

京都市　坪井孝一

ドリンク剤今日も飲んでる空元気
ライバルに切り取り線を見透かされ
それぞれの思いこの雲見てる人
わだかまりある時セロリ噛んでいる
最初はグーあとは奇蹟を待つばかり

京都市　西村益子

捨てました娘が押入れの仕分け人
喧嘩してケーキ二つもたいらげた
焼芋の温さに亡母の顔浮かぶ
バーゲンで赤い傘買い雨を待つ
思い出し後でそうかと腹が立つ

京都市　三宅満子

暴走する前に杭打つ親心
たんまりとあると思てた遺産分け
気がねしてか妻の予定は暗号で
階段の下から拝む長命寺
なんでこの人と答出ぬまま添い遂げる

京都市　桝本宏子

バラ園でたっぷりつかる白昼夢
一曲のヒット栄華に墓場まで
姑だからちょっと無理して元気出す
昼の月街の喧騒知り無言
百科事典で半日過す冬の雨

わくわく感のせて飛行機加速する
緊張感ほぐれ踏み出す第一歩
安定感増したフォームに夢をのせ
憧れのひとは遠くのままでいい
なにしろ自由寂しさ少しスパイスに

長岡京市　山田葉子

決めかねる残るいのちの仕分け方
テレビとは違う話題が好きになり
ベーゴマをネットで買ってと孫メール
健康の指導資格で身を護る（健康長寿目指して受験中）
寝覚めよし喜寿も米寿も大丈夫

亀岡市　井上森生

川柳塔まつえ
復刊40周年記念川柳大会

とき　5月23日（日）午前10時半開場
ところ　島根県民会館　3F大会議室
おはなし　川柳塔社　主幹　河内　天笑　氏
兼題　「道」　西出　楓楽　選
「粘る」　新家　完司　選
「きらきら」　金築　雨学　選
「出番」　佐々木　裕　選
「足跡」　竹治ちかし　選
「飾る」　長谷川博子　選
事前投句（4月30日締切）
「続く」　三島　淞丘　謝選
各題2句　欠席投句拝辞　出句締切　正午
会費　2,000円（記念品・同人合同句集　呈）
賞　各題の天位
記念懇親宴　午後4時40分
サンラポーむらくも
会費　6,000円

主催　川柳塔まつえ吟社
〒690-0015　松江市上乃木9-23-22
三島淞丘　電話/fax 0852-21-2810

川柳塔のぞみ
4月句会

日時　4月27日（火）13時～
場所　銀座区民館（地下鉄東銀座3番出口）
宿題　「愛」「巻く」「気まぐれ」
各題2句　「自由吟」1句
欠席投句　4月24日　必着　播本充子宛
〒193-0832　八王子市散田町2-31-3

句煙抄

（つづき）

ぜいたくを感謝出来ない戦後の子
やさしさの身にしむ年の中に生き
やりのこしあまりに多くまだ死ねぬ
生れ変わり助けて日本を龍馬さん

静岡市　渡辺芳子

曲ったこと嫌い直球投げ続け
ATM隙を見せない面構え
休肝日独り隠れて飲んでいる
生前に聞かせたかったこの弔辞

岐阜市　平野あずま

万華鏡覗いて見たら花吹雪
トリックに鳩が飛び立つ平和ボケ
一見さんお断りとは言っとれん
蟹が出て一時静か宴の席

江南市　脇田雅美

川柳塔の川柳讃歌 ⑥④

木津川　計

パチンコを遊んでる顔には見えぬ

吉岡　修

亡くなった藤田まことのテレビCMに驚きました。「必殺仕事人」の黒装束で十人ほどがどっと現われると、「仕事が終れば仕事だぜ」と言ったのです。ええーっ!? と思ったら〝仕事人〟というパチンコの機種のPRではありませんか。

仕事が終れば遊びなのに〝仕事〟が続いたら修さんならずとも「遊んでる顔」には見えません。〝禁じられた遊び〟の国で藤田まことも借金返済で命をすり減らしたのです。

好きなことしている時は疲れない

榎本　日の出

資質と職業が一致した人の幸せです。私の友人に昭和十年代の大阪・船場の町内図を五年がかりで復元した人がいました。手に入れた当時の電話帳で一軒一軒を特定し、不明な所は足を運んで調べ、大阪大空襲で壊滅した戦前の船場を蘇らせたのです。そこまで打ち込むのか、その情熱にびっくりしたことでした。無名の郷土史研究家だった彼は、この仕事が認められ、ある短大の教授に就任しました。日の出さんの句の通り、好きなことには没入しても疲れ知らずなのです。

チャンスだったのにといつも済んでから

徳山　みつこ

何をしても「後手に回る」無念の人がいます。やることなすこと「裏目に出る」不運な人もいます。それでもへこたれない人物はいて、どなたの句でしたか、「七転び八起きしてからまた転び」ですから、神も仏もないのかと不幸の塊のような人物に同情するのです。だから諦めるのか、いいえ、「禍福はあざなえる縄の如し」とみつこさん、言うではありませんか。どこまでもリベンジの精神です。

産直の店に娘を並べとく

柿花和夫

産直の店には未婚の娘さんがあちこちで働いていたのです。が、和夫さんは産直商品と同じ扱いで適齢期の娘さんを売りに出したのです。何年か前までシャープのキャッチコピーは「目のつけどころがシャープでしょ」でした。その発想と同じシャープな把え方です。すると、無農薬な自然食品を思わす健康で純真な娘さんに見えてくるではありませんか。産直商品が好評なように、娘さんも早々に買い手がついて、今では初々しい新妻です。

病む妻を智恵子とくらべ日を暮らす

池原天馬

「そんなにもあなたはレモンを待っていた」に始まる光太郎の「レモン哀歌」は死に給う智恵子をうたって絶唱です。智恵子は「東京に空がない。ほんとの空が見たい」と言うのです。だから智恵子の故郷・阿多多羅山の上の「ほんとの空」を二人で見に行ったのです。

天馬さん、光太郎がそうであったように、病まれる奥さんをお大切にしてあげてください。レモンに代る何かを差し上げてください。

終着駅まで別別に行きましょう

安土理恵

うーん、うーん、またしても理恵さんに食らった強烈なカウンターブローです。

目的地まで別別に行く旅は、人目を憚る二人にはありえましょうが、終着駅までとなると穏やかではありません。結婚する最初から別別な筈はありません。どこかで和解不能となった二人の、別居か、家庭内離婚か、の愉快ならざる旅路がこれから続くのです。むろん、そんな関係を想定した句でしょうが。

（『上方芸能』発行人）

自選集

浄土へのキップ売場が見つからぬ
人間が好きです熟女もっと好き
千手観音腕一本を僕に呉れ
軍手にも日本の不況言い聞かす
春だから寡婦の鎧も脱ぐがよい

両川洋々

春うらら鬼も喜ぶ春麗
草の芽が出たので走る玩具箱
春雨や相合傘と風を聴く
もう一度逢いたいひとと花ぐもり
白よりも白い命へ花の首

板尾岳人

冬枯れの脳にきらめくもの探す
マイナスの予感はみんな無視します
楽しいこと信じるきっと当るから
ケ・セラセラ終り良ければすべてよし
雲間より聞こえ始めた春の声

奥田みつ子

憎いから叱るでないと子を諭す
緩急を巧みに活かすプロの業
内緒ごと聞くでなかった増す悩み
時期尚早慎重すぎてチャンス逃げ
太陽の恵みにこぼれ種芽生え

河井庸佑

取り敢えずそういう事にしておこう
ふんふんとそうかそうかで聞き流す
福笹を買って油断をしてしまう
アミダクジの線一本が消えている
それは無理火の中水の中なんて

川上大輪

瀬戸内に美観を添える川柳碑
桜咲き空に日本男児舞う
花の宴箸をタクトに盛り上げろ
バアちゃんのヘソクリ ランドセルに化け
水仙花ユラユラ揺れて春を告げ

木村あきら

創刊号ひらくと波の音がする
雪洞が灯る私の句が灯る
昼に髭剃って出かけることにする
たこ焼き器孫との距離が縮まった
古い古い手紙の中にある元気

小島蘭幸

幸せは今年も花へ酔いまわる
夜桜へ酔うても帰路は間違えぬ
義理チョコをゲートボールで貰ってた
モンゴルを戦車で駆けた過去しのぶ
散れという戦陣訓へ生き抜いた

小西雄々

ラッキーな一日でした目を閉じる
分け合った株がつぼみをもう抱いて
コマーシャル上手になった冬苺
二人三脚ぴったり合っていい仲間
逆転を招いてくれたのはねばり

斉藤姦

この秋に鶴彬忌出来た夢
ふるさとで傘寿の祝いある予定
お世話さま愛車に別れ淋しいな
妻の庭金柑ねらう鳥が来る
ふるさとの黒酢の名前評判に

塩満敏

冬将軍襲来心身共萎縮
風邪予防焼酎餃子八宝菜
酒焼酎動脈硬化緩和剤
飲兵衛会日程不問距離不問
飲兵衛会即時決定即挙行

新家完司

忙しくなるぞと春の声がする
笑い声残しタクシーから降りる
考えすぎですと女に笑われる
呆けたかなまた同じもの買っている
一合の燗は忘れたことがない

恒松町紅

ユニクロと競うデフレの裏通り
バラに刺 福寿草にも秘めた毒
マニュアルに添って乗り継ぐ独り旅
梅の香が誘ってくれる遊歩道
臆病なマスクで風邪を独り占め

津守柳伸

お人よしの夫婦で儲かる時がない
マネキンの服へわたしを置いてみる
今ここに十万円が無い逸機
ネクタイをキリリ貧困置き去りに
決算の粉飾涙はもう出ない

遠山可住

福連れた鬼と仲よく酒を酌む
南天がたわわに冬を謳歌する
体ごと弱みを見せて楽になる
本物になろうなろうと絵の具箱
正直な影がわたしを離さない

都倉求芽

身長が縮んで体重が増える
男三人女三人春の旅
他人事は火事も喧嘩もおもしろい
天長節に結婚をしたふたり
紫の雨がわたしに降りそそぐ

土橋　螢

宿飾り少年の手が狼狽える
宵宮の山へのぼって吹いた笛
夜明けから神の山車飾りに手足
美容師の手に随身と鷹匠と
隔年を酔いつぶれたり祭の日

中原　諷人

言い訳をすると尻尾が見え隠れ
人生やノーマルヒルにラージヒル
声変りしてから宇宙人の孫
絶不調爪も伸びるし髪も伸び
自分信じることが一番難しい

西出　楓楽

爛漫の春も社説の肚次第
社宅の子さて制服が替わる春
政界の春の嵐にある予感
春の花世間話も桜から
七坪の庭に今年の春を待つ

仁部　四郎

少子高齢化がんばれ産めよ増やせよと
恋は永久に仏の顔にある深味
人なつこい虫だな膝で首を上げ
愛はみんなを菩薩の顔に冬恋花（ふゆれんげ）
巣立つ日の鳶が高い樹をめざす

林　瑞枝

定年で生まれた孫もはや入試
家の傍走るマラソン見るテレビ
気遣ってくれる周りに気をつかい
万物へ祈る感謝の毎食事
人ごとのように診断聞いている

前　たもつ

みどり児の爪はピンクのさくら貝
終の火に近付いていくわが竈
寒の月　臆病風に身が縮む
投げ捨てた人へと戻るブーメラン
ダイエットしても変わらぬ運命線

政岡　未延子

中流で中肉中背戦中派
老いたとは思わぬ身体労られ
使い捨て時代になった人間も
冤罪が晴れないこともあるだろう
盛り塩に伝わってくる心意気

三宅　保州

着ぶくれの姿笑っている鏡
世も人も渇き小細工多くなる
きらきらがほしくビタミン朝・昼・晩
おそ咲きを待つより今を輝こう
真っさらなページ汚していく予定

宮西弥生

戎橋ネオンと暮色まざり合い
海荒れる日の灯台は男の目
寂しさの数だけ集めコケシ棚
愛満ちた日の日記帳長くなる
ジョークともとれる誘いに少し揺れ

八十田洞庵

川柳塔誌は左記の書店でお求めいただけます

◎波屋書房　大阪市中央区千日前2丁目11—13
TEL 06—6641—5561
なんば高島屋の前の南海通りを東入る北側

◎天牛書店　三国ヶ丘店　堺市三国ヶ丘駅前
TEL 072—257—4333
堺東高島屋店　高島屋堺店B1
TEL 072—238—8088

◎ジュンク堂書店　西宮店　西宮市北口町1—1
TEL 0798—68—6300
阪急西宮北口・アクタ西宮西館4F

温故知新

川柳句集『ふるさと』

須崎豆秋

啄木の真似してカニにはさまれた
桐落葉ハラハラ百円札に見え
なにやらが欲しい水でも呑んで寝る
税金をしぼられに生れきたような
金もろた方へ政治はころぶなり
秋の灯に読みたい本が陳べられ
心から悪友だけが泣いてくれ
お元日負けたはなしは止しましょう
うそにでもうまいというてやる夕餉
春うららはさみほうちょうかみそり研ぎ
夢を見よすばらしい夢を無税だよ
モデル臍出して全く無表情
親に向ってホッチッチカモテナヤ
ふるさとが瞼にうつる曼珠沙華
主婦の寝言に月給は未だですか
刑務所がいちばん早く餅をつき
旅人のふとさみしきは昼の月

初版　昭和29年11月発行
再版　昭和30年4月発行
復刻版　昭和60年9月発行

五濁抄

川上大輪選

単純な神経サプリすぐに効く
穏やかな灯りが揺れる和ローソク
ふきのとう春の目覚めを確かめる
廃屋を梅の香りが取り囲む
偶然に出合った言葉ポケットに
おでん種鍋いっぱいにして出掛け

高槻市　島田千鶴子

一月の風は衣を蝶にして
花の丘ここにわたしの天もあり
身障一級諸行無常の頂点だ
八起き目の先にもあった五七五
父の詩は戦の中に昭和史に
北の宿草食系はいもが好き

田辺市　大峠可動

Lサイズ同士だ豪快に笑う
走ったら夢を叶えてくれますか
免許更新機能も顔も老いてくる

横浜市　川島良子

真夜中に起きているのは誰ですか
一歩ずつ前に進めばいいのです
決断の速さ吉でる凶とでる

羽曳野市　森下一知

ふる里を蹴った答えが恥ずかしい
机上論現場の杭に突き当たる
ネーミング変えて蛻の殻だった
マニュアルに嵌める作法の横並び
節約をケチの関所に貯金箱
外交の秘の秘が動く水面下

海南市　小谷小雪

やわらかい言葉は喉をうるおして
揺れ出すと尻尾の端がちょっと見え
たかがネジされど素手では締め切れぬ
小兵でも景気の底を持ち上げる
寺巡り小出しにしてる神頼み
弁解はしないわたしの道を行く

札幌市　三浦強一

プライドが横目で通る立ち飲み屋
今帰るだけのケータイ持たされる
それだけのこと前置きが長過ぎる
ご意見は会議終ってからどっと
閃かぬ日の口下手なボールペン
いい娘さんだと父母のテストパス

米子市　吉田陽子

服薬を断って清めている身体
節分が来るとほぐれる肩の凝り
ポジションは妹変わる日は来ない
犯さない程度で罪に触れてみる
捨て石が温い座って語り合う
歯車がずれて時どき舌を噛む

香南市　桑名孝雄

ミシュランの評価はいらぬ目刺しかな
流石は名医飲んでもいいと仰せられ
ちゃん付け君付けみんな童の顔になる
索敵に駆けずり回る内視鏡
ポリープの三つ四つは隠し持つ
真之と龍馬を売っている四国

和歌山市　福井菜摘

一線を引いて小さな灯を守る
これという会話がないが血のぬくみ
アングルを変えると見えて来たヒント
這い上がる勇気をくれた一行詩
振り向かぬ覚悟で母の傘を出る
定年などとても望めぬ割烹着

篠山市　谷田多美子

初対面猫の話題で座がなごむ
朝はまず三面記事とお悔み欄
今日も無事寅の尻尾に守られて
携帯に軽い噂を入れておく
啓蟄に髪型変えて朝のバス
巻寿司をかぶり煩悩すてられず

西宮市　寺井秋果

惚け封じに好好爺のポーズとる
残り火へ切ない思い焼べている
胸襟を開くと鬼が目を覚ます
歳月の重さと軽い生き様と
老老介護あらぬ思いがふとよぎる
晴雨兼用あなたの傘に添うてゆく

鳥取県　西谷悦子

失いたくない人許す待ちぼうけ
変化球ときたま投げる新鮮味
あすの彩じぶんの意志で変えてみる
あすの日の元気のために早寝する
性格を変えられぬまま二人居る
沈黙の中にふつふつ火種抱く

底辺を数度経験した強み
最高の妻に恵まれわが宝
朝夕に妻と語らう仏間の灯
理屈より先ず実行をして実り
白寿まだ税を払っている誇り

草加市　飯土井　健　夫

こたつから出ない一日暮れてゆく
酒が言う妻の悪口盛り上る
一年でこんなに呆けた誕生日
男には通らぬ理屈言う女房
年金に汗のにおいが残ってる

佐渡市　高　野　不　二

ひ孫誕生初春を漕ぎ出す宝船
虎の子も出番いそいそお年玉
年頭に招かぬ客の風邪の神
雪景色嫁の運んだ熱いお茶
鈴生りの蜜柑気になる介護バス

藤沢市　加　藤　スズコ

本当は毎日脱皮したい蛇
お逢いして頭の霞とれていく
種を蒔くときは音楽家の気分
降っているのは本当に雨なのか
春と秋があるから生きていけるさ

大阪市　尾　﨑　ゆ　め

つかまえたつもりの妻に牛耳られ
つかんでる指広げねば抜け出せず
渡り鳥信頼の糸たどる旅
健康を考えすぎて不健康
ポタポタと時のしずくを楽しもう

大阪市　安　藤　なつこ

艱難の中で生れた互助の愛
大抵のことを和ます子守唄
口喧嘩今じゃ万歳調の歳
答え出ぬ夜は一人で経を読む
あの人を何に投影する日暮れ

泉佐野市　稲　葉　　洋

キッチンに声弾けてるケーキ焼く
書いて消しまた書き直す五七五
手作りのケーキが主役ティータイム
しかられた中に優しさ感じてた
ほどほどの幸せつかみのんびりと

堺　市　近　藤　治　子

本心のようだ言葉に棘がある
諍いを嫌い無口になる夫婦
また一つ拾った歳が肩に乗る
レトルトのカレーを置いて妻は翔ぶ
口数でいつも妻には負けている

高槻市　片　山　かずお

豊中市　源田啓生

のろのろとしてもせかせか歳を取る
ステーキの匂いが夜を和ませる
有限から無限に堕ちる床に入る
ＣＭで言うほど効かぬ栄養剤
コーラスで声の出るとこだけ唄う

寝屋川市　岡本勲

梅咲いて少し悟りの顔になる
やさしいがさっぱりうだつ上らない
好きだとは一度も言えず半世紀
騙されてもうちはあんたが好きなんや
中毒になっても好きなものは食う

枚方市　河田洋子

やりとげてさすがと皆に言われたい
ライバルはさすが何でも上を行く
さすが妻鮮度見分ける目は確か
友の訃にさすが一日手がつかず
後もどり出来ぬ一日すぐに暮れ

藤井寺市　吉田喜代子

悲しくも可笑しくもある物忘れ
ドタキャンにああ念入りにした化粧
親切もあまり過ぎると怖くなる
温室の無い家に来た胡蝶蘭
便利器具もったいないな戦中派

大阪府　神野千恵子

始めから言えばよかった　ありがとう
差し向かいパンと味噌汁それもよし
雲がきれ景色しあわせ色に変え
嘘っぽい話で耳がこそばゆい
月明り影がどきどきし始める

大阪府　高木道子

鬼瓦二月の屋根の向こう傷
国会中継の野次を聞いてる面白さ
マニフェスト捲ればそこはセピア色
語尾上げて喋る話は超スロー
アンテナを張りめぐらしてノイズ待つ

池田市　上山堅坊

溜息の価値も半減する独り
やれやれと夜も弁当独り食べ
百均を心豊かに見て回る
ずぼらとも合理的とも見える僕
演技下手愚直なままに押し通す

加東市　安達厚

また一人欠席するという電話
この寒さ散歩良いやら悪いやら
懐が寒いと孫も寄りつかず
賽銭で神も手心されるのか
被災地にだけは届くなこの寒さ

胃袋も満足しない味音痴
鉛筆の芯を泣かせる思考力
仕方なく強い女になるのです
相撲界もう国技とは申すまい
三角の愛でドラマが盛り上がる

西宮市　泉水冴子

価値観が縮まぬままの老夫婦
被写体にいつもあくびの猫がいる
愛憎を一度に捨てる深呼吸
縁の下支え続ける細い腕
汗嫌う男の顔は覇気がない

奈良市　尾畑なを江

エプロンは真っさらメニュー決まらない
ボール蹴るそれだけなのに湧く闘志
白い実や赤い実食べたとて鴉
部屋中が春色になる合格日
幸せのボーダーライン低くする

和歌山市　上田紀子

独身へ自由に翔べる羽がある
問診へどうも微熱が邪魔をする
逆境に強い男の喉仏
夢のない顔でのこのこ起きてくる
有り触れた顔で好感持たれてる

紀の川市　北山絹子

割り切れぬ円周率を抱いて冬
朱を溶いて喜寿へ継ぎ足す夢の数
喪の影を歪にさせた水鏡
核心を突かれ金魚の宙返り
まやかしの音が出るまで笛を吹く

紀の川市　宇野幹子

葱焼きをしっかり食べて風邪予防
一色に染まった国の恐ろしさ
きのうとは違う光の中にいる
冷蔵庫さらえて暮らす二三日
見直せばあちこちあらが見えてきた

和歌山県　森下よりこ

子のいない夫婦に孫の数をきき
坊さんも少しは泣いてくれてもいい
不眠症いつかは眠くなりますよ
ご近所の横やり入る安普請
保身なら死人にも罪押しつける

鳥取市　高浜勇

血圧が背伸びした分だけ上がる
つり上がる眉毛私も辛いです
疑似餌かもしれぬチラシに賭けてみる
ユニクロのモデルくらいは出来そうだ
満腹になるまでドジョウ追い掛ける

鳥取市　稲村遊子

いい顔は他人ばかりの内弁慶
商店街閑古鳥にも見放され
やさしさの裏に打算が見えかくれ
ほっこりと母と娘の会話聞く
あきらめた夢の数だけしわが増え

鳥取市　深澤千恵子

雑音も無いと寂しいひとり者
転た寝をくしゃみが起こす独り者
降りる駅までにメークはちゃんと済み
点滴を連れて院内ウォーキング
誰も見てないと信号無視しそう

米子市　竹村紀の治

孫の知恵冷たい空気あたためる
七草がゆやっと静かな日を送る
初夢を見てる間もなく夜が明ける
怒らせたか口をきかずに三日過ぎ
孫の成長小銭で済まぬ祝い金

米子市　見山温子

筆に気を吹き付けて描く登り竜
川柳で老いの足跡遺したい
趣味の会生きる元気を自慢する
車やめ共に頑張る万歩計
一日が思案で暮れる独り者

米子市　加藤正二

温い人の情けに割れる殻
割り切れぬ心なだめる一気飲み
ほっこりと炬燵抱えて今日も幕
踏み込めぬ距離でウロウロ嫁の足
大道がカネカネカネで曲げられる

米子市　野川宣子

父が好きだった煎餅買ってみる
本年も寒中見舞いになりました
かむほどに味が出てくる男だが
このごろは堪忍袋がつかえない
ケータイにハートマークを入れてみる

米子市　後藤宏之

ストレスがたまりそうです旅に出る
老いたけど口は達者でまだ生きる
省エネと言って戦後を思いだす
ライバルが傍にいるから元気でる
笑い声聞こえる家は人も寄る

鳥取県　橋谷静江

球根の息吹か土が盛り上がり
人という形で立っている庭木
伸びた根がとぐろ巻いてる鉢の底
日本人よりも日本語上手い人
あせらずに生きよと亀に諭される

雲南市　武島ちよえ

雲南市　菅田かつ子

節目です鯛どっしりと横たわり
その年で拗ねて居るとは面白い
あの頃はもてたもてたとおじいちゃん
外は雨豆がことこと煮えてます
安売りで買ったと言わねば気が付かぬ

竹原市　國實　力

半分は以下同文の年賀状
家計簿のまず書初めはお年玉
おーいお茶やめよう妻も八十一
フィクションにしても恋の句なんて無理
風情無知落葉を掃いて笑われる

阿波市　三浦千津子

優しさをプラス仲良く老いの道
古里の訛りが弾む和の時間
わたくしの我慢が続く妥協点
余生とて春を迎える身繕い
噛み合わぬ話煮詰める落し蓋

大洲市　花岡順子

騙されてとことん馬鹿と思い知る
時期が来るまであたためておく火種
原点は運の開けた交差点
頂点に立たぬとバラは開かない
野次馬に涙の訳は語らない

高知市　松尾憲子

ジャジャ馬の飼い馴らされて出ぬ馬力
筆圧が意志の強さを物語る
幸せの真っ只中に居る不安
失くすもの無かった頃が懐しい
映画見てポップコーンで若返る

福岡県　林さだき

いい人の仮面を妻が付けたがる
面食いが古稀を過ぎても治らない
昔話に生きる意欲をとり戻す
豊かさに家族の絆緩くなる
喧嘩してすぐ飲みに行く同期生

札幌市　小沢淳

冬木立耐える姿を教えられ
親切の押売りだけは拝辞する
知らぬふり見ぬふりするも辛いこと
原石の頃はごつごつしたものさ
大笑いしすぎて仮面外れそう

北海道　佐藤登美子

金運はさっぱり無いが生きる欲
神様の手加減しだいそんな運
夢枕母の笑顔は若いまま
レシピ帳亡母から貰う虎の巻
さくら海老お好み焼きの中で跳ね

落ちている一円玉を見過ごせぬ
オタクでも熱い心を秘めている
鬼は外心の底にひそむ奴
恵方なき日本に鬼も歯噛みする

京都市　清水英旺

口説かれて酒の上だと躱された
主婦の意気端数一円値切ります
気を抜かせ旋風起こす四コマ目
辞退してもどうぞと言われ本音出す

京都市　藤井文代

噂では私も呆けて来たらしい
遺言が上手に書けるまで生きる
隙間家具入れて私の居場所なし
ミシュランの星で討たれぬ京の味

京都市　田部和幸

平穏な日々が続いて句を生まぬ
素人に読めぬ字多し書道展
無駄な日もあって輝く日もあって
一冊の本が心の謎を解き

大阪市　笠嶋恵美

新聞もテレビも見ない日をつくる
人生をナビに頼って地獄道
海舟も龍馬も笑うご政道
陽はまた昇る信じなくても信じても

大阪市　太田としお

独学でワープロ打ってひろう知恵
いま元気密かに遺影さがしとこ
副作用出るまで信じてたくすり
こんなにも怒れるわたしまだ若い

大阪市　山本加お里

川風に花びら乱舞通り抜け
人生は幸か不幸の波乗りで
硬貨にも桜を咲かす通り抜け
鏡見て百面相を繰り返し

大阪市　吉川弘泰

ありがとう年金者がする写経
認知へと首を傾けゆく手足
昔ならとっくに死んでいる躰
他人様の五七五効きネジを巻く

大阪市　片岡松枝

また今日もたっぷり脳に水をやり
株券も紙飛行機になって飛び
にらめっこお相撲さんは笑わない
中古品だけどジャンボ機要らんかね

大阪市　平井露芳・

抜糸すみやっと普段の顔戻る
義理チョコに奇跡が起こる事願い
善悪を母の涙に教えられ
席ゆずり然りげなく立ちドアの前

大阪市　寺井弘子

議員のヤジは聞かされません子供には
鳩山家金銭感覚麻痺してる
国民の暮らし議会は後まわし
基地問題いい顔してるどちらにも

大阪市　松田　聰

天高く風と闘う凧が好き
カマボコの板に乗ってるおひなさま
鳴り止まぬ電話にやっと立ちあがり
惣菜が元気をくれた誕生日

大阪市　橋村容子

人間は死ぬよりつらい生きる事
毎日が普通に生きるありがたさ
お線香墓に素直に語りかけ
母の味噌汁今日もがんばれ背中押す

泉大津市　助川和美

達筆が芳名録で威張ってる
孫の世話もう大変と祖母の笑み
金持ちはギスギスもせずよく笑う
白日に虫干ししたい政の闇

茨木市　島田誠一

子と目線合わせ心をふくらます
目薬をさしても街はにごってる
杖になる木がみつからぬ春遠し
その気なら闇でも幸をつかめるよ

門真市　矢阪英雄

還暦に茶髪に染めて変化球
どの口が苦労させぬと言わせたの
昔なら瓜実顔が美人です
忘れない妻になれよと言われた日

河内長野市　辻村洋子

渋ちんの財布広げる孫の笑み
浮上するきっかけくれた師の言葉
神の手も借りて幸運引き寄せる
笑うこと沢山探し生きている

河内長野市　針生和代

渋柿にいつまで待てばいいと聞き
突然の妻の正座に身構える
側近にちょっと外せば何かある
なつメロは伴奏外しらしさ出る

河内長野市　梶原弘光

言わないがずっと心の杖でいる
役付きになって消えてく子の笑顔
リストラはどこ吹く風の妻の地位
嘘ひとつついたばかりに次の嘘

河内長野市　木見谷孝代

楽しむゴルフ薬片手に離せずに
わがままが言える心の広い人
スリーE私の好きな旅の靴
子供手当のちも年金当てにする

河内長野市　山本莞子

河内長野市　山室光弘

母親の顔で文句をいう娘
説明書小さな文字に攻められる
悪口にものぼらず影が薄くなり
北国の訛りと食べるキリタンポ

河内長野市　内海綾乃

孫もまねしてアグラをかいてテレビ見る
今度こそ彼氏にあげる本命か
窓越に日向ぼこする幸せだ
眼が赤い加齢と言われショックです

河内長野市　木太久正一

年寄りのふところ狙うコマーシャル
自民等野党の椅子が身につかぬ
通販であれこれ選ぶ昨日今日
夕食の献立おとこ悩ませる

河内長野市　谷久美子

物忘れあれこれそれと名が出ない
今までを見直す事が我が抱負
解ってはいるがごめんが直ぐ出ない
きっちりと片付け過ぎて捜し物

河内長野市　松岡篤

乗せられてやっておりますおさんどん
無礼講言うて礼儀を気にしてる
記念碑がポツリ立ってる校舎跡
許せんが出来ちゃったので許します

岸和田市　中岡香代

夕焼けに今日の疲れも溶けていく
シューマイをレンジで蒸した定食屋
木漏れ日に猫があわせる日向ぼこ
しみ皺が諭吉の顔にたんとある

堺市　羽田野洋介

自分史にも光るページがあったはず
自分史の誇りはそっとB面へ
記念写真亡き人の顔指を折る
がらくたをお宝にする玩具箱

堺市　内藤憲彦

人は誉め妻ぼやいてるボランティア
新人のあいさつうれし趣味の会
春風に布団ゆっくり深呼吸
くしゃみ出て妻は今ごろ旅の宿

堺市　澤井敏治

産気づく電話にひとり前祝
出来ました何はさておき祝い酒
お爺ちゃん一寸飲み過ぎちゃいまっか
僕ですよ先ずはフォギャーとご挨拶

堺市　遠山唯教

躊躇なく転びはじめた老いの坂
汗の量あしあとだけが知っている
苦労したポストなかなか離さない
身内みな達者で何も欲しがらぬ

幸せがぐつぐつ煮える一人鍋
リハビリに頭の体操競い合う
安売りの野菜に里が案じられ
夫逝って淋しさ残る薬指

吹田市　二宮栄子

ケイタイの絵文字のような泣きっ面
呑みこんだ毀誉褒貶が皺となり
出棺に夫婦の歴史垣間みえ
老夫婦おならもさらり聞き流す

豊中市　荒巻夢

あと少し人生航路波静か
甘い汁吸っていたのはどなたです
小雨降る冬樹微笑み春を待つ
遅くなり送るつもりが送られる

高槻市　初代正彦

ほんのりと頬染めまして冬苺
染め斑のないよう子供育て上げ
四ッん這いの形で拭く窓ガラス
生れたて抱いて階段転べない

富田林市　古田千華

世界中一つになって興奮す
画面見て力が入り肩が凝る
悠久の雲の流れに想い乗せ
虎の威を借りて憂いを吹き飛ばす

寝屋川市　小嶋みさと

谷に来て山を過ごした事を知る
戸惑っておれぬ私に明日がある
与野党が逆転してもあらさがし
餅ばかり食べてメタボに拍車かけ

羽曳野市　仲谷真一

病には負けたらあかん　あかんよね
松明の火の粉をあびる祭りの夜
マグロなど無くてもいいわ私には
おにぎりに梅干一つ入れてよね

羽曳野市　松本静子

転勤に妻と子供は残り組
雪被る山も味付けグルメ旅
限定に弱いわたしは土産増え
仕舞風呂日付変って大欠伸

羽曳野市　宇都宮ちづる

のんびり屋お陰で損も得もする
馬鹿みたい構わぬ主義のパラダイス
とんだ事とんだ所で聞く巷
太陽と煽てられてるこそばゆさ

阪南市　坂口公子

足腰も弱り疎遠な縄のれん
にがい酒呑んで人生したたかに
酒呑めば一部始終が読める歳
晩酌で溜めたストレス消えていた

枚方市　小川良吉

点滴の落ちる優しい無言の音
シャンパンも居酒屋で飲むムードなし
あやまちを悟る青年頬笑まし
仏教の心理さとれず無神者

枚方市　坂本　ミヨノ

寒稽古耐えて楽しい鏡割り
人だかり訳あり野菜道の駅
靴の紐メタボが邪魔し結べない
花粉症の医者へ「大事に」言い帰る

箕面市　寺井　柳童

締切に追われ苦しむ前頭葉
義理と人情の狭間で立泳ぎ
不景気で遠出を避けて篤農を
五輪中作句中止の指令出す

八尾市　前田　紀雄

国の宝が遊戯している幼稚園
番号の海で浮いてる泳いでる
鈍感な脳が本屋でよみがえる
地球の裏で揺れる壊れる地が割れる

八尾市　赤木　妙子

寅年を七度重ねて丸く生き
夫逝きておひとりさまを三十年
老骨をいたわりながら生きてます
読み返す絶筆となる年賀状

八尾市　中島　春江

あんたはん米寿到達お目出度う
懐はあんたまかせのショッピング
雪吊りの縄の張り良し開花亭
マニフェスト絞り切れない物があり

大阪府　若月　祐作

義理だけに使う気遣い嫁の愛
上には上この辺あたりが自分らし
ねぎらいを待たず自分を褒めてやる
偶然の出会い少しはうつも晴れ

大阪府　小栢　こずえ

スーパーの特売庶民の縮図見え
走り書き後で読めない農日誌
あたたかい話題に飢えている寒さ
一年が早い早いは健康ね

大阪府　畑中　節子

浜風にスキップ出来る喜寿の旅
杖の数増えて集まる同窓会
桧の肌なでなで渡る新宇治橋
旅途中訃報も入る同窓会

大阪府　西川　冷子

架け橋になって平和をかみしめる
髪型を変えて春風吹いてきた
不揃いに並ぶ林檎が背伸びする
お茶漬けにほっとしている腹の中

神戸市　早川　孝子

日当りのよい窓際で爪を研ぐ
世渡りの上手な風にひょいと乗る
古傷が疼く昔を恋しがり
ピンチにはジョーカー欲しい時もある

神戸市　山崎武彦

向き合えば貝もぱっくり口開く
おふくろの味はおせちに引き継がれ
生きたいと思わす今朝の青い空
バイキング世界一周味の旅

芦屋市　竹山千賀子

大切にしすぎ好物腐らせる
年頃になると周りが騒がしい
平凡な手だが指紋は個性的
太陽と月比べるように父と母

尼崎市　藤岡りこ

感謝して今を大事と生きる老い
膝痛に医者の答えは痩せること
ゆっくりと寒を惜しんで咲く椿
老いの坂萎える心に鞭を打つ

尼崎市　小池幸子

義歯こわれすべての予定キャンセルに
今呼ぶか不安な顔の患者たち
春を待つ虫白菜にかくれてる
心よく税の相談のってくれ

加東市　黒崎美紗子

何かせねば落ち付かないと齢性（よわいさが）
テレビ旅に友する私もう行けず
三十五忌姉妹母より齢越す
句は2B絵画6B生きの友

加東市　岩本美緒子

暑がりや寒がりストーブ迷わせる
この歳でこんなに美味し朝御飯
ひとりまた淋しくなってこの寒さ
かきもちを今年も作り孫の顔

篠山市　永井かほる

煩いをことこと焙る安定剤
白和えを供えて詫びる凍てた朝
ベランダの雲古里の空へ向く
追伸はひとりぼっちの吐息だけ

篠山市　沢山啓子

申告を済ませてまずは軽い足
週末は孫が介護の助け船
部屋の中今日もリハビリ凌ぐ寒
口紅を新色にして春の風

三田市　辻開子

花まるをくれる赤鉛筆が好き
嘘一つバレンタインの日が暮れる
ジェラシーがグラスの底で揺れている
ハイヒールぴったり私はシンデレラ

篠山市　酒井真由

宝塚市　丸山孔一

相続で揉めないように収支ゼロ
形見にもならぬ物だけ家に有る
ピンボケの写真撮るには技術要る
よもすがら何する事も無くひとり

西宮市　吉井菜々子

ひと息のコーヒーこれで三杯目
うっとりと落雁ひとつ溶けてゆく
三日月と夜更けのジャズを聴いている
強がりなわたしを抱いている枕

西宮市　足立茂

ワイシャツの紅からけんか飛び火する
時は金 時が余って足りぬ金
前祝い派手にやったら予選落ち
好きなのと聞かれて困る選択肢

西宮市　株元玲子

生まれ来て五体そろって感謝です
期待の児染まる色合い夢に見る
負けてたまるかと二歳児に拗ねて見る
家族増え心の絆厚くなる

三木市　山口久子

今も好き忘れられないあの言葉
夢の中孫に囲まれ宝船
福は内ひ孫の声に鬼逃げる
十五年震災癒やす作品展

兵庫県　日野岡和之

秋風に委ねた枯葉地に還る
無我夢中毎日好きに時間割り
今年また梅一輪の幸に逢う
老い新た踏みしめ歩む年はじめ

奈良市　矢野良一

初恋のデートはいつも御堂筋
縄のれん見知らぬ仲も俺おまえ
長崎は演歌のように今日も雨
香水が梅の香りの邪魔をする

奈良市　岩本浩二

約束を破ってからの白い風
柳縁があって楽しく集う句座
愛よりも打算で選ぶ三十路過ぎ
姑に似てきた嫁の塩加減

奈良市　加門萌子

気象予報見込み違いという気楽
物騒な世監視カメラに異存ない
イソップのはなし誰かに聞かせたい
生き残る厚顔という武器も有る

奈良市　辻内げんえい

日暮れ前に散歩行こうと急かす犬
孫帰りジジ腰痛の置き土産
腰痛で一歩も出ずに松の内
新聞でネット遅れのニュース読む

ほんとです四月一日誕生日
エイプリルフールまたもや引っ掛かり
高校生口を開けばメシばかり
この歳で柳友の縁賀状増え

奈良市　阿部茶々

満ち足りたはずの欲また首もたげ
飼い犬が主人をリードする散歩
安売りの行列隣にも知人
埋蔵金まだあるはずと掘っている

奈良県　谷川憲司

罪と罰味わっている二日酔い
会ったこと無いがみすゞに惚れている
一升瓶目印妻が入れている
神畏れ処分出来ない注連飾り

和歌山市　磯部義雄

確かめてみてもマイナス申告書
着膨れて手足が出ない雪ダルマ
転た寝を摘み食いして春を待つ
ラガーマン縮んで伸びて春の風

和歌山市　坂部かずみ

村芝居野良も一役買っている
妻に技えがお一つで黙らせる
不況でもドンと構えてくれる姑
いい事があって腰痛忘れてる

和歌山市　根田よしこ

漬物が本気の味を出す重石
思惑の違う話に出来る溝
退院の二文字が春を奏で出る
ほどほどの欲懐に生きて行く

岩出市　村中悦男

あの頃の眩しい君に出会いたい
なんとなくはずす指輪にある本音
どっきりとハートがゆれる曲り角
回り道だけど後悔したくない

岩出市　藤原ほのか

心模様いくつも見える風の色
真ん丸い記憶に欠けたとこがある
萎えてきた心鼓舞する歌がある
背伸びするポキッと朝の音がする

紀の川市　辻内次根

食欲に胃も驚いた旅の朝
方針を決めて左右の風を切る
わが脳をはるかに越える電子脳
のんびりと猫とおしゃべり日向ぼこ

橋本市　石田隆彦

立春や春の兆しはまだ見えぬ
春なのにああ春なのに今日も雨
人生の春を知らないままに老い
蕗のとうちょっぴり苦い春の味

鳥取市　近藤秋星

月初め仏壇の花取りかえる
桜餅甘い香りに手が走る
七奉行頼りになると思います
庇いだてするほど落ちる民主党

鳥取市　津村律子

欲深く学べるものは今学ぶ
師に学ぶ巧言無用窓磨く
産道で学んだモラル日本製
気がついた学ぶ欲ありストレッチ

鳥取市　大前安子

新学期もらうペンにも夢がある
大根のひげにあやまることがある
強がりか口ひげピンと張ってくる
人前は貴方と呼んで二枚舌

鳥取市　坂本なつみ

枯木でも雪を冠れば花になる
散歩するだけで感心される歳
気に入った写真遺影に区別する
明日は我が身かおくやみ欄に目を通す

鳥取市　山口千代子

初詣で一年分の無事祈る
石段を登る手摺に歳思う
節分の鬼は元気で豆たべる
年重ね花粉症までついてくる

倉吉市　藤井美津恵

割り勘に下戸も虎の子そっと出し
にっこりと鬼の牙ぬく赤ん坊
ちらかして黒枠にする写真よる
マニフェスト決めて守れぬ父頑固

倉吉市　前田喜美子

老いた母互角に返す自己主張
団栗の背比べだね母が笑む
変化ない里の山川人気なし
母の後追うには早い古希の坂

倉吉市　田中紀美恵

大虎も妻の前ではダルマ猫
好物を大事にしまいカビがはえ
今地球恐れていますヒト科人
受験中スキースケート興味なし

境港市　中井虎尾

一眠りするたび悩み失せてゆく
しわの数確かめたくて鏡拭く
赤い靴履けば歩幅が広くなる
畳替え障子張り替え何を待つ

米子市　小塩智加恵

温暖が続き地球の吐息聞く
衝突の傷を押さえて痛み分け
産直の米に自信の顔写真
乾杯の音頭取る日の髭を剃る

米子市　猪森スミエ

年とれば打算が走る手が見える
孫たちが帰りほっこり二人きり
喧嘩して距離をおいては元のさや
強い虎鳩に勢い貸してくれ

米子市　田村周子

税収の不足予算を孫子負い
背のびした暮らしのつけに大慌て
杯進み腹の中まで見えてくる
爪に月見えて退院近くなり

鳥取県　岡村孝明

うっかりに歯止めをかけよ脳に鞭
うっかりが頻繁になり笑えない
役立てぬ片手袋が愛おしい
子供らと本気で向かい合った頃

鳥取県　岡本幸枝

咀嚼しておとなの味の曖昧さ
思い出が降りだす午後の青い空
自分飾って嫌悪感あふれだす
早春の大山兄のキャラボク忌

鳥取県　斉尾くにこ

にっこりとされて記憶の谷探る
無い知恵の最後に振ってみる頭
階段をトントンおりた良い調子
曖昧を裁けば味気ない夫

鳥取県　加賀田志延

打算など何もなかった青天井
頑固さも取れないままに行く浄土
先妻に負けないように字を習う
庭石も私も老いて枯れ芒

鳥取県　下田茂登子

ひっそりと一円玉の底力
夕陽からもらう明日のエネルギー
コンクリート人の命を大切に
大根の白いつぶやきから春へ

鳥取県　田口清帆

不意打ちを食ってあわてる猿の山
パレットで自分好みの色を溶く
箱庭に夢の種まき春を待つ
しきたりの中に新風少し入れ

鳥取県　大塚美代子

運命は己で開くものと知る
司馬さんの竜馬伝など競い読む
仏さま撫子の香りいかがです
歩く道憂い捨てようケセラセラ

鳥取県　岩崎和子

赤い服ちょっぴり若い気分です
上手だと言われちょっぴり赤くなる
エネルギー青い空からやってくる
他愛ない貴方と朽ちて行く余生

鳥取県　飯野菖子

トラクター出番は年に十日ほど
大方は小作に任せ楽農家
春風になびかせたいが髪がない
源平の流れの村が対峙して

鳥取県　鳥越鬼一

年金にばっちり合わせ息つなぐ
瀬を探る浮世の波の竿さばき
やんわりと児を靡かせる母の技
太鼓判押して忘れる無責任

鳥取県　吉野いさお

迷うほど贈る言葉が多すぎて
デートではあなたに損はさせません
消去することはできない過去その他
今一つ塩が足りない若白髪

松江市　相見柳歩

人のこと笑えぬ事をやっている
食卓は賑やかにして一人前
名物はないけど里は温いとこ
人生は晴れのち曇りみんないい

松江市　山根邦代

充電のつもりが疲労して帰る
浅漬けパリパリ程好い塩加減
ケータイが介護の日取り左右する
パーティーの服を探して買った頃

松江市　錦織禮子

病む母に口下手な子が口開く
病む母に声の変化を隠せぬ子
税金が内の取り分邪魔をする
セーブする機能のネジがゆるんでる

松江市　松浦登志子

遠い日の足音辿る古日記
追伸にやっぱり本音書いておく
また来いと母の手土産栗ご飯
新調の財布小銭が躍ってる

出雲市　川島和歌子

安売りのことばにうまくのせられて
金もいいが今の平和があればよい
石段を降りるところで歳を知る
温暖化卒寿の坂に優しくて

雲南市　福間博利

毎日が鶴と亀との名コンビ
おだてられその気になった風車
気にしない気にしないと言う鍋の底
諺が癒してくれる雨上り

雲南市　渡部好榮

スーパーで済ます七草粥のこと
多病息災後期高齢医者通い
書き初めを孫と一時癒やされる
他人の振り見ては鏡の内と外

安来市　原煩悩児

味噌汁は黙ってすする大家族
国のための国会ですか粗探し
上棟の神酒は呑んだ振りをする
スキー場準備万端して休み

美作市　小林妻子

民宿の自家製ですと持てなされ
うまいはず世界遺産の米だもの
雪しんしん明日のメルヘン待つカメラ
わたくしへご褒美ですと梅の咲く

広島県　若年幸子

ロボットの如く電池を入れ替える
出来すぎた孫とぼんくら息子です
医者代よりいいよいいよと鍋の底
奇麗にし愚痴聞いてくれ美容室

竹原市　土井輝恵

コーヒーとあんパン一個ひと休み
古希記念夫婦茶碗もはや三とせ
ヒヨドリが柑橘類を下見する
我が家でも箱物処分実施中

竹原市　六田半徳

肩書の重さで決まる指定席
座布団をずらすと見える下心
多数派にまぎれ男の立ち泳ぎ
本当の恋は歳など気にしない

宇部市　高山清子

幸せを頒け合ってゆく有難う
慎ましく暮らせば愚痴も遠ざかる
言い切ってちらり顔出す侘びた顔
爪に火を点して貯めるだけの銭

今治市　渡邊伊津志

振り向けばまだゆれているかずら橋
孫曽孫背負った祖母の丸い背な
花便り杉の花粉を連れてくる
死に神に嫌われ米寿通り過ぎ

香南市　近森功

ツアーには無理と体に教えられ
ささくれた手を振る母の無人駅
立ち話冷凍食品解け始め
娘がくれた十年日記六年目

唐津市　吉冨節子

芋粥をほっかり食べて妻の夢
何もすることなきままに疲れおり
なるようになるさどっこい腰を据え
試食箸うまいの言葉まだ包み

唐津市　岩崎實

何時打った覚えぬ打身老いの痣
色色の年金祖父は福の神
自分史は表と裏の二冊いる
古唐津の裏の数字でそっと置く

唐津市　北村松風

北九州市　小松紀子

生かされて今日という日が試される
スイーツはパワーのみなもとやめられぬ
有り難とうご免なさいを言えば楽
寒いねー朝の挨拶背が丸い

シドニー　三谷たん吉

情けない肩身のせまい日系人
日本中まるごと汚職疑惑の世
選挙など何度やっても意味がない
日本人やめたくなって天仰ぐ

メルボルン　藤原ポン吉

政党が代われど議員嘘不滅
真剣に未来案じた時遅し
勝つために敗者見捨てる病む日本
目の前の危を見て国を見ない議士

網走市　角谷幸甚

雛飾る嫁跨いでいる内裏
半丁の湯豆腐掬うふたり膳
倒れたら俄か賑わう枕元
野良猫に生まれ因果な雪の夜

東京都　井上つよし

不景気の雲突き破れ初日の出
豊かさの裏に格差の影長く
メタボでも心豊かに色白で
カラオケで喉と心の煤払い

東京都　髙岡弥生

主役は子卒業式で親はしゃぐ
冬嵐家にこもって鍋つつく
ドキドキの合格発表楽しもう
大学生長い休みも今だけね

昭島市　野口忠

オバマ氏のオジギが記事になる平和
ご近所とおしゃべりが過ぎ笑い皺
円満の秘訣妻へのありがとう
雪が融けふるさとの母伸びをする

八王子市　上原酒坊

新雪を踏んでヒグマが街へ来る
友情に打算賤しく見え隠れ
我が家には溜息ばかりつく財布
階段を踏み間違えて地獄行き

横浜市　巌田かず枝

品格については自信ありません
ラッシュ時に前後の美女が化粧する
本当に守りたいのは何ですか
童謡の三番までは歌えない

栃木市　岡野すみれ

祭壇の笑顔無念も秘めている
これ以上節約はない雑炊食う
野良猫と同じわたしの放浪記
気を抜くと病どんどん押し寄せる

（渡辺芳子・平野あずま・脇田雅美三氏の句は46頁に掲載）

■句集紹介

『女ごころ』

西口　いわゑ著

山本義子

句集「女ごころ」のご上梓おめでとうございます。まことに嬉しいかぎりでございます。ありがとうございますの言葉が尽きません。

二〇〇六年三省堂発刊の「現代女流川柳鑑賞辞典」田口麦彦（編著）にお名前を連ねる方の句集がございませんことを、かねがね不思議に思っておられる方々のことを耳にいたしておりました。

ことほど左様に今回句集のご紹介をさせていただくことは荷が重うございますが、この文を書くにあたりましては、真剣に読ませていただきました。

お人柄は句の中にふつふつと表現され、あるいは句の中にお人柄が偲ばれます。

スケールの壮大なこと、山川草木へのさまざまな想い、日常の暮らしにも洒落っけと軽快さが、十二分に読みとれました。

大空にチョーク一本あればよい
オーイ雲テープを投げてくれないか
草に寝て宇宙のパワーひとりじめ
転んだら天がにっこりしてくれた
天という鏡に嘘が通じない
まっさらのノート無限の海である
生きるのは下手でいいんだ天の声
未来永劫女ごころは謎である

また円熟の魔女、いたずらっ子のような洒落っけから醸しでる作品が見事でございます。平易な言葉がいのちを得て無限に広がっています。

化粧ポーチすこし不倫に憧れる
敬っています我慢しています
夕焼けのなかで悔しさとけてゆく
裸婦像の豊かさ負けたなと思う
モナリザの真似も結構くたびれる
だまされたままの幸せだってある

表紙、裏表紙の可愛い薔薇に、なるほど「薔薇のいわゑさん」と感嘆いたしました。華やかな一面、優しさと鋭い観察力には恐れ入りました。また、どの句もそうですが、漢字、ひらがな、かながきの使いわけが絶妙でございます。

ばらが散る恋の衣を脱ぐように
風邪の子の見舞いのようにバラが咲く
群咲いて薔薇もいくさをしています
約束を果たしたように薔薇がちる
壺の薔薇へしもべのように水注ぐ

ご両親さまの句、心温まり心静まります。

青空に母のいそうな雲がある
無口でも父が座ると座がしまる
母が住む星に梯子が届かない
訥弁の父の傍には母がいた

酒の句はちょっと苦手で最後になりました。でも私の願望の句でもあるのです。酒脱にして自然と座を明るくされされるお酒の句に尊敬を表します。

酒の瓶よきに計らえなど申し
飲みっぷり見込まれ鬼の仲間入り
お月さま今日は楽しいお酒です
熱燗とひととき天下人となる

未熟者のわたくしが検討違いなことをあれこれ述べましたことと存じます。お許しを願います。しかし、一ページ目からしっかり読破する機会を得ましたことを感謝いたします。そして、言葉には底力と言うものが宇宙的にあることを実感しました。常に貯蓄し必要なときに取り出し練り直すことを教えられました。

いわゑさん。私は西宮北口川柳会に席をおかせていただき幸いでございました。今後ともご指導のほど、お願い申し上げます。

エッセー

ニュースの順序

仁部四郎

挿し絵代りにお借りした漫画は、針すなおさんの作品で、二月七日の佐賀新聞に掲載されたものである。

二月四日は立春であったが、テレビは大多忙の日で、新聞も号外が出たりした日であった。大相撲の横綱朝青龍関問題の日であり、民主党の小沢幹事長問題の日であった。而して、号外は、朝青龍問題であったことは、当分は記憶に残ることである。

二月五日の朝刊一面の見出しは、十社十色とでもいうべき状況であったろう。県紙・佐賀新聞は、有明海諫早湾の締切り問題に関するものであったが、朝日新聞（西部本社版）では、「小沢問題」がトップであったし、「朝青龍」がトップという中央紙もあったとすれば、その新聞の読者にはさぞかし賛否両論があったことであろう。

テレビでも新聞でも、ニュースの順序については大きなエネルギーを使っているはずで、受け手の側の時間帯や地域を勘案して決めているわけであろう。テレビは、家庭で複数のチャンネルを録画しておいて比較するということは、きわめて少ないと思うが、新聞は二紙三紙を読みくらべることは、それほど無理なことではないから、テレビより遅れたニュースでもその順序を検証することは、なかなか面白いことだと私は思っている。

二月七日から八日にかけて、メディア各社の世論調査の結果が紹介された。小沢・鳩山問題である。小沢幹事長への〝支持率〟の依然たる不振が調査結果のポイントになったようである。世論調査の設問には、メディア各社の姿勢があって、いわば誘導性があるのかもしれないが、私には設問の全てを各社について読んだとしてもそれを分析する能力がない。それでも、数字化された調査結果は、世論の目標というか潮の流れを示唆しうるものと考える。

夢のインタビュー　針すなお

朝青龍問題も小沢問題も、時事川柳にとっては、まさに恰好の題材であった。針すなおさんの漫画をこの一文にお借りしたのは、私としては、時事川柳の総括をしてもらえるものと考えたからである。吹き出しのセリフと二人の表情が、まことに心にくいまでの描き手の技の冴えである。

芸能界のことも毎日のニュースの大きな部分を占めている。とにかく量が多い。

ＮＨＫも、自家製品の「広報」が多くなってきて、タレントが演技以外で画面に出てくることがふえてきているので、どのチャンネルのどの時間帯でも芸能ニュースが流れているかのような錯覚に誘われて、後期高齢者だからか、私は疲れる。

ニュースには、送り手も受け手も、それぞれ順序をつけている。

殺人事件にしても、公務員の汚職にしても両者それぞれの価値観があっての評価である。事件が発生した日時を、「昭和二十年」ではなくて「一九四五年」と記録する方向が大きくなっているらしいが、精精注意してニュースに接したいものである。（平成22年2月9日）

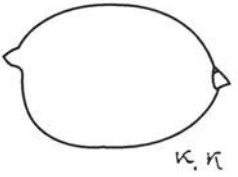
七十路で探す日本を読む元気

共選欄

檸檬抄

（薫風書、カットとも）

（投句　七四〇句）



「文房具」　三宅保州選

名句浮んだ時は手元にペンがない　和歌山県　森下よりこ
パソコンを駆使して老いを遠ざける　大阪市　小谷　集一
乗り遅れまいとカタカナ語の辞典　八尾市　生嶋ますみ
漢検の挑戦ノート山になる　日高市　根岸　方子
はみ出した夢をセロテープでつなぐ　神戸市　両川　無限
少女趣味の一筆箋に夢をみる　橿原市　安土　理恵
それぞれが目盛の違うサシを持つ　明石市　糀谷　和郎
算盤は商いの汗知っている　大阪市　鶴田　遠野
ホッチキスで繋ぎとめてる愛もある　大和高田市　鍛原　千里
切りだしで削ってとんだ竹トンボ　寝屋川市　太田とし子
文房具だったナイフが今凶器　宇部市　平田　実男
コンパスの丸さに習うかごめの輪　和歌山市　武本　碧
コンパスでひと跨ぎして君の街　米子市　竹村紀の治
コンパスが無くても丸い字が書ける　和歌山市　福本　英子
コンパスも分度器もあることはある　堺市　奥　時雄

「文房具」　高田美代子選

春の歌口ずさんでる文房具　八王子市　播本　充子
コンパスの円周梅の香とワルツ　生駒市　飛永ふりこ
カタカタと鳴るピカピカのランドセル　大阪市　川原　章久
コンパスで描いたみたいなお月さま　和歌山市　根田よしこ
平和はいいふんだんにある文房具　大阪市　片岡　松枝
文房具買えない国もあるんだよ　大阪市　安藤なつこ
百均の文具売り場で待ち合わせ　堺市　内藤　憲彦
消しゴムがあるから今日を書き直す　紀の川市　辻内　次根
消しゴムじゃ消えない人生の汚点　八尾市　村上ミツ子
街角に文具屋がある懐かしさ　藤井寺市　若松　雅枝
ボールペン修正液に恩がある　東京都　岸野あやめ
4Bで心変りを書いてくる　寝屋川市　森　茜
コンパスで美しい地球を描く　藤井寺市　津田シルク
ペン胼胝に熱い想いを語らせる　和歌山市　武本　碧
シャーペンがいきいき喋りだす夜中　阪南市　森村　美花

筆ペンはためし書きして買ってくる　西宮市　牧渕富喜子
万年筆といっしょに枯れてゆく父権　弘前市　髙瀬　霜石
消しゴムが嫉妬している削除キー　豊中市　水野　黒兎
筆箱もないが風の子だった日々　河内長野市　山岡富美子
ノート一面好きな子の名で埋め尽くす　京都市　三宅　満子
最後まで見捨てないでとボールペン　岸和田市　中岡　香代
どこからか貰ってすますボールペン　佐渡市　髙野　不二
クレヨンの折れた同士がさわぐ箱　大阪市　柴本ばっは
黄の絵の具ばかりが減った春の土手　鳥取市　有沢せつ子
虹色のクレヨンで描く絵空事　犬山市　金子美千代
恋のスケッチ不思議色ですパラダイス　枚方市　小林　わこ
鉛筆は我が身削って役に立つ　河内長野市　山本　莞子
鉛筆の先で僻地へ飛ばされる　吹田市　穴吹　尚士
鉛筆を転がしたって出ぬ答え　堺　市　羽田野洋介
鉛筆で恋の信号トンツーツ　河内長野市　松岡　篤
鉛筆が尖ったままの締切日　福岡県　林　さだき
鬱々と鉛筆の芯尖らせる　米子市　政岡未延子
鉛筆を削り心を尖らせる　川西市　西内　朋月
色鉛筆みんな使って書くハート　豊中市　江見　見清
百均でつい買い過ぎた文房具　川西市　米原　雪子
母の書く名前が守る文房具　鳥取市　深澤千恵子
ふる里に駄菓子も買える文具店　姫路市　古川　奮水
文房具買い揃えると春になる　吹田市　大谷　篤子

算盤は商いの汗知っている　大阪市　鶴田　遠野
放課後にノートを持って友見舞う　堺　市　大隅　克博
切りだしで削ってとんだ竹トンボ　寝屋川市　太田とし子
筆談は病んでる父のペンで書く　大阪市　澤田　和重
弱音などペンは知らない闘病記　横浜市　菊池　政勝
早合点修正ペンに救われる　紀の川市　北山　絹子
税務署へ尖ったペンで申告に　和歌山市　福本　英子
ペン持てば無口が嘘のようなひと　鳥取県　石谷美恵子
鉛筆で下書きしてる遺言書　吹田市　穴吹　尚士
一本のペンが大きな夢を書く　神戸市　山田婦美子
失敗も過去も飲み込むシュレッダー　大阪府　髙木　道子
コンパスがバレーを踊る幾何模様　三田市　上垣キヨミ
石筆で学んだ祖父の字が達者　田辺市　岡本　昇
主義通す筆は一本あればいい　弘前市　高橋　岳水
鉛筆を転がして見る子の行く手　福岡県　林　さだき
鉛筆に始まり鉛筆で終る　堺　市　奥　時雄
太筆で一字書きなど冬の天　芦屋市　黒田　能子
傍らに亡母の残した硯箱　羽曳野市　宇都宮ちづる
うずうずと花を描きたい十二色　藤井寺市　鴨谷瑠美子
分度器で測る魅力の出るポーズ　和歌山市　古久保和子
鉛筆を尖らせて書く次の章　網走市　角谷　幸甚
ワープロを敵にまわした赤いペン　富田林市　片岡知恵子
マーカーを入れて念押す事ばかり　和歌山市　坂部かずみ

文房四宝愛し書の甲子園　箕面市　寺井　柳童
みよちゃんへまだ貸したまま文房具　鳥取市　加藤　茶人
学校前に文具屋がありました　芦屋市　黒田　能子
机の向き変えて文房具が生きる　今治市　渡邊伊津志
文房具机の上で笑いこけ　松江市　小川　注湖
ディズニーが勢揃いする文房具　八王子市　川名　洋子
ポールペン機嫌いい日と悪い日と　札幌市　小沢　淳
文房具揃えられずに逆あがり　藤井寺市　鴨谷瑠美子
赤ペンを持つと悪魔になってくる　和歌山市　玉置　当代
ペーパーナイフ刃わたりは充分だ　京都市　高島　啓子
滑らない五角鉛筆子に贈る　弘前市　斉藤　劦
ペン持てば無口が嘘のようなひと　鳥取県　石谷美恵子
ホッチキス要らないものも止めたがる　松江市　川本　畔
消しゴムを貸して自分の名を消され　網走市　角谷　幸甚
大物を目指す作家の紙の山　八尾市　宮西　弥生
らく書きの半紙で鼻をかんでいる　鳥取市　土橋　螢
文房具買える日を待つひきこもり　堺　市　志田　千代
ボールペン芯はあっても字が出ない　鳥取県　岡村　孝明
コンパスの小さな○に住んでいる　八王子市　上原　酒坊

「秀　句」

マーカーを入れて念押す事ばかり　和歌山市　坂部かずみ
雲形定規身の振り方を考える　大阪市　谷口　義
傍に四宝を備え粗衣粗食　橿原市　居谷真理子

体温も呼吸も移すペンの先　橿原市　居谷真理子
コンパスを回すわたしのテリトリー　鳥取市　倉益　一瑶
ホチキスの自慢話を聞き飽きる　弘前市　髙瀬　霜石
墨痕の滲む余白にある宇宙　河内長野市　村上　直樹
一本の筆で平和も戦争も　さいたま市　星野　育子
コンパスの小さな○に住んでいる　八王子市　上原　酒坊
エンピツを削る明日は参観日　富田林市　古田　千華
てにをはを修正液が甘やかす　大阪市　升成　好
勘という尺が宿って匠の手　羽曳野市　徳山みつこ
消しゴムで消せない私の噂　富田林市　中井　アキ
文鎮の重さで心寝押しする　紀の川市　宇野　幹子
雲形定規身の振り方を考える　大阪市　谷口　義
机の奥に青い三角定規　鳥取県　加賀田志延
赤ペンを持つと悪魔になってくる　和歌山市　玉置　当代
鉛筆が倒れた方に○をする　鳥取県　鳥越　鬼一
乗り遅れまいとカタカナ語の辞典　八尾市　生嶋ますみ
まっ直ぐに描けぬ定規をもてあます　枚方市　伊達　郁夫
番記者のペンはスクープ見逃さず　東大阪市　佐々木満作
入籍も離婚も同じボールペン　大和高田市　鍛原　千里

秀　句

筆談の6Bが書くアリガトウ　島根県　伊藤　寿美
はみ出した夢をセロテープでつなぐ　神戸市　両川　無限
物差しの違いを認め合い夫婦　高槻市　片山かずお

麻生路郎句抄

（句集『旅人とその後の作品』から）

不死鳥

水の垢

見はらしをもう外人に奪はれて
ソアラー機 都会の屋根が 魔の如く
さすが銃後 桜は咲いただけですみ
をかしさは 鯨の靴に豚の靴
磨一歩退き 小手をかざしたり（近衛内閣総辞職）
ああほんに ほんにとあほぐ後の月
外科を見舞ひ 代筆たのまれる
聖書一冊 菊一輪の二階也
千人針 胡瓜抱へた 手でも縫い
日ぐるまも 兵を見送る如く也（玉出駅踏切にて）
とろろ昆布 しほこぶ 闘志衰へず
包紙に 鰻 図案化されている
拾ひ屋のすがたも霞む窓にいる
選挙違反 あの料理屋の灯を思ひ
赤心一票やりどころなし
同情の最後の品に 米俵
外国の例で 市長は切抜ける
人妻になって 卑怯な 眼を使ひ
二人して読むは 祝ひの手紙なり
二階のに 聞かされている 河豚の味
台風へ 念仏も出ぬ あわてよう
灯火管制 そこへ大きな月が出た
妾ともつかず一年世話になり
職人同志 脚気の足を見せ合うて

愛染帖

新家　完司　選

ナメクジでさえも足跡光らせて

和歌山市　古久保和子

（評）半世紀以上も生きてきて、さて、何を残すことができたのか？　忸怩たる思いで振り返るが、ナメクジほどの足跡も残っていない。

大阪市　谷口　義

動物園と氏神様はたまに行く

（評）なんとまあ、動物園と一緒にされて氏神様も苦笑されていることだろう。七・七・五という破調の難を面白さが凌いだ。

鳥取市　岸本　宏章

公園の子供の声は騒音か

（評）子供は騒がしいものであり、公園は遠慮なく騒げる場所であるべきである。それが迷惑なら公園のない所に引っ越すしかない。

篠山市　円増　純子

入院の度に心を入れかえる

（評）簡単に入れ替え出来る「こころ」。だが、入れ替えたはずの新しい心は、いつのまにか元の心と変わらないものになってしまう。

弘前市　高瀬　霜石

風邪引いたときだけ妻に感謝する

（評）世話をしてもらうのが「あたりまえ」のようになった亭主も、たまには「ありがたい」と思うときがある。病気の効用だ。

京都市　三宅　満子

病む友へかける言葉も種切れに

（評）簡単に治る病気や怪我であれば会話も弾むのだが…。心身ともに弱っている人を励まそうとするとき、言葉の限界を思い知る。

大阪市　小谷　集一

面白い人やと軽く見られてる

（評）確かに「面白い人」という評価は、軽く見られている感なきにしもあらず。だが、人を笑わすのが得意な人は、友人として最高。

八尾市　生嶋ますみ

疲れたら休もう私若くない

（評）暇を持て余している人はボケやすいが、忙しすぎる人は過労から体調を崩しやすい。「心は若いが、身体は若くない」と考えよう。

神戸市　山口　光久

満月を背負い至福の千鳥足

（評）俗世の煩わしいことなど忘れ果てて、ふらりふらりと鼻歌まじり。「たまにはいいでしょう」とお月さまも微笑んでいる。

大阪市　坂東　倫子

どう生きるかも考えずただ生きる
四方八方鬼に囲まれ豆を撒く

鳥取県　竹信　照彦

お見舞いし僕も病気と慰める
元気だから行けるお見舞いお葬式
句作りによい病院の待ち時間

河内長野市　針生　和代

新聞をまあるく読んで昼になる
パパの地位低いとポチもお見通し

八王子市　上原　酒坊

春来ても黄色のサイフ大あくび
水虫はブーツの中で生き続け

紀の川市　北山　絹子

私も好きで老いてる訳じゃない
百均の傘で凌いだ小糠雨

弘前市　福士　慕情

ボクの句が駄句の見本になっている
雪回廊今年も同じ記事が載る

藤井寺市　鴨谷瑠美子

通学路むかしは花が咲いていた
娘の好きな頭も骨もない魚

大阪市　萩原　大朔

風格と見たのはただの酒肥り
里の谷上る楽しさ竿を手に

倉吉市　松本よしえ

ストーブで沸かす丹波の黒豆茶
福寿草咲いた思わずありがとう

箕面市　広島　巴子

反省を込めて鏡に豆をまく
風邪だけは夫婦仲良くうつし合う

網走市　角谷　幸甚
共生だ猫の見つけた日溜りへ
ボケ防止音読がいい雪の夜

高槻市　安田　忠子
救急車に音出さないで来てと言う
ベッドから青空眺め春はそこ

鳥取市　有沢せつ子
体調をためす靴下立って履く
働いた手の皺ルビーなど知らず

堺　市　村上　玄也
ボケる前に死ねたらよいと思ってる
若き日に強かったとは酒のこと

寝屋川市　平松かすみ
ペンダコはバブル時代の名残りです
残り物みんな私の胃に落ちる

枚方市　丹後屋　肇
冬ざれの夕陽背中が暖かい
底冷えに闘志を燃やす万歩計

橿原市　居谷真理子
押入れに貧と貪とをぎゅう詰めに
きれいだね根っこのついてない言葉

鳥取市　土橋はるお
鍛冶町に鍛冶屋一軒たりもない
出し抜けな事を喋って座を奪う

大阪市　岩崎　玲子
正月は客が来るので瓶ビール
ケーキの名むずかしく指さして買う

大阪市　岩崎　公誠
第3のビールは泡が気にいらぬ
まだぬくいお骨へ初七日のお経

東京都　岸野あやめ
半額で得した気分その日だけ

橋本市　石田　隆彦
我慢してほめられもせず歯の治療

海南市　小谷　小雪
晩鐘を聞いて愛犬ご帰宅だ

松江市　津川　紫晃
エコエコと囃して伸ばす棒グラフ
まだ使える物がわが家を狭くする

和歌山市　木本　朱夏
国民の夢を抱いてる桜の芽

吹田市　太田　昭
久し振りピーヒョロロ聞く春の浜

鳥取県　細田　裕花
梅ひらく空がこんなに青いから

三田市　堀　正和
ミニスカート流行ると景気上を向く

篠山市　酒井　真由
ふるさとの山を背にして右は西

大阪市　井丸　昌紀
戦死者の数を伝えて九条派

寝屋川市　籠島　恵子
浮かんでは消える言葉を繋いでる

唐津市　仁部　四郎

八尾市　高杉　千歩
干からびたお肌へベビーオイル塗る

香芝市　大内　朝子
くしゃみにも気力溢れるおとうさん

海南市　三宅　保州
メラトニン無いのか夜中すぐ目覚め

篠山市　一階　幸子
僕ひとり嘆いて変わる世でもなし

唐津市　山口　高明
電気料和んだあとのつけが来る

西脇市　七反田順子
ワクチンもないに元気な寒鳥

浜松市　岡田　史郎
カタログは見て楽しんで買いません

鳥取県　石谷美恵子
医学書の虜になって病んでいる

弘前市　高橋　岳水
バリアフリー足がだんだんもろくなる

加東市　中上千代子
なんとなく生きてる証年賀状

和泉市　横山　捷也
事故に遭うとは思わなかった下着

京都府　松本としこ
人間の脆さを包み込む地酒

大和郡山市　坊農　柳弘
焼き芋の湯気を分け合う立ち話

東京都　清原　悦子
マンネリに気合を入れる朝歩き

河内長野市　梶原　弘光

松江市　川本　畔
札束の声はボソリと低い声

三田市　上垣キヨミ
節約の心が揺れる春うらら

八尾市　前田　紀雄
サァやろか気合を入れて孫と囲碁

藤井寺市　太田扶美代
生きている証拠か三つほど悩み

青森県　松山　芳生
無情なふぶき　津軽を支配する

鳥取市　倉益　一瑶
九本のローソク母のバースデー

河内長野市　黒岩　靖博
ラッシュアワー咳き込む人が前に立ち

岸和田市　雪本　珠子
エアメール他国の香りつけて来る

茨木市　藤井　正雄
声変りそろそろ父母を批判する

豊中市　荒巻　夢
わたしの手するりと抜けて子は黄泉へ

尼崎市　小池　幸子
福豆が手から零れるほどの歳

高槻市　片山かずお
カネの要る話は妻が聞く役目

大阪市　小泉ひさ乃
恒例のように今年も風邪を引く

藤井寺市　鈴木いさお
風邪治す薬はむろんたまご酒

堺市　奥　時雄
ノンアルコール自分を騙す情けなさ

尼崎市　春城　年代
節分の冷凍寿司を戻さねば

河内長野市　村上　直樹
円満の鍵は忍耐自己欺瞞

西宮市　吉井菜々子
休肝日酒粕風呂はいかがです

羽曳野市　吉村久仁雄
母と妻と娘の三本の矢に射られ

富田林市　古田　千華
ハーレーで北海道を巡る夢

鳥取市　武田　帆雀
魚屋のおばさんの手生臭い

西宮市　牧渕富喜子
わが家ではおかいさんとは粥のこと

和歌山市　喜田　准一
兄弟と呼び合う程のご酩酊

大阪市　古今堂蕉子
ええ声で来た来たきっと頼み事

大阪府　澤田　和重
悪友は僕の財産だと思う

京都市　高島　啓子
背もたれの擦りへっている端の席

池田市　上山　堅坊
皮肉には素知らぬ振りでやり過ごす

大阪市　森田　明子
犬の名で覚えられてる散歩道

枚方市　小林　わこ
ふうふうふー焼き芋一つ手が温い

堺市　大隅　克博
偶に来る兄弟母にめちゃ優し

鳥取県　加賀田志延
レシートが我が家の好み知っている

大阪市　川原　章久
辛口の注意にハッと目が覚める

シドニー　坂上のり子
新鮮な鰯だ今日は鰯寿司

唐津市　樋口　輝夫
二次会になって恩師が疎まれる

海南市　堂上　泰女
虫食いの椿もいけて冬へ活

西宮市　藤本　直
自画像にシミもきっちり描いてみる

河内長野市　谷　久美子
一合が二合に増える夫の乱

枚方市　伊達　郁夫
声だけは元気印にする電話

栃木県　岡野すみれ
冬の月今年も生きて見ています

京都市　都倉　求芽
てのひらが広い日狭い日冷たい日

吹田市　大谷　篤子
車椅子乗った目線の先に春

紀の川市　辻内　次根
曇り空ぼくのカルテが厚くなる

吹田市　穴吹　尚士
その昔それは優しい妻でした

大阪市　津村志華子
パンくずで雀を呼んで小半時

堺　市　加島　由一
ハローワーク覗き立ち飲みして帰る

高知市　松尾　憲子
母は母私は私でも似てる

鳥取市　池澤　大鯰
主婦をまね刺身をつくる魚煮る

堺　市　山本　半銭
嘘つけぬ人と思ってもらえたら

富田林市　大橋　鐘造
思い出の数だけ深くなる絆

篠山市　藤井美智子
旅の宿みんな素顔を見せる夜

河内長野市　山室　光弘
顔じゅうのしわを動かし高笑い

大阪市　柴本ばっは
おいどうしたと言う先生が好きだった

大阪市　太田としお
除夜の鐘成仏せよとやかましい

奈良市　加門　萌子
年明けに失せ物出ないていたらく

大阪市　奥村　五月
今日だけは俺が天下と妻の留守

倉吉市　野口　節子
凶悪事件のぞき見たくてスイッチオン

八王子市　川名　洋子
いい味は母のいつもの目分量

枚方市　寺川　弘一
妻だけに好きだと言ったことがない

藤井寺市　俣野登志子
背負うものまだまだあって太い足

鳥取市　夏目　一粋
焦ってるときは時間が早く経つ

東かがわ市　川崎ひかり
舌を噛む料理が増えていく同居

河内長野市　坂上　淳司
嫌いよと拗ねて気を引くややこしさ

羽曳野市　徳山みつこ
わたしより家族はらはらするバイク

黒石市　相馬　一花
定年でしょぼくれているしじみ貝

三田市　福田　好文
金絡む話になると出る本音

日高市　根岸　方子
頭ではわかり手足に届かない

鳥取市　岸本　孝子
ドック入り勇気がなくて先送り

奈良市　岩本　浩一
懐メロをハミング妻は高気圧

長岡京市　山田　葉子
パンパンのポケット仕分けしなければ

八尾市　田邊　浩三
いつからか判らぬ妻の白髪染め

大阪市　西川　冷子
同窓会幼稚な頃の顔になる

高知市　小川てるみ
ぷっくりと餅がふくれていい知らせ

熊本県　高野　宵草
机から解かれた窓に梅の風

鳥取県　山下　節子
言い訳がだんだん自分小さくする

羽曳野市　森下　一知
家計簿に赤提灯の吊るし上げ

豊中市　水野　黒兎
ふる里の友くしゃくしゃとふきのとう

和歌山県　森下よりこ
三寒四温今日は日向が暖かい

寝屋川市　森　茜
目くじらを引っ込めている日向ぼこ

四条畷市　吉岡　修
三界にたばこ楽しむ席がない

神戸市　山田婦美子
小銭入れ行方不明になる軽さ

鳥取県　佐伯　やえ
普段着を着てほんとうのことが言え

岩出市　村中　悦男
少しだけ歩幅も伸びる老いも春

加西市　金川　宣子
もうすでに子の支配下にある貯金

神戸市　山崎　武彦
胸の内覗かれそうで伊達眼鏡

誹風柳多留一一篇研究 56

山口由昭・小栗清吾
伊吹和男・山田昭夫
増田忠彦
清博美

428 **かくれんぼかべのしゞみを堀ッて居る**

山口 読んだ通りそのままの句である。上塗りをしない荒壁には補強として土に蜆の貝殻なども混ぜたものと見える。隠れん坊の子供が隠れながらこんなものを見つけて遊んでいる図である。なんでもない句であるが、情緒のある佳句。

かくれんぼ一寸ねむった立すかた　宝12宮2

蛤を壁でほつてるかくれんぼ　一五〇9

小栗 賛。壁には蜆貝を塗り込んだようです。

あら打にぬりこめられて業平ハ　宝八95

業平も壁にされてる蜆貝　一二三10

―いずれも業平蜆。

清 賛。

429 **大和茶でねがひある身の長はなし**

山口 「大和茶」は「大和茶屋」の略で、「大和茶屋」はいわゆる水茶屋で、浅草を始め江戸市中の諸処にあった掛茶屋である。娘を置いて客へサービスを供したが、特に浅草並木町にあった大和茶屋が有名である。

「大和」の由来は宇治や栂尾、十市辺で出来る大和茶を飲ませたからとも、掛茶屋の屋根が板を重ねてならべる簡単な大和葺きであったからなどと言われている。なお、川柳の世界では浅草仲店にあった「二十軒茶屋」とニュアンスの上で区別しているようであるが、「二十軒茶屋」は美人の娘を競ったと言う点でランクを上に置いているようであり、基本的には同じものである。(『絵本水茶屋風俗考』佐藤要人)

さて、「願いある身」で長話をしたということであるが、先人達はこの「願い」を

①美形の茶屋娘への野心
②敵をもつ身の上
③願いある身は仏弟子つまり僧の諷意
④神仏への願掛け

など色々に解しており、いずれも決め手はない。しかし、原典万句合の前句が「うき～とする」であるから、どうも②と④はしっくり来ない。③は「大和茶で至極ひそかにどらを打」(一〇35)などの句もあるので場所を浅草寺山内と考えると無視できない。しかし、単純に考えて、鼻の下の長い男が茶屋娘に野心を持って、わずかの茶代で長々と話をして粘っている、と解しておく。いまもママさんに野心をもってスナックなどで長々と粘る男がいるではないか。諸兄のご意見を。

はっきりといやとはいわぬ大和茶屋　一八34

大和茶ていちやついて居見くるしさ　明八義6

大和茶でた、のはなしみくどくやう　明八智3

小栗　「願いある身」からは、明らかに仏教が感じられる。

願ある身だに南で遣ひすて　傍三37

は、その典型例で外に解しようがない。大和茶屋が、寺社と関係が深いこともあり、「仏弟子」の意であることは間違いないと思う。要は、それをストレートにとって、例えば、所化あたりの行動とするか、単なる縁語仕立てと考えて、鼻下長族ととるかということだろう。

私の趣味としては後者なのだが、大和茶屋の句を一覧するに、二十軒茶屋のように娘を目ざしていく句は少ないように思う（つまり、そんな美形はいないというのが約束）。とすると、所化あたりが一時の長話を楽しんでいるということでよいのかもしれぬ。

清　小栗説賛。

430　**おらが大屋ハ小人ンとしゆ者ハいひ**

山口　小人は、徳のない品性のいやしい人。度量が狭く器量のない人。性根のひねくれた人。小人物。儒者は、儒学を修めた人。儒学を講ずる人。（「日国」）

ここで儒者というのは寺子屋の先生か素読指南の貧乏浪人あたりである。けっして大物の儒学者ではない。大家に家賃を請求されて、「待ってくれ」と言ったら待ってくれなかった。「あの大家は度量がない金のことばっかり言っている。小人物だ」などと論語の言葉で愚痴をいっているのである。どちらが小人かわからない。

しかうしてじゆしや店ちんの日のべなり　天五松2

大三十日ぼうきやくハいたさぬとじゆ者　天五信5

大三十日儒者ひやうそくがあわぬ也　三〇13

清　賛。

431　**杖のたび下女おつついて子をあやし**

山口　『日本国語大辞典』には「つえをする」という語で「息杖を立てて休む。駕籠かきが息杖を突いて駕籠を支え、休息をして肩を休める。」とある。この句の「つえ」も単なる物としての杖のことではなく、「息杖を突いて休む」という意味で使われているのであろう。子供を抱いた主人が駕籠に乗っており、駕籠屋が息を切らせて休むと、後から付いてくる供の下女が子供をあやすという描写であろう。しかし、下女だけがあやすとなると、駕籠には幼子だけが乗っていて、度々息杖を突くのはその子がむずかったりするからかもしれない。

杖のたび追ッついて下女ゆすり上　四25

駕かきハちよつ〳〵とつえで下女を除ケ　安元桜3

息杖の度に外トから子を愛し　一四三16

清　賛。

432　**赤合羽ぬれるよりはとむりに着せ**

山口　あかガッパ【赤合羽】は、柿渋で染めた桐油紙で作ったカッパ。江戸時代に下級武士などが雨や雪の時に用いた。（「日国」）

一般に仲間などが用いた安い合羽であるから着ていてあまり見栄えのする物ではない。しかし、急な雨で、濡れるよりはましと誰かが着せてくれたのであろう。万句合元句（安二義5）の前句が「うき〳〵とする」なので、道行きの場面で男が女に着せてやっているような気もするが、この句だけでは特定できない。

大わらひ赤かつはにて下女帰り　天六満1

似合いしたとそつと言ふ赤合羽　一六一11

小栗　賛。それだけの句と思う。

清　賛。

学ぶ

播本　充子選

ランドセル弾んでいます花の下　賢子
箸使い覚え　ようやく日本人　大朔
キッチンで妻に手ほどき受けてます　舞夢
よれよれになるまで学ぶのは疑問　公誠
後悔は英語を学んでない事だ　シマ子
一日に一つ学んでよく食べる　小雪
育児とは自分が学ぶことなんだ　茂代
アンパンマン孫から学ぶ絵かき歌　蕉子
ロボットに学ぶ無差別公平さ　四郎
お隣の喧嘩に学ぶ仲直り　典子
行く度に歯の磨き方教えられ　正和
親も子も補習授業に忙しい　かずみ
なる程ね猫に教わるストレッチ　道子
わたくしにまだ独学という道がある　扶美代
日本式英語を学ぶ帰国子女　かつ子
スニーカー耳学問を持ち帰る　冴子
子はみんな国公立よ養殖よ　(沢)啓子
人間の深さを学ぶ仏さま　螢
声を出し天声人語読んでいる　日の出
複眼で職人技を学びとる　晴翠
学習をした猫僕を見て逃げる　蜂朗
生々流転鉛筆一本から学ぶ　弥生

パソコンへ人差し指が立ち向かう　慕情
花丸も懐かし余生カルチャーへ　和香
ロボットが教壇に立つ日も近い　俶子
パソコンに節くれた指なじまない　恭昌
私をわたくし色に咲かす術　霜石
一冊の本から学ぶ処世術　庸佑
亡妻と同じこと言う子供たち　堅坊
晩学のレールカーブが多すぎる　鐘造
川柳を学んで防ぐ認知症　あやめ
補聴器と老眼鏡の趣味講座　強一
悪友に社会勉強させられる　遠野
親子でも三ッ指ついて芸の道　ばっは
教わった通りにすれば叱られぬ　弘一
田の季節父に学んだ事ばかり　善信
東西の古典で自己を掘り下げる　大朔
佳
枯れ木でも向上心は生きている　酒坊
政党に習うお金の集めかた　修
哲学の道かも知れぬ蟻の列　美籠
木造の校舎少女に還らせる　賢子
凝視して学ぶものあり猫の知恵　(岩)康子
人
阿修羅像拝んで何を学んだか　敏治
地　哲男
カルチャーで天女の舞を稽古中　大内朝子
天
生涯学習に燃える余命表
軸
亡母の手を借りてゆっくり紐を解く

女神

山本　義子選

谷の百合女神の声を聴いている　扶美代
女神かと思ったあれは蜃気楼　賢子
ウェディングドレスの時はみな女神　(森)明子
そこそこの女神で家を守り抜く　志延
おしゃべりな女神に元気貰ってる　孝子
叱り飛ばす男まさりの女神です　章久
身の丈の女神と共に半世紀　直
二度童老母は女神になり給う　泰子
年金の仕分けがうまくなる女神　像山
女神さんが降りてくるまで樹を揺する　美義
女神からチョコをもらったことがない　光久
羽衣を置いて天女の逃避行　淞丘
女神から授かっている妻ひとり　螢
二度のオペ女神にまたも微笑まれ　篤子
花一輪女神と思う無縁塚　美籠
弱音吐く女神にエール送りたい　公誠
ヴィーナスもわたしも少し太り気味　(田)章子
鍵穴の奥で女神が化粧中　芳生
とてもとても嫉妬の深い女神さま　朝子
ユニクロのチラシの中にいる女神　充子
転んだらお手をどうぞと言う女神　忠
八起き目の闘志へ女神手を副える　岳水

きみの横女神は寝息たてている　くにこ
悲しみも希望も知っている女神　獏　沓
気まぐれな女神と車間距離を置く　茂　代
温暖化春の女神を慌てさせ　みつこ
ちょこまかとうちの女神を追いかける　英　子
千の風女神の使いかも知れぬ　悦　子
ひと言が女神と思う助け舟　准　一
幸福の女神が好む汗の跡　雅　明
蝶になり踊り出てくる試着室　正　和
あけすけに笑う女神の背が丸い　ふ　み
丸々と笑くぼの女神満ひとつ　千　歩
本当の女神の歳を知っている　富喜子
聴診器女神が何ぞ覚ったな　時　雄
血みどろの稽古女神をあてにせず　淳
寸劇の女神にシーツ巻きつける　まみ子

佳

微笑みの女神ストレス溜めている　東　吉
ヴィーナスも弁天様もいる小路　霜　石
マジックの元締めだったマリア様　四　郎
女神からもらったパワー酢に漬ける　小　雪
島暮らし息子にやっと来た女神　正　雄

人

深編笠みんな女神になるおけさ　ばっは

地

棟方志功が彫ると女神がふくよかで　善　信

天

朗らかな家を覗いている女神　米澤俶子

軸

女神さま老後はいかが遊ばすや

デビュー

坪井　孝一選

何ごともなかったような初舞台　芳　生
三代が歓喜している初舞台　光　久
地域デビュー妻が後押ししてくれる　扶美代
プロデビュー契約金が後を押す　典　子
突然のご指名うけた点前席　加お里
馬の足デビューもいまだ馬の足　淳
婚活へ姉妹であげた重い腰　遠　野
三歳がバイオリン弾いて初デビュー　奮　水
エコカーが止るの忘れ一大事　靖　博
うちの子は一歳半でコマーシャル　冴　子
デビューでは父の名前で売れただけ　不　二
数だけはデビューしました入門書　みつこ
デビューしたころ初でした無垢でした　善　信
B面でデビューした子が今スター　(奥)五　月
まだ何かデビュー出来そう可能性　朝　子
人間国宝袖で見守る初舞台　章　子
自分史で文壇デビュー夢だとか　のり子
沢山のデビューを連れて春が来る　ちかし
デビューは遅いが息の長い歌手　東　吉
マニフェスト掲げてデビューしてみたが　螢
デビューチャンス三度も逃がし無位無冠　輝　夫
亡き父母が踏まぬ八十路へデビューする　晴　翠
大阪のおばちゃんの儘やるデビュー　敏　子
デビューしてそして見ました蟻地獄　活　恵
名優のデビューと同じ髪型だ　千　歩
デビューの瞬時が決めた一目ぼれ　像　山
翌日はお皿を変えてまたデビュー　美　義
一進一退デビューとはそんなもの　霜　石
何度でもデビューやがて米寿なり　ふ　み
一枚の写真を辿る初デビュー　獏　沓
引き出しの奥にデビューの頃の僕　正　雄
大会へデビュー三句抜けました　順　子
学芸会セリフひと言ありがとう　一　風
惨敗に泣いた我が恋デビュー戦　孔　一
次の世はオトコでデビューするつもり　茶　子
鮮烈なデビューとなったVゴール　遡　行
定年の余命にかける蟻となる　花　匠

佳

デビューした時だけ記事になりました　弘　一
デビューした日から良かった面構え　明　子
レンタルの成人式と言う船出　銀　波
晴々とデビューする人影の人　秀　四
デビューから追っかけているペンライト　慕　情

人

デビューして輪の中にいる一人いる　安　子

地

デビューした初心の顔の美しさ　直

天

デビューをしたと聞いたがそれっきり　福本英子

軸

デビューはトランペットで幕開ける

初歩教室

題 ― 優しい

鈴木公弘

動詞の「し止め」について、川柳塔誌には「出し」で終わる句が載っているが、これはどうなのかという質問がありました。

結論から申せば、「し止め」が問題となるのは、その動詞の終止形が「する」となる場合ほか若干の動詞に限られます。

例えば「勉強する」という場合、否定する時は勉強しません、肯定する時は勉強しますと言いますが、これを5音字表記する場合には、両方とも「勉強し」と書くため、このままでは否定か肯定か判断できなくなります。したがって、そのどちらであるかを示す理由から、多くの方は肯定する場合だけ「勉強す」と書いておられます。それでいいと思います。

国語辞典の終わりのほうに動詞活用表があります。その中の「サ行変格」という所をみてください。四個の動詞が載っています。このことから逆に言えば、そこに載っていない動詞の場合には、いわゆる「し止め」問題は生じないということになります。したがって「・・し」と使っても構いません。

ご質問の「出し」の正否については紙面の都合上、皆様の宿題にしておきます。

次に、気になる傾向を指摘します。このことは以前にも触れましたが、今もって女性がご自分を「僕」と書き、男性がご自分を「妻」と呼んでいるらしい句があります。相手の気持ちになって書けば…という条件付きの句だとおっしゃるかもしれませんが、違和感はありませんか。ご自分の性別がみえる観点から描かれてはいかがでしょうか。

【気になった句】

原 犬注意優しい小犬大笑い　ミヨノ

添 「犬注意」優しい小犬大笑い

カギ括弧を付けることの議論はありますが、川柳は音字文芸ですから、無音の「　」は一見して理解されたい句の場合に限り、認めてもよいのではないかと考えています。

原 優しい声痛いと言えず大丈夫　綾乃

添 優しくて痛いと言わず大丈夫

負傷者に対して…痛いかと聞かず優しく「大丈夫」…と言うのもよいでしょう。

原 優しい目幼児に代える介護の母　なつみ

添 介護され母は優しい目に帰る

できれば一点に絞って描いてください。

原 優しさを桂馬に変えて出世欲　弘泰

添 優しさを桂馬に変える出世欲

原 さりげなく愚痴を捨ってくれる友　憲彦

添 さりげなく愚痴を拾ってくれる友

うっかりミスが致命傷になる場合もあります。よくよく確認して投句してください。

【入選に準じる句】

僕のうち守る優しい鬼瓦　エミ

しぐさ丈優しく作る人がおり　宏之

しぐさ「だけ」がいいと思います。

鳩山さん友愛よりも職が先　堅坊

愛の証老々介護妻を看る　振作

優しさを隠し本気で叱る親　憲司

肉親を超えてヘルパーいとおしむ　さだき

慈悲を秘め凛と立ってる菩薩像　志郎

春はそこふくらみやさしねこ柳　俊子

優しさと頼りなさとが同居する　ふみ子

許し合う友の優しさ手をつなぐ　智加恵

優しさが滲み出ている笑いしわ　道子

投句に中8があります。ご確認ください。

優しい母がせっせと渡すおこづかい　宣子

女房の急な優しさ気にかかる　篤

娘よりやさしい言葉くれる婿　登美子

今時の優しい笑顔あてはずれ　みち代

今時という時間を設定した句になりました。また、昔…今…という作り方も見かけます。今昔を言えば説明になりやすいので、構えずに作ってみてください。

金子みすずの詩が渇望の海　啓子

合計十七音字の句でした。意欲的ですが、やや強引であるため思いが伝わりにくくなっています。他の二句のように、まずは定型をもってしっかり描いてください。

優しさが曲りくねって粋になる　酒坊

入選する面白い見付けでしたが、あえて申し上げれば「曲がり」がいいかと思います。

微笑んで優しく諭す医師もいる　久子

「も」と書けば課題が求めている方向とは反対の、優しく諭さない医師が大半を占めていると言う句になってしまいます。「も」は言外に「私も」という意味を含ませる場合に使うべきでしょう。

春の色優しい色で編む毛糸　こずえ

強調したい言葉を繰り返すリフレインという方法はありますが、この句の「色」は必ずしもそうではないようです。したがって「春の彩」としてはいかがでしょうか。

サングラス外せば意外優しい目　義雄

病床に花が優しく叱咤する　ちづる

病床「を」がいいと思います。

そこそこの暮し優しい風が吹く　紀雄

「暮らし」と書く癖をつけてください。

気立て良い優しい嫁がいる隣　開子

モナリザの優しい笑みに潜む謎　千恵子

いつもより優しい口調だから聞く　安子

同情が優しさに見えプロポーズ　勇

やや言い過ぎの感があります。読者に想像してもらうのも川柳の醍醐味です。

妻の顔菩薩と夜叉が同居する　光弘

原句は「夜又」になっていました。ご確認ください。

春近し優しい陽ざし肌なでる　弥生

他の二句は中8でした。気をつけましょう。

なにバレた優しい声に竦む足　ヒロ

「すくむ」という漢字を国語辞典でご確認ください。

【入選句】

熱を見る額に当てた手の優し　りこ

野良小猫やさしく出来ぬのに通う　冷子

落ち込んだ肩を優しく撫でる風　久美子

デパートで優しく相手してもらう　恵美

優しさの裏に潜んだ或る打算　いさお

体重計何時も優しく乗ってます　弘子

牙取れた優しい鬼と住んでいる　志延

新婚の優しい声が懐かしい　敏治

日曜日優しい妻に掃き出され　清

優しい母は愛のムチ折り混ぜて　玲子

床の身へ優しい言葉涙する　孝明

煮しめから母の優しさ知りました　健柳

優しさについ気が緩みマント脱ぐ　孝代

侘びしさを優しく包むコンパクト　菜摘

優しいが男の魅力には乏し　秋星

水をやる優しい顔に春がくる　唯敎

年金が優しい飢えのない暮らし　陽子

球根へやさしく息を吹きかける　菜々子

味付けも優しくなって夕暮れる　かずみ

優しさも鼻につくのね倦怠期　治子

選挙では優しい人に票入れる　美紗子

孟宗竹やさしい風に頭下げ　嘉彦

【佳句】

大国は優しい声で武器を売り　孔一

かくれんぼ鬼ばっかりの優しい子　節子

優しさに躾もちょっと埋めてある　正彦

やさしいと言われ優しくなった僕　宏造

道端に優しさ捨てたことがある　遊子

売り言葉優しく変えるひと呼吸　律子

わさび田を雪とけ水がそっと抱き　弘光

優しさに裸心さらした日の寡黙　くにこ

【今月号の推せん句】

何気無く素通りするも優しさか　藤井文代

優しさでしょう、たぶん。

優男逃げることだけ考える　宇野幹子

カネも力も無いのに色づいて…ねえ。

方円に従う水の優しさよ　上田紀子

水はとても素直です。

【私の句】

車座を作る優しい息づかい

優しさに格差をつけたことはない

（登載漏れの方は役員が添削して返却します）

秀句鑑賞

同人吟　川端一歩

―3月号から

秀句鑑賞の依頼は、不勉強の私に対して、編集子の温かい叱咤激励と思いお受けしました。しかし限られた時間で出来るだろうかと不安がいっぱいでした。私は迷ったり困ったりした時は、正坊さんに教えを乞います。

川柳塔誌平成四年十月号の「秀句鑑賞」で『川柳は言葉の芸術であるからには、レトリックは無視できないが、何よりも自分の思いをこめた―その人でなければ作れない句、キラリと光るものがある句、そして平凡だが、やはり私の好きな句を選んだ』と述べておられます。

それを参考に「今年はこんな年であってほしい」「こんな生き方をしたい」の視点から、三三三名の玉句一七二八句をくり返し読ませていただき、三十句を選びました。

いよいよと思う一千号の初春

岸本孝子

今年の川柳塔まつりは、一千号記念川柳大会として開催されます。史上最高の参加者で大成功したいと心から願っています。

いけいけどんどん縮んだ脳に活入れる

古今堂蕉子

句にリズム感があって読んでいて楽しい。これで作句もどんどんいけば最高です。

日本語が生き生きしてる喋りよう

近藤佳子

テレビの影響でしょうか、最近「美しい日本語」に出合うのが少ない。平成十四年文藝春秋からいい本が出版されましたのに。

徳利が奏でる音が大好きだ

土橋はるお

〈徳利が奏でる〉とは思わず拍手。酒の句はかくあるべしのお手本にしたいです。

長つづきする親友へ踏み込まぬ

藤岡ヒデコ

なるほど一定の距離が大切なんですね。

なまけ癖敵は私自身なり

山本希久子

あんまりきっちりされると近寄り難い。

ボケた人にもプライドはあるのです

志田千代

身内に認知症を見て来た経験がありますのでよく分ります。まったく同感です。

真ん中の美味しいところ妻にやり

伏見雅明

仲の良いご夫婦の姿が見えるようで…。

並みに生き並みに死ぬのは贅沢か

富田美義

われわれ庶民の願いはいつも当り前のことなのに、下五の問いかけがするどいです。

妻や子に腰の竹光みせられぬ

吉川寿美

世の男たるもの、常に七人の敵と相対し家族を守っているのです。知っているのかな。

作るのが好きあげるのはもっと好き

俣野登志子

こんな人が側にいてくれると、どんなに楽しい毎日になるかと思います。

口いっぱいあけてとにかく笑いたい

板東倫子

〝口いっぱい〟に惚れ惚れしました。日常的な言葉の奥に何か深いものを見ました。

どちらでもどうぞ直球変化球

時広一路

そう言われるとちょっと迷ってしまいます。心の中を見透かされているようで、どんな球でも対応できるあなたが羨ましい。

あれば買う前頭葉に効く薬　大久保　のん子

医学の進歩でそう遠くないかも知れませんが、趣味の世界が薬の代役をしているかも。

おれ流に生きて妻子を困らせる　片山　忠

夫たるものの多くはその通りではないかと思いますが、心では反省しているのです。

せっかくの罠だはまってあげましょう　西口　いわゑ

人間の大きさを垣間見ました。智子さんの「おだてにも乗ろう鞭にも打たれよう」と重なって。さて相手はどうなさる。

一回忌潮騒の母月に母　居谷　真理子

母へのいっぱいの思いを、動と静を対比させて言い過ぎない。お見事な作品。

これしきの我慢彬の碑を思い　平尾　菜美

このような句に出合うと身が引き締まります。苦しみを与えているのは誰か分かり難い時代、彬から何を学ぶべきなのでしょう。

身震いを地球がすると恐ろしい　古手川　光

身震いは地震でしょうか、スケールの大きい作品に感動しました。

赤ちゃんも国の借金おんぶして　中村　れんげ

そうです。党派を超えて少子化問題でテーブルについて欲しいのですが…。酷税の国とも知らずに、私たちで何とか負担を少しでも軽くしなければと思います。

言ってはならぬ言わねばならぬ重き口　小糸　昭子

生きるとは難しいものですね。将棋でも「相手の駒を取る定石」と「取らない定石」があるんです。ここは体に気をつけて。

守る人居ないお墓は作らない　黒田　茂代

まったく同意見です。無縁仏のお墓を見ると心が痛みます。松本清張の「死者は生者を走らせてはいけない」という人生観がいい。

平城京言霊宿る風の音　山本　柳昌

〈ことだま宿る〉の表現がいいと思いました。「大和は国のまほろば」の歌をかりずとも、ここは日本文化の故郷そして謎の都、もっと川柳人が詠んでほしいところ。

いくばくの余生この世に遺すもの　吉田　弘子

句の品格に脱帽。今どき名著『後世への最大遺物』はお蔵入りなのでしょうか。

ああこの世三文オペラ見る如し　長浜　美籠

この「三文オペラ」はブレヒトの劇ではないらしい。「下手な芝居」でいいですか。

木々百態冬のさくらはなまめかし　籠島　恵子

歳時記を読むまでは「冬ざくら」は知りませんでした。句姿も美しいけれど、下五との兼ね合いが何とも魅力的でした。

微笑めばほほえんでくる石地蔵　原　さよ子

お地蔵さんをジーと眺めていると、自然に笑みが零れます。慈愛というものでしょうか。

生年月日を永久保存する　谷口　義

この広い世界に私という人間はたった一人、六十億分の一です。正に歴史的存在です。

山陰はやっぱり山の陰である　竹信　照彦

この作品をくり返し口遊むと、荘厳な気持になって来ます。直哉も藤村も同じ思いをしたのではないか、等々思いが走りました。

まあいいか言いたい事はあったけど　髙田　美代子

終りにあたり、大ベテランの名セリフを拝借致しました。

—水煙抄

秀句鑑賞

—3月号から

中居善信

嫁と来た息子がどこか他人めき

三浦強一

子のものは子供に渡す女店員

渡邊伊津志

ベテランの句を取り合えず二句選んだ。

ベテランと言われる人達の句には、無駄な文字がなく、肩の力が抜けている、読んでいて温さが伝わる本音が伝わる。何時も言うのだが、国語学者の金田一先生が何かのテレビで「優しい言葉には説得力があるのです」と言っておられた。それ以来僕は優しい言葉で五七五やっている。

濾過された昔話が美しい

斉尾くにこ

過去の苦しみや、憎しみや、いろんな葛藤など、月日が経つにつれてそれらが薄らいでゆく。年取ってゆくほどにそれらが許される。それはとりもなおさず濾過では無かろうか。

台風一過子らが帰った日のふたり

寺川はじむ

妻が言うのです、やれやれやっと落ち着いてご飯が食べられると。子や孫が来るのは嬉しいのですが、二人だけの暮らしに慣れると、それはそれは疲れるのです。

わだかまり消えて景色が広くなる

松尾憲子

そうだよね、心配事あると、わだかまりがあると、景色なんか見てないものね。

一人とは淋しき暮らし晦日そば

中島春江

今、日本の中山間と呼ばれる田舎には一人暮らしのお年寄りがいっぱい居る。息子に田舎で暮らせとは言えないのです。農業で飯が食えないのです。ましてや晦日そばとは虚しい。

私も地球汚してきたひとり

上田紀子

ここまではっきりと言われると、ごもっともと言わざるを得ない。だから空き缶見つけたら全部拾って帰ってる。

折り合いをつける鏡とにらめっこ

森下よりこ

どう塗りたくっても、取り立ててどうって事ない、ならば、ほどほどで折り合いを付ければいい。と言う事。

伸びる目を摘んでしまった荷を背負い

西谷悦子

四十五歳で嫁を貰わぬ息子が居る、育ての間違いだろうか？妻もその事に触れようとはしない。伸びる目を摘んでしまったのだろうかと、ふと思うのです。

介護の灯さけて通れぬ歳になり

岡本勲

町のあちこちに老人ホームなど一杯出来た。夜遅くまで明かりが消えない。親の老後を看護する余裕など息子たちには無い、嫁も働かなくては子供の学資がどうにもならない。何とも白けた世の中になったものだ。

四股名から想像出来ぬ出身地

寺井柳童

昔、生駒山という力士がいた。なかなか勝てないのをよく覚えてる。

愛宕山と言う力士は八幡浜の愛宕山から貰った四股名。まだ四股名ならいい、この頃の子供の名前ルビがなければよう読まん。

黙秘権わたしに不利な事がある

花岡順子

燃えつきるほどの仕事も恋もせず

深澤千恵子

信じてるならクドクドと言わないで

安藤なつこ

エッセー

多読多作

小川注湖

現役にひとくぎりがついて、さて若い頃から関心があって出来なかった短詩文芸に志を立て、川柳の句会に出席をはじめた頃、「多読多作」が句づくり開眼への第一歩。「右手にペン、左手に辞典」と教えられた。

今は句づくりに辞典を必ず開く。句づくりに使った文字に赤色のアンダーラインを付ける。そして兼題の意味を探り、誤字、脱字のないように確認する。辞典を開くことが、もうたのしい癖になった。

金田一春彦編著の千五百頁の国語辞典の各頁に、赤色のアンダーラインが、かなり目につくようになった。辞典もこれだけ開いて貰うとうれしいだろう、と思う。

山陰の田舎の昭和一桁生まれは、小学校の校庭にサツマイモを作り、イモメシを食べ、調味料に海水を汲んで煮詰め、数年振りの順番で、ようやく貰った目の粗いホームスパンの配給衣料に喜び、安堵している母親の顔。

竹槍で、ルーズベルト米国大統領やチャーチル英国首相の藁人形を突く訓練、バケツリレーの焼夷弾火災の消火訓練。戦時の日々に多感な小学高学年に、机の上で文字を憶える勉強はなかった。

そして今、辞典を開けば開くほど、その辞典に多くの知識を貰っている。

だが、「多読多作」は、その気持ちを持っていても、なかなか出来ない。楽に走り、直ぐに心が乱れる。月末に送ってもらう川柳塔を熱心に読んで、「多読多作」だと暗示をかけ自己納得している。

ところで、新葉館出版の川柳作家全集「三宅保州」を著者からいただき熱読した。

著者の徹底した「多読多作」は、川柳の魅力に取り憑かれ、川柳中毒にかかったようにと、書かれているほどの多読。その作句数は毎月千から二千句、そのうち投出句する句数は三百程度という多作、そして多捨だと述べられている。

いわゆる「多読・多作・多捨」そして付け加えて、「多投句・多反省」こそが川柳上達法であると、含蓄多く説かれている。

この驚きに深く傾聴し、わが身を顧りみて、川柳の道はまだ遠いと「喝」を貰う。

川柳塔への投句は全国各地から、いや国外からもある。地元の大阪、和歌山、兵庫から多くの柳人の参加は、西の川柳三巨頭の築かれた川柳文学の隆盛地として、また地の利もあって、なるほどなと思う。

そして毎号、川柳塔への膨大な投句数の中で「川柳塔欄」の冒頭に六句抜けた柳人の喜びの顔が見える。いつかはわれもと願いつつ九九〇号で、その叶った喜びは大きかった。

かくして五七五の文字に込められた喜怒哀楽を読み解き「多読多作」に代えている。

また、「各地柳壇」の句を読んでいると、九八二号から、各地の吟社名の下に、カッコで県名が記されるようになった。

各地柳壇の所在地が分かるようになり、近県の結社であることに近親感が生まれる。

そのように思っていたとき「佳句地十選」の選を指名され、先輩柳人の所属結社や活躍に思いを馳せて読んだ。

各地柳壇の隆盛は、川柳塔一〇〇〇号に通じる道への歩みを確かなものにしており、さらに一〇〇一号へ踏み出す大きな力になっている。これをしっかり支えられている主幹、理事長をはじめ編集スタッフの方々の労に感謝しつつ、今月号の熟読がわが「多読多作」であることに赤面している。

本社三月句会

三月五日（金）午後一時
アウィーナ大阪

冷たい春雨が続いていたが、遠慮がちな薄日が射す暖かい日に恵まれ、初出席六名を含む九十九名の出席で三月句会が開催された。お話は同人の藤井則彦氏。「あんな法則・こんな法則」と題してのお話は、人間関係の潤滑油として暮らしや仕事にも活かせる内容であった。

一定の条件のもとに成立する関係として、パレートの法則（80―20の法則）は「国民の所得の80％は20％の人々の所得である」と断じた。これを他に適用すると「車の故障の80％は部品の20％に因る」こととなり、トヨタがアメリカで問題視されているのが部品に因るリコール云々であるのも、むべなるかなと思う。

本社句会での上位20名も、どの兼題でも天地人・佳句に入っておられる確率が高いと見られ、この法則に当て嵌まると会場を沸かせた。

またジャネの法則「ある人の心理的な時間の長さは、年齢の逆数に比例する」は、10歳の時に感じた一時間（60分）は、60歳になれば10分にしか感じないとのこと。若いうちは新陳代謝が盛んで脳も行動もスムーズだが、60代になると体力が落ちてもの忘れも多くなり、何をするにも時間がかかる分だけ、時間の経過が早くなるのだろうと見ている。

ご自身の私の法則の最後に述べられた「家内には逆らわない」には皆さんが共感され、大きな拍手が湧いた。バラエティに富んだ数々の法則に加え、会場をグイと引き込む見事な話術であった。（ふりこ記）

月間賞は両川無限氏（神戸市）に輝く。

（司会―美籠・昭）（脇取―富美子・真理子）
（受付―啓子・順子）（清記―光久・善純）

席題「おいしい」

鴨谷瑠美子選

優しさも貰いおいしさ倍になる　ルイ子
おいしいなこんな料理は初めてや　太郎
おいしいと名の付く物は試食する　順子
おいしいと言わない人と暮らしてる　美智代
おいしいと誉めたが口にあわなんだ　美智子
ご飯党なのでおいしく肥えてます　月子
おいしいわ夫の料理ほめちぎる　蕉子
欲深くおいしい話に引っ掛り　朋月
トヨタさんおいしい話躓く　紀雄
おいしいと思えばみんな血や肉に　日の出
おいしい焼酎があるの是非いらっしゃい　天笑
おいしい店みつけて皆に触れ回る　宏子
おいしくて忘れてしまう腹八分　(奥)五月
おいしいと思わせている備前焼　扶美代
おいしそうなのからおかず手をつける　天笑
おいしいと言えば三日も生野菜　一歩
不況ですおいしい話にすがりつく　いくひろ
菓子に添えた言葉おいしく隣から　シマ子
煽てられ今日も包丁持たされる　時雄
コンニャクゼリーおいしく通過恵なし　哲子
おいしかった事も話して観光地　恵子
おいしいとこ全部長男持っていく　善純
おいしいと言わぬ夫でせいがない　玄也
口にあう妻の料理が一番だ　(志)千代
チャレンジの料理うまいと褒められる　唯敎
お小言はこの饅頭を食べてから　美代子
ひと手間をかけるとうまいパンの耳　無限
食べるものなんでも旨いいまんとこ　勝弘
女房の料理をほめる盆と暮　見清
たまに飲む酒おいしくて二日酔い　月子
おいしくて妻にあげたい金メダル　満作
おいしいと言えず珍味で濁しとく　靖鬼

佳

おいしいですか聞くまで何も言わぬ人　能子
イケメンでないが食べたくなるあなた　弘一
食べさせてあげたい人の顔浮かぶ　みつ子
高いのに彼女おいしいとは言わず　時雄
反抗期きれいに食べてくれました　耕治

人
頬っぺたが落ちるおいしいなと息子　一風
地
ミシュランも知らぬおいしい妻の味　英美
天
幸せはおいしさいつも半分こ　英美
軸
赤ちゃんのほっぺおいしいからなめる

兼題「雪どけ」　山本　義子選

雪どけを待つ母と子の赤い靴　喜子
雪水が凍てた山彦までとかす　修
雪どけを待ち焦がれてる拉致家族　實
ひたすらに拉致の雪どけ待ちわびる　富子
雪どけを待って不況にあえぐ民　朝子
雪どけに誘われ解けていくしこり　光久
本心と違う違うと雪はとけ　公誠
雪どけに覚悟を決めた雪おんな　いさお
雪どけ道元気に走るランドセル　舞夢
雪とけて角を曲れば逢えそうで　わこ
雪どけを待とうじっくり酒も酌ぎ　月子
お日さまにあかんべえする雪だるま　朋月
雪とけて大地一気に噪り出す　好
雪どけの道やがて桜の咲く小道　蕉子
雪どけに古里訛よく弾み　英美
雪どけに蔵の雛様はしゃぎだす　シマ子
雪どけムード丸三角も寄っといで　葉子
雪とけて昔話がしたくなる　昭
雪解けに彼岸ざくらが咲いてくれ　天笑
雪解けに活気ついてる水車小屋　俶子
わさび田は雪どけ水で顔ゆすぎ　弘光
雪どけの怖さおそわる旅の宿　一風
雪どけの窓卒業の歌ひびく　耕治
雪どけは知らず菜の花蕗のとう　(志)千代
雪どけは母のリュウマチ和らげる　千里
根雪まだ解けず合鍵さびたまま　朱夏
雪どけのしずくぽとりと露天風呂　正雄
雪解けを待つ踊り場のトウシューズ　朱夏
雪どけが恋の迷いを解きほぐす　順子
雪がとけ嫁の言葉が軽くなる　美花
雪解けてウキウキ回る花時計　奮水
ごめんねの勇気で雪がやっと溶け　直樹
佳
病室から妻の笑い声がする　蕉子
わたくしも雪どけの絵の中に居る　篤子
おはようで消えたゆうべのわだかまり　尚士
雪どけで天に召される雪だるま　弘一
雪どけの水で地球は蘇える　靖鬼
人
猫の耳ピクッと動き雪とける　哲子
地
雪どけのダルマは眉毛から崩れ　靖鬼
天
道祖神さまそろそろ解ける雪帽子　ばっは
軸
雪どけみち父の一喝耳にある

兼題「爪」　古今堂蕉子選

爪に火を灯して溜める訳がある　庸佑
あげたいけど僕の爪には垢はない　修
赤ちゃんの爪が乳房に心地よい　キヨミ
深爪に似た後悔が眠らせぬ　好
マニキュアのどこかに残る国訛　俶子
爪まるく切って背中が泣いている　寿子
挑戦にのって深爪してしまう　葉子
爪切りの音がけじめをくれました　美花
自己嫌悪無性に爪が切りたい日　扶美代
脱皮する爪を一枚だけ残す　無限
健康度先ずは爪見る開業医　東吉
黙黙と爪を研いでる妻不気味　淳司
マニキュアの爪がお喋り聞いている　太郎
丸くして無駄な抵抗止めた爪　理恵
爪を噛むあなたに負けた青き頃　美智子
爪と髪遺して征った人想う　唯教
対決に言葉尖らせ爪を研ぐ　公誠
春寒し逢えないままの爪を切る　奈々子
爪磨く大きな穴を掘るために　舞夢
十指皆深爪にして執刀医　柳弘
育児休暇パパは覚悟の爪を切る　美籠
碁敵に一矢秘束の爪を研ぐ　直樹
いさかいのかたちに爪が伸びてゆく　希久子

爪跡に凄み感じる大地震　善純
猫のせいにするしかない爪の跡　善純
豆ちぎるのに親ゆびの爪のこす　天笑
前の世は虎だったのか妻の爪　尚士
爪跡を埋めるお役に義捐金　冨美子
ひっかいておやりと爪が伸びている　(志)千代
荒海を越えて来たのか丸い爪　郁夫
自分史に書けない恋の爪のあと　好

佳

長い爪介護の修羅をまだ知らぬ　冨美子
爪の差で笑う選手と泣く選手　篤
爪痕を辿ると策が甘かった　いくひろ
淋しくて靴下やぶる足の爪　真理子
研いだ爪息ふきかけて魔女になる　時雄

人

深爪の痛み訃報は不意に来る　朱夏

地

爪先立ちしてます見栄を張ってます　希久子

天

あの頃は爪の先まで惚れていた　一歩

軸

爪に花咲かせ今夜も店屋物　賢子
四面楚歌どうかやさしくノックして　天笑
たらの芽が春一番にノックされ　能子
せっかちなノックあなたとすぐ分かる　日の出
ノックしても誘いにのらぬ妻がいる　淑子
入ってますここは私の小宇宙　孝代
義理チョコでノックされたと勘違い　蕉子
ノックする子に聞く耳を用意する　好
幸運の扉をいまだ叩けない　美花
ノックしてもすぐに返事はこない脳　玄也
ノックアウトされて実力思い知る　理恵
おじいさんノック忘れちゃダメですよ　冨美子
職探しドア叩いても叩いても　弘一
念のため柩にノックしたくなる　美籠
あくび機におとぎの国のドアが開く　菜々子
ノックして届かないのも反抗期　美代子
用がある少し手荒くノックする　保州
ノックもなしに突然やってくる訃報　善純
嫁はんのノック慌ててかく鼾　英美
ハイどうぞ言われて入る子供部屋　真理子
開けようか狐が叩く音だけど　克己
鬼コーチ血豆だらけの手は見せず　無限
一期一会のハートをノックする笑顔　尚士
恋人とノックの数は決めてある　扶美代
仲直りみかんを持ってノックする　弘光
北の国に当てはないけどノックする　一歩
合格のノックはドアー壊れそう　ルイ子
ノックされ火の海になる胸の中　満作
挨拶を笑顔でノックする介護　昭
手を温め娘の心ノックする　美智子
どんどんどん居留守を知っているらしい　美花

佳

ノックしたら灯りがチッと消えました　孝代
ノックする子供のサイン見逃さず　時雄
面接のノック真面目な間合とる　いさお
ノックは無用どうぞお入り福の神　恵子
ノックする見てはいけない事のため

人

天国と思ってノックした地獄　みつ子

地

札束のノックに心すぐ開く　尚士

天

まだおんなノックしてみて下さいな　宏子

軸

野良猫がひとり暮らしの戸をノック

兼題「是　非」　松原　寿子選

二つの耳ひとの是非まで知りたがる　美義
是が非でも欲しい角番抜ける星　庸佑
ラストオーダー是非とも甘いカクテルを　瑠美子
ふる里の山が呼んでるきっと行く　太郎
是非見るぞ北極に舞うオーロラを　堅坊
是非とも嫁に言うて縋ったのはどなた　賢子
是非是非是非三つ並べて金のこと　ばっは
神仏先祖も是非と頼まれる　哲子
是非一度旅に出たいという木馬　瑠美子
鼻の下読まれママから是非来てね　由一

兼題「ノック」　宮崎シマ子選

力強い足蹴のノック腹を抱く　喜子
春風のノックにこぼれ種芽生え　庸佑
弥陀の本願ノック不要とおわします　實

裏表小細工はせず是非を問う　求芽
一枚のカルテが是非を問う脳死　無限
ぜひと言われて来てはみたけど席がない　理恵
是非長くご滞在をと諭吉様　蕉子
昨日まで是非と言われていた油断　公誠
是非是非ともらった嫁に牛耳られ　みつ子
今日は是非何が何んでも連れて行く　舞夢
とんちんかん親に似ている是非もない　美智子
是が非でもわが物にした不動産　賢子
この件に関しての是非聞いておこ　太郎
是非民の家計も知って総理殿　冨美子
是非是非とお誘いあるが数合わせ　善純
是非逢うてみて頂戴と勧められ　天笑
診察のあとは飲酒の是非を聞く　時雄
ことの是非見えなくなった愛の闇　楓楽
是非折って下さい鶴の願いごと　岳人
今度こそ採用通知是非ほしい　(奥)五月
母からの贈与是か非かグニャグニャと　篤
次の世も是非添いたいと妻の嘘　富子
是非もなくもう曲げましたマニフェスト　直樹
土下座して暮らしはしたが別れてる　勝弘
次の横綱是非国産に願いたい　いさお

佳

欲しいのは心くすぐるチョコレート　かお里
是非を問う椅子がグラグラ揺れている　朱夏
是非嫁にと何故言われたか謎のまま　見清
是が非でも歩く最後の其の日まで　哲子
是非ご出席をと強迫まがいなり　保州
追伸に動けるうちに是非とある　扶美代

地

原爆の悲惨さ知らず是非を説く　雅明

天

真ん中に是非と言われて針の席　公誠

軸

見てほしい魚拓いきいき跳ねている

兼題「固める」　河内　天笑選

一〇〇〇号へ総意固めて立ち向かう　柳弘
草食系男子ガードを固めてる　千恵子
足元がまだ固まらぬ民主党　寿美
土搗唄えんやこらやと生きてます　義子
保護色で周り固める三代目　正雄
結束を固めるときに要るお金　朱夏
父と子で固めた匠たじろがぬ　キヨミ
母さんのにぎり飯なら崩れない　順子
一敗がチームワークを固くする　唯教
気をつけや嘘で固めている笑顔　光久
コンクリートの川にはやって来ない春　保州
志かため少年脱皮する　桃花
固まって熟女なにやら姦しい　瑠美子
手料理で守り固めた日もあった　孝代
固め打ち明日の分に置いときや　正春
このご縁固めるためにする喧嘩　真理子
同居して絆固まる三世代　見清
約束を固く守ってまだ小者　扶美代
老人会二三人づつ固まって　房子
イエスマンばかりで固め店じまい　雅明
首位固めベンチ総出のハイタッチ　哲男
その話のるからうまく固めてや　勝弘
学閥で固め入り込む隙がない　克己
より深く絆固まる雨上がり　賢子
固めてもすぐに弛んでいく財布　美花
固まっていても仲間と限らない　美籠
税金で固めた道路掘り返し　耕治
堅くなる絆よ妻の車椅子　由一
柵で固めた城が崩せない　シマ子
少しづつ固め夫婦という塔に　蕉子
外堀を固め内輪に裏切られ　昭
まず守り固めて次の策を練る　無限

佳

寝たきりの母が固める家族の和　由一
カップ麺身を固めよとけしかける　富子
固まって大魚に見せる雑魚の知恵　淳司
一族で固めた組織膿んでくる　見清
飯粒の固さよしみじみと独り　扶美代

人

身を固めましたベビーに急かされて　楓楽

地

人知れず腹を固めて楽になり　かお里

天

着想を固めてからのペンの冴え　両川　無限

軸

おばちゃんで固めるキミマロのまわり

花地図壇

毎月24日締切・35句以内厳守　編集部

和歌山三幸川柳会　武本　碧報

レプリカの裸婦はハタキで叩かれる　和子
影武者の一人も欲しい時がある　俶子
偽物が一番似合う暮らしぶり　当代
模造ダイヤ気楽にはめたまま掃除　かず子
レプリカの愛あたためている卵　菜摘
モデルガンあなたに向けてひと休み　章子
偽者のサンタが覗く児の寝顔　町子
華やかなお色気目立つ喉仏　紀子
床の間でその気になった偽の壺　昇
愛情の込め方分ける真偽の差　東吉
イミテーションゴールド百重ぢゃん光る　桂香
影武者がひっそり動く舞台裏　義雄
偽物の顔した儲け話です　かずみ
ポチ袋ひとつ増えたぞ福の神　治男
この辺でよかろう祖父の知恵袋　起世子
胃袋の八分センサー直ぐ壊れ　豊
ぺしゃんこになるまで喋りたい袋　八重子

非常袋だんだん欲が深くなる　理恵
何をしても袋小路に突き当たり　武
年金の見栄に重たいのし袋　嘉平
一徹のかたちに脱いである軍手　碧
胃袋に穴が空いたかまだ入る　みね
堪忍袋溜ったまんま萎えてくる　孝子
福袋他人が詰めた夢を買う　准一
絹の手袋はめて抱きたや呱々の声　幸
子に持たす丁寧に縫う頭陀袋　イセ
四股名からお国なまりがこぼれ出す　文子
土俵割る踵に刺さる行司の眼　朱夏
砂かぶり姐さんいつもカメラ位置　芳女
蓋ばかりあけて味見の新所帯　富子
深刻な話煮凝り溶けてくる　登美代
生煮えのまま胃に落ちてゆく小言　幹子
人並みの幸せを煮るおでん鍋　純子
長男に煮付けのうまい嫁がくる　絹子
一年の喜怒哀楽が煮こぼれる　保州

竹原川柳会(広島)　古田　太虚報

今日も無事小さな城に灯を供え　房子
ローン終え雲ひとつない城になる　敬子
一度だけ竜宮城を覗きたく　汎美
夢ひとつ天守閣から見ています　蘭幸
静かです私の城になる一間　規代
年金の差ですアナタが城主です　力

手間ひまをかけた畑は母の城　年子
煮物たく湯気の向うに妻笑顔　半徳
もう涙出ぬから笑うことにする　白狐
鍋奉行笑いも煮込む味自慢　節夫
象には象の笑顔をきっと持っている　一路
何もいらない君の笑顔があれば佳い　淑子
お浄土へ笑って行きます逢えるから　慶子
笑ってる母が居そうな無人駅　静風
ふる里の水手に掬う亡母といる　栄恵
やがて海へとそして空へと還る水　比呂子
森の奥水の赤ちゃん産まれ出る　幸子
百年湧いた井戸水がある我が家　千代美
雨水ぽつりさあ冒険の始まりぬ　笑子
水車小屋世はゆっくりと進むべし　輝恵
箱根駅伝新年の血が騒ぐ　厚子
電子レンジのチンに返事をする私　栄香
挑戦とこころの中に書き初める　太虚
人生の途中寄り道してしまう　千枝
ママ好きよ一番元気の出る言葉　史子

松露川柳会(鳥取)　小西　雄々報

寅歳の賀状にはねる威の力　久子
不景気も虎の力で投げとばせ　智恵子
清正は槍で名をあげ虎退治　信雄
剛の寅嫁にもらえば気が強い　鈴枝
寅年の厄払いしてスタートだ　弘子

虎の威を借りて余生に活入れる　豊枝
床の間に威嚇あらわす虎の顔　公美枝
こつこつと貯めた虎の子手放せぬ　静江
七度目の寅年むかえまだやる気　正光
虎の絵を書いても猫に似てしまう　雄々

ローズ川柳会(兵庫)　**山崎　君子報**

襖絵の虎仏力に帰依をして　義子
解答は図書館に有りとらの巻　藍
未だ少し借りがあるけど旅仕度　てる
水仙の香にうかび来る君の庭　貴代子
椿一花一輪ざしで支配する　いわゑ
マイセンの壺に溢れるほどのバラ　哲子
薬瓶に挿しても楽し野のすみれ　みつ子
投げ入れるあけびの籠の寒椿　年代

川柳塔おっぱこ吟社(香川)　**川崎ひかり報**

突然の雨にあわてる物干し場　はつ恵
傷ついた心がすさむ寒の雨　賢
傘持ってパパを迎えに行くと言う　弘
偶然の仲を取り持つ雨宿り　八重子
晴耕雨読土を守って七十年　あきら
大雨の爪山肌に見え隠れ　放任
土砂降りの雨に流れる蟠り　よしみ
雨漏りの我家昔を思い出す　いさむ
雨の日はふる里想う母思う　ひかり

わかあゆ川柳会(島根)　**松本はるみ報**

亡夫の愛受けて今年も元気です　聖子
鵞の声さわやかに聞かす朝　伸子
決算へからくりがある帳簿尻　ちよえ
移りゆく中でひっそり風車　かつ子
それぞれの未来を語る春おぼろ　はるみ
ありがとうをいっぱいつめておくります　好栄
よーいどん決めた進路にすすむ亀　恵美子
孫達の進路に爺の夢を見る　博利
不況風進路を阻む花便り　清泉

川柳塔唐津(佐賀)　**仁部　四郎報**

万病の予防に日掛け貯金する　四郎
好きな餅難儀している総入歯　勝視
山ほどの仕事抱えて傘寿坂　晴翠
豚足にかぶりついても淑女なり　高明
妻の掌で踊る役者と他人知らず　輝夫
名は残せないが時々虎になる　蜂朗
四日間風邪をなおした卵酒　實

川柳塔きゃらぼく(鳥取)　**大塚　恵子報**

本音丸めると焦点がぼけてくる　なみ
まよい猫虎と名づけて飼ってみる　繭
物忘れ自分が崩れる音を聴く　春枝
賽銭の額と思いがかみ合わぬ　恵子

佳句地十選（3月号から）

鈴木　いさお

わたくしの内緒守っているカード　美花
荒ぶ子の乾きに母の涙壺　美々
万策がつきて芝居の幕を引く　英子
明日ひらく蕾に猜疑心はない　富美子
失敗が笑い話になる時効　集一
後悔をするたび蛇は脱皮する　啓子
マイペースゆったり描く未来地図　扶美代
太陽の恵み春には春の花　ルイ子
枕木の詩は古里へと続く　無限
のんびりと過ごし私になる時間　美義

足の裏八十年の重み知る　てい子
温もりがほしい晩秋のもみじです　晶子
転び上手この世が好きで生きている　やえ
冬ごもり年ごと底が深くなる　千代
食べ物を賞味期限が捨てに来る　富美子
納税六億涼しい顔のお坊ちゃま　麗
両の腕に私は何時も海を抱く　瑞枝
いにしえを新たに忍ぶ船上山　章江
短いか長いか旅路急ぐまい　田鶴
中傷に耳は貸さない新春炬燵　ふみ
山を甘く見るな遭難まだつづく　亜弥
来る春を信じて虫も眠っている　未延子
夢に見る春爛漫の花筵　ゆき

ほたる川柳同好会(大阪) 水野　黒兎報

ミス・ショット　ペアのドンマイ立ち直る　柳童
結ばれぬ縁もあったと想う過去　禮子
幸せな句を作らねば悩むウツ　契子
盲人に寄り添いそっとエスコート　洋子
谷底に捨てた愛を恋しがる　いさむ
結論はいらない妻の長話　春代
失敗を見て見ぬ振りは難しい　雪子
気遣いも煩わしい日身に沁む日　勝
ギリギリの財布が止める梯子酒　長一
結び目を確かめ登る夫婦坂　幹治
父子家庭ぎりぎり以下を視に来たら　信男
結び目のゆるみの一つから狂う　久子
気遣いもほどほどでよい歳になる　桂子
義理チョコに本気の愛をそっと混ぜ　正子
結論の出ない会議に茶が渋い　黒兎

川柳塔まつえ吟社(島根) 三島　淞丘報

突然の客に慌てた冷蔵庫　叮紅
突然の出会い神様ありがとう　茂美
突然で逃がしてしまういい話　政子
安全な車突然止らない　小生
突然の来客に早わざの母　幸子
急停車荷物のように転がされ　たけし
充電で何度も羽化を繰り返す　美智子
お互いに充電したらまた遊ぼ　薫
充電に放電混線する酒場　繭
唇閉じていま充電のまっ最中　螢
充電をしても動かぬ重い尻　房子
充電は寝てる時間を当てている　邦代
だんまりが続き切っ掛け探す妻　紫晃
レジ台で小銭探して列が出来　芳恵
日溜まりに春を探している背中　畔
慰めの言葉を探す通夜の席　寿代
見えているそれが見えないので探す　治代
デパートで子供を探す拡声器　和歌子
恋をする女は軽く芝居する　知恵子
老い二人自作自演の日が暮れる　注湖
淡々と夫婦芝居もエピローグ　昌枝
ライバルを誉めて芝居をもり上げる　ちえこ
金字塔川柳句碑は芝居せず　日出子
ひと芝居打ったつもりが先越され　幸代
コピーライター削る仕事が光ってる　禮子
コピーでの手紙なんだか味気ない　長吉
コピー機がやっと一人で使えた日　桂子
生涯の消えない罪をコピーする　きみえ
アラフォーはピンクレディーをコピーした　柳歩
進化論コピーが少しずつずれる　淞丘

川柳塔なら　坊農　柳弘報

関所には鬼も蛇もいた双六路　隆之
友達という福たんといて切磋　芳子
覗き見る寝顔の孫に癒される　カズ子
あるんです覗いて欲しいとこ少し　博一
福を呼ぶ笹を枯らした不況風　とし子
へそくりの仕分け覗けばお年玉　ふりこ
節穴を覗けば水を掛けられた　満作
人生の双六上がりもう近い　萌子
極楽を覗いたように書くお経　弘風
双六の上がる手前のミステリー　柳弘
千両炎えて幸福なんてこれぐらい　のりこ
明日覗く鏡の向きを少し変え　孝子
覗くのは止めて私も過去がある　郁夫
ひとり住む母を冬日が覗き込む　富子
注ぎにくる男にちらと見た鎧　恭昌
良い嫁になろうなろうと磨く鍋　洋子
双六に賭けた勝負の寅の年　和夫
小さな善意人情のこる町が好き　理恵
椀の湯気今炊き出しの列にいる　ダン吉
ドナーから善意を待っている祈り　良一
福寿草松を支えている自信　弥生
斜めから見ると善意に陰がある　美千子
台所覗けば老母が居てくれる　まつ子
双六へ蜜柑も春の彩で盛り　一風
どん底の善意がとてもありがたい　道子
輪の外へ出てから沁みてくる善意　恵美子
覗くたび未来が変わる万華鏡　集一

笑ってたら福が通り過ぎました　紀男
物好きが来ては広げる覗き穴　國治
あの時は善意の誓いだったけど　朝子
老銭を善意の彩で染め上げる　隆盛
双六は一緒と決めたあの日から　さざ恵
福の神笑い上戸の肩に乗る　次郎
私はいますか君の瞳を覗く　真理子
さりげなく善意の種を蒔いておく　完次

川柳らくだの会(鳥取)　岸本　宏章報

丁寧に耳掃除して法話聞く　孝子
トラキチがチャンネル権を握ってる　紀子
新婚のようにほっこり差し向う　善江
耳ざわりよい言葉には落とし穴　清帆
雪雲の空が割れると春になる　宏章
一病を忘れほっこり寒月夜　玲子
白黒を素直に言って仲間割れ　せつ子
ほっこりと夢の続きがまださめぬ　邦昭
夫婦喧嘩割っては出たが拍子抜け　寿賀子
元日のお屠蘇ほっこり胸にしむ　冨貴子
割り込んで耳を立ててるいやな人　仁子
耳掃除しても入らぬいい話　大鯰

高知川柳社　小川てるみ報

ボタン付けじっと見つめる母の指　典雄
イヤリング付けて少うし飛んでみる　千恵子
寝た切りのツケが怖くて散歩する　京子
付け足しがずしりと重い母の文　三千世
身に付いた事は体が動き出す　悦子
日暮れまで遊んで付いて来た野犬　三郎
横顔は見られたくない付けまつげ　和広
鍋底でもまれて雑魚は味が付く　健
煙草の火あなたに付けてからドラマ　千鳥
モナリザの微笑も付いた請求書　哲史
私の影がひたひた付いて来る　幸子
味付けも姑に似て来て嫁も老け　美々
早急に白黒付ける勇み足　和江
口紅を付けて私が出来あがる　てるみ

川柳ふうもん吟社(鳥取)　夏目　一粋報

絵に画いた餅で終るかマニフェスト　洋々
封印を解いて少女は風に乗る　無限
大黒柱揺する野党の嫁がいる　一瑶
夢だけはえーたい胸に抱いている　一京
マニフェスト盛って借金また増やす　昌鼓
封印を出来ぬ戦争語り継ぐ　(山)節子
封印の過去に女は振り向かず　(平)節子
泣き言はえーたい言わぬ父だった　妻子
封印を早く切れよと消費税　滋
マニフェスト守る政治もあって良い　秀四
金積まれたら口の封印剥げだした　蟹郎
いい意見野党席からあふれ出す　圭一郎
憎まれて風邪などひいておれません　善夫
マニフェスト無視すりゃ票に裁かれる　孝男
封印の裏技バラス三代目　志げ緒
命ある限り川柳続けます　雅女
ええたいにノーと言い切る意地を持つ　清帆
後の影妻と信じて振りむかぬ　振作
野菜たちじっとがまんし冬を耐え　稔
封印の歴史が動く時代来る　春名
迷い道神の住み家が見つからぬ　金祥
信じようあの眼の清さ嘘はない　菊香
うちの嫁えーたい掃除出来りゃせん　清信
役員はええたいうまく逃げている　美雪
票だけはしっかり取ったマニフェスト　啓治
マニフェスト与党の中で揉め始め　茂登子
マニフェスト苦戦続くか総理殿　菖子
マニフェスト今や浮き草四苦八苦　喜美子
マニフェスト変わりプランが宙に浮く　由美子
わが家にも野党が一人反抗期　喜子
つまみ食いえーたい欲しい色男　益子
マニフェスト約束みんな取り下げる　はつ江
マニフェストみんな出来れば天国だ　義徳
マニフェストのほころび探す野党です　毅
物忘れ忘れたふりも生きる術　一粋

川柳ささやま(兵庫)　遠山　可住報

風も木もみな光ってた退院日　純子

まず玄関戸口を開ける年女　美緒子
顔までが似てきて仲の良い夫婦　二英
口開けて初雪受ける露天風呂　美紗子
新米の母も料理を学び出す　啓子
この人になら胸襟を開けそう　真由
四世代ぴったり添って一つ屋根　多美子
御近所の窓開く音にひと安心　開子
ルミナリエ光り芸術夜に映え　照代
温暖化稲妻光る冬の空　かほる
開けっ放し貴女の心に動かされ　幸子
服選びぴったりですよと乗せられる　美智子
故郷の母思い浮かべて荷をほどく　哲男
胸襟を開く男の酒となり　可住

川柳塔鹿野みか月(鳥取)土橋　螢報

気遣いか嫁がストーブ点けてくれ　くに子
ストーブの罪は二人に火をつけた　盛桜
ストーブにお疲れさまと蝶が舞う　茶子
ストーブの温もりメダカ飼っている　汲香
ストーブもリストラされた灯油高　みさ子
真夜中もルンペンストーブ燃えていた　(岩)和子
ストーブの給油ちらっと気にかかり　みどり
うたた寝にストーブだけが暖かい　満
ストーブを囲む野党に雪止まぬ　忠良
ストーブを点すこころも温まる　永子
ストーブの火細め内緒ばなしする　実満

お日さまはでかいストーブ日向ぼこ　完司
ストーブで焦げてしまった愚痴の数　睦子
ストーブに指恥じらった事だった　孔美子
飲むための記念日つくる良い仲間　照彦
雪月花も記念日にして父の酒　彩子
あの日の広島亡夫は語らず抱いて逝き　惣子
記念日だよ夫の遺影と睨み合う　菊乃
誕生日愛は形よ老いて未だ　弘子
記念日のくる幸せに気がつかぬ　美恵子
恙なく目覚めた今日も記念とし　(西)和子
記念日を仕分けしてからプレゼント　蟹郎
水蟹でも過疎のいなかじゃごちそうよ　稔
プロポーズすんなり受けていい気分　幸枝
灸の跡見せてばあちゃん元気なり　節子
双六の得意な孫にいつも負け　房子
双六に不器用なりの意地を見せ　八重
双六もヨーガもインド生まれです　玲坊
楽しかったね双六の山や渓　富久江
双六の上がりに鳴いたホーホケキョ　螢

尼崎尾浜川柳会(兵庫)　田原　一兆報

下積みの苦が支えおり芸の幅　一兆
庭に咲く古木の梅に春を知る　茂幸
夫婦してアレコレソレの物忘れ　政江
落し穴にも小さな穴がありました　比ろ志
手を添えたお盆が揺れる御霊膳　イサミ

人生を上手に生きる隠し芸　江美
決算日帳簿穴埋四苦八苦　あかり
恒例の春の工事に穴を掘る　よしひさ
風邪薬こぼれるほどに貰い受け　柳明
振り向けば頭隠した穴ばかり　彰
幕引きを上手にするも芸の内　美代子
角界に風穴あけた風雲児　キヨミ
早春に安らぎくれる黄水仙　奮水
親は喜寿息子五十の寄生虫　裕康
皿の水枯れてふらふらする河童　朋月
かまへんと混沌誘うおばあちゃん　五月
いささかの芸宴会でもてている　紀乃
貧乏でもかめへん妻のいる暮し　由美子
少少の気儘かめへん好きだから　孝一
タクシーに乗り競馬場から帰る　耕治
父はコラ母はかめへん昭和の子　勝巳
チョイ悪も年を重ねていぶし銀　里江
かめへんと自分に問うているお酒　菜々子
ごゆっくりどうぞと硬い椅子が出る　かずお
足と脳ゆずり合ってるから転ぶ　靖鬼
それなりに子等は登れる木を選ぶ　美義
めぐる日へ希望は捨てぬ再生紙　美籠

京都塔の会　都倉　求芽報

酒樽も化粧直しの初詣で　ますお
政治家もほやほやのうちだけ動く　文代

障子張りたてほやほやの指の穴　知栄
優越感にひたる大海を見た蛙　克治
少しずつ五感の冴えが鈍りだす　英旺
温かいふとんの中の安堵感　としこ
飼主より親近感の持てる犬　則彦
一触即発　緊張感で場が凍る　満子
絵手紙からほのぼの温い季節感　昌乃
母と娘の会話に父の疎外感　宏子
こんな顔わたし選んだわけでない　とし子
親が子に言葉を選ぶ反抗期　綾子
選ばれたと互いに思っている夫婦　篤子
誉めるのも言葉選びが難かしい　葉子
大根と男はまっすぐを選ぶ　啓子
花言葉選ぶ本命朱のバラ　孝一
カラフルな夢を育む福寿草　ふりこ
バレンタイン何の予定もない私　福子
少しずつ出して微罪にするつもり　由美子
定退後妻の予定が多すぎる　典子
生かされる日を楽しんでいる予定　欣之
下山予定過ぎれば名簿落ち着かぬ　肇
追われたり待ちつづけたりする予定　比ろ志
気の乗らぬ予定忘れる癖がある　朝子
リストラが老いの予定を狂わせる　庸佑
予定どおりなら今頃はお金持ち　かずお
さようなら四、五日寝付き逝く予定　万紗子
わからない予定ミステリーバスのなか　和友
予定よりずれて出逢った運もある　求芽
予定から予定生まれて道続く　輝美

川柳若葉の会(大阪)　宮﨑シマ子報

本当の悲しみ人に話せない　能子
満ち足りていても悲しい時がある　ますみ
悲しみも戸惑いも交ぜガラガラポン　加津子
苦もあれば楽あり悲しみもまた然り　洋子
悲しみは親友の死を聞いたとき　慶子
雪には雪の悲しい思い出置炬燵　シマ子
きまじめに生きて無芸の老いの日日　香住
こんなのが芸術ですかアート展　烈

わたの花(大阪)　西川　義明報

大盛りの元気を貰ってる薬　はじむ
六十路すぎ絶叫マシン肝試し　たえ子
バラよりも会話が欲しい誕生日　美代子
君の笑顔が何より僕の宝です　耀一
何色に染めてみようかトラの春　知佐子
ワインより焼酎が好きわが女房　民
急ぎ足気ばかり焦る拉致家族　君江
急ぎ足ころばぬ先に杖をつく　博子
約束の時間間違え急ぎ足　愛子
急ぎ足不景気風に早くなる　宏至
ボーナスへ不景気風が冷たすぎ　義明
新年の騒ぎを話すゴミ袋　いつふみ
笑顔待つママ保育所へ急ぎ足　宏
宝くじ当たれば世界変わるかも　正春
番号の海で浮いてる泳いでる　妙子
頑なに働く夫の背は宝　俊子
思い出がぼやけ総てが美しい　晴美
温暖化を甘く見るなと大寒波　浩三
悔い残る一年でしたありがとう　孝子
仕分人ちょっと小気味な仕事ぶり　和子
言いすぎた事を悔いつつみかん剥く　ますみ
快晴の空へ落書きしたくなる　一風

長柳会(大阪)　村上　直樹報

渋ちんの親で総理になり損ね　直樹
フィギュアスケート賞に冒険舞い上がる　エミ
嘘をつくでも顔付きでわかります　輝子
言い訳がころころ変わり尻尾出す　マサ
嘘八百行き先きっと閻魔さん　もこ
追い詰めりゃ嘘の涙をはらはらと　明子
派遣から晴れて今年は正社員　けい子
趣味で師匠会社で無位無冠　正一
杖になる覚悟はあるとうちの嫁　靖博
しぶ柿をやさしく抱けば甘くなる　正博
一回の嘘に一生引きずられ　敬二
篤志家は地位も名誉も付いてくる　たけし
綾取りが模様を変えて右左　光弘
高官は地位にこだわり天下り　武男

都合良く自分に甘い嘘はつく　幸子
渋い茶をまだ飲まされる沖縄県　正子
下克上若い野心が起す風　正美
人間の地位も守れぬ不況風　和代
喜怒哀楽嘘が持ってる顔の色　芳野
母だけはわかる受話器の空元気　一慧
もう一枚欲しいと願う二枚舌　淳司
愛犬にナンバーツーと知らされる　ふみ
嫁から母そして姑へと揺るぎない　孝代
金婚の夫婦渋茶の深い味　三和子
リストラも地位も無縁の農作業　英美
私が七十なんてきっと嘘　冨美子
渋も抜け君も私の無印に　和子

豊中もくせい川柳会(大阪)　藤井　則彦報

忍耐へ女も紅い糸を切る　千代
じわじわと重責肩にくる辞令　庸佑
目方を計る食前食後風呂上がり　千恵子
勝負ネクタイだけが輝く総理どの　佐和子
三ツ星の店のネオンが消えたまま　きらり
忍耐を節目に育つ竹の花　志津子
がむしゃらに耐えたポケットの夢と　紀乃
ぼくじゃない雪が斜めに降っている　佳恵
寂聴の筆が源氏を噛み砕き　蛍柳
少しずつ我慢し合って仲が良い　(永)玲子
返り咲く手応えくれた七分粥　幸雀
飯粒にへばり付いてる飢えの過去　十八娘
焦るなと出した仲間の手が温い　隆
四こまのまんがのような我が姿　郁子
喜びはあとでじわじわしみてくる　早人
生き甲斐という荷が少し重くなる　満寿巳
お迎えの日は神様がもう決めてはる　則彦
困ります草食男子多すぎる　夢
耐えている姿は見せぬ母の笑み　美智代
じわじわと稼いで損は一瞬に　堅坊
耐えることもうやめたのよ母さんは　満子
川わたる時がピークであって欲し　求芽
じわじわと私の居場所狭くなる　寿美子
叱ってる方がこらえている涙　美義
五十年続いたことが謎の謎　(岩)玲子
命抱く瓦礫墓石となるハイチ　見清
じわじわと責めてもトカゲしっぽ切る　巴子
耐えたのは自分互いに思ってる　葉子

川柳花の輪(大阪)　妻谷　重風報

千円道路ストレス渋滞おまけ付き　一幸
料金は割勘長いおつき合い　善栄
左遷地へ妻から届く着払い　薫
マニフェスト握手だけして消えていく　泰子
父の日を無駄と消すかもマニフェスト　重風
留守電の声ききたくて消さずおく　音成
消した傷深夜の床で顔もたげ　楽鬼
消灯の枕に待ってる今日の罪　克衛

はびきの市民川柳会(大阪)　徳山みつこ報

オキナワの雀は基地を避けて飛ぶ　敏
不況風飛ばして欲しい風見鶏　庸佑
春一番蕗の薹摘み土筆摘み　美喜
百歳へ不死鳥の名を差し上げる　美代子
合格と安全絵馬も忙しい　獏沓
ライバルの絵馬が目に付く神詣で　一知
縁結びハートマークの絵馬見つけ　正子
絵馬代わりマグロ一匹えべっさん　フジ
絵馬堂にぎっしり詰る親のエゴ　章司
パソコンに戸惑い孫を師と仰ぐ　ちづる
どん底で戸惑いながら出す一歩　りつえ
さんですかそれとも君か不明です　千鶴子
早朝の客に戸惑う眉半分　ヨシ枝
ヘルパーさん戸惑いながら来てもらい　静子
惑いこそ人生なると知る老後　久仁子
戸惑ってばかりで前に進まない　アヤ子
戸惑っておれぬ私に明日がある　真一
街角で外人さんに道訊かれ　いさお
戸惑いの手が賛成の中にある　泰子
二で割り切れるシンプルな私です　一壺
シンプルな結婚式で五十年　喜久子
シンプルイズベスト祝辞もお悔みも　六点
シンプルに暮らしていこかなあお前　光男

一人歩き出来るバラには刺がある　悦子
わたくしの願いは一つピンコロリ　みつこ

八尾市民川柳会(大阪)　宮西　弥生報

車椅子赤星さんに感謝する　紀雄
菜の花へ元気貰っている車窓　秋子
半分こ皿に温もり分けてある　留里恵
カワセミが招く秘密のパラダイス　あかり
ゆっくりと枯れて余生の夢を追う　一風
一椀の温みしみじみ沁みる朝　寿鶴
死の渕で初めて知った真の愛　賢子
冬の底やがての春を身籠りぬ　森子
紙魚一つ冬のページを閉じる時　扶美代
国産の酒によろこぶのど仏　朝子
小刻みに震え始めた小悪党　草風
熱燗は外国産に譲れない　寿之
君をもっと知りたいと言い牙を研ぐ　耀一
優越感くるみころころ遊ばせる　柳伸
友見舞うあすは我が身か紙おむつ　いさお
礼節を欠いて頭を掻くばかり　いわお
人間の味が出るまで殻を脱ぐ　欣之
ポケットで春の仕掛けが眼を覚ます　弥生

川柳塔わかやま吟社　川上　大輪報

消しゴムよそれは私の未来です　緑良
旨そうに煮え湯を飲んでいる男　大輪
赤紙がきたとお袋今朝も言う　ダン吉
深刻なドラマは心臓に悪い　よりこ
どっきりが今日も何処かで起きている　美子
どっきりのメイクで今日は若返る　ほのか
どっきりであればよいのに夫の死　英子
どっきりかも知れぬとってもいい話　登美代
振り向けばどっきりさせる人の影　みつ子
しんがりはどっきりさせる大物で　三男
一枚の紙渡されて青ざめる　愿
生き写し街で出会った君の影　和香
意中の方にそっとダンスに誘われる　泰女
広い海でいわし一匹追っている　義子
札束の撒き餌に雑魚がよく釣れる　光久
居直って釣られた女強くなる　克子
薔薇一輪で釣られて長い人生譜　輝子
釣書には才色兼備と書いてない　稚代
さかな釣りただのんびりとしたいだけ　よしこ
目がつってざわめくものをもっている　あきこ
釣ってくださいあなたの海で生きていく　寿子
共にエゴ退いて釣り合うペアとなる　冨美子
信じると簡単に開く鍵がある　裕美
簡単な一つ返事が仇となる　真里子
簡単な時に雑草抜いておく　小雪
簡単に言うはずだったさようなら　いわゑ
セレブでもないのにちょっとハワイまで　紀子
シンプルイズベスト嘘はない　俶子
シンプルに暮らすわたしの自尊心　徑子
簡単に答えが出ないから歩く　怜

川柳茶ばしら(愛知)　板山まみ子報

内定の低さ新卒どこへ行く　百合
永遠のミステリー男と女　美千代
言い分は聞いてくれない鬼は外　かつ子
タバコなら外で喫ってと鬼が言う　遡行
鬼がいてこそいい人でいる家内　幸子
標識に逆らい歩く天邪鬼　雅美
笑い声聞こえ小躍り鬼瓦　まみ子

富柳会(大阪)　古田　千華報

子は宝思っていたが今瓦礫　壽峰
外れても外れても買う宝籤　七朗
青白い炎の中にある嫉妬　鐘造
北の民権威が踊るマスゲーム　高鷲
この人と絆温める冬の坂　華
マスゲーム軍靴の音の聞こえそう　留里恵
昔ならいつも歌った里の唄　伸雄
望郷の島青春てんこもり　欣之
虎の子を使い果したなと柚子茶　佳子
ゲームセット一人ぐらしになっている　よりこ
胸奥に海の青さが一つある　澄子
青春は我慢辛抱いま花野　千恵
平凡が良いと無縁の宝くじ　登子

ここだけのここにしかない蜜の味　田鶴子
宝恵駕籠に戎の笑顔福が来る　武人
弾んでは明日をしゃべる青りんご　安希子
命の灯揺れて大事なものを知る　奏子
会うたびに命が光る青林檎　恵
群青の天へ縮図を見て独り　紅紫朗
剃りたての頭が並ぶ得度式　未知
火柱の記憶もおぼろ福寿草　アキ
幸不幸仕分け作業の外は雪　森子
お目出とうたった二人のカルタ取り　和子
柵を背負ったままの貨車である　寿之
雪ざらしの中のオゾンは私です　よしみ
世を渡る処世術でも渡れない　糺
ゲームのように転職をする青蛙　彦次
煩悩を断ち切るメスが見当らず　信子
わかる絵を描いてひとりの冬にする　鬼焼
正論を吐きつつゲームまだ続く　千華

西宮北口川柳会(兵庫)　黒田　能子報

順風は笑顔と共に吹いてくる　直
マジシャンのステッキ借りて札を出す　順子
幸せだ夫の杖になっている　歳子
買うのならせめておしゃれに赤い杖　弘子
白い杖見守りながら手をのべる　光子
華やかに絵模様の杖街をゆく　佐紀子
国会で今日も総理が探す杖　毅
嘘まぜた一人芝居に期待する　萬的
杖ついて健康ライフ歩いてる　基輔
明日になればトマトが一つ赤くなる　わこ
期待の糸ぷっつり切れてからの鬱　美穂
凝りもせずトラへ今年も夢託す　正和
義理チョコでお返しの品期待され　りこ
期待と失望繰り返しては揺れる国　いたる
元気なら欲は言わないあなたの子　茂
期待外れ次の一票行き場なく　浩司
お願いはしない期待の贈り物　早加永
期待した与党のタイヤ空気漏れ　奮水
言い訳を聞いてはくれぬ向い風　忠
不況風追い討ちかける流行風邪　武臣
如月の風にたしかな春の色　緑
待って見る事だそろそろ風が来る　富喜子
ふる里の風と帰って来た卻　比ろ志
やわらかな風に乱れてみたくなる　美籠
寒の明け春は名のみの風を聞く　哲男
幸せのピークで待っていた刺客　秋果
花言葉通りのバラは真っ盛り　孝一
春一番不況の波を吹き飛ばせ　キヨミ
死ぬまでは生きると決めた大茜　美代子
ためらわず自分の道をてくてくと　光久
デッサンと違った今日の線をひく　彰
人生の峠を越えてまた難所　耕治
塩胡椒少し足したくなる男　朋月
孫の弾ける笑い声湯を沸かす　玲子
ゆっくりと歩けば転ぶことはない　求芽

川柳塔みちのく(青森)　小寺　花峯報

お悔やみの言葉詰まる突然死　つとむ
振りかえる乙女の姿天女です　綾子
巾着の希望萎んでゆく不況　きよし
干し菜汁すすった祖母の幸見たり　初枝
ぶっきらぼうまさか突如の隠し芸　呑舟
欲張らず二段構えで夢を追う　洋子
歌麿の絵が真夜中に泣いている　あすなろ
窓越しの瞳と瞳が契る発車ベル　芳生
倦怠期希望を探す旅に出る　一呑
妻亡くしまさか一人でくらすとは　隼人
さよならの声も枯れてる啜り泣き　銀波
生きている希望と挫折くり返し　ふさゑ
採血の我血をすする憎い針　花匠
機中から陶酔させる富士の山　雅城
カサブランカの色香に頓死黒揚げ羽　愁女
幻を食べすぎてから木偶になる　黙人
大それた望みは抱かぬ柿の種　岳水
最後尾両手に抱いて置く希望　花峯
福の神貧乏神と飲んでいる　慕情
高望みしても無駄です栄螺殿　一花
陶酔の桜に我を見失う　劦
一日に一度溺れる水中花　五楽庵

米子住吉川柳会(鳥取)　渡辺多美子報

買い溜めが賞味期限を凍らせる　すみえ
見て見ない聞いても聞かずいい爺　正二
ランドセル渡り切ったか見届ける　ふみ
現代っ子も合格祈願神だのみ　多美子
氷張り足を取られて墓まいり　欣子
恥いっぱい胸におさめて日が暮れる　公一
寒がってお待ちしてます飲む話　紀の治
寅寅と年賀はがきがにぎやかに　登美枝
雪降って玄関急にせまくなる　礼子
文房具屋にマンガを読みに通ってる　未延子
お願いがあるときだけの神仏　宏之

あかつき川柳会(大阪)　山本　隆昌報

淋しくはないかと雀寄ってくる　生枝
春に追われ淋しく消える雪女　シマ子
タクシーが一台待機無人駅　和雄
お金さえあれば淋しくありません　勝弘
匿しても枕のしみが物語る　キヨミ
骨密度もうあきません淋しいな　ばっは
店じまい張り紙風に千切れそう　正
淋しさを言うまい菜の花の黄色　紀乃
水仙の香り寃罪許さない　ダン吉
水仙のまわりに春がやってくる　美世子
水仙に俺の野心を覗かれる　昭
しがらみをゆるりと解く黄水仙　柳弘
鳩山さん生命を守る気はあるの　明水
出来ちゃった命が式を急がせる　篤
何よりも重い生命軽くなり　美智子
生命誕生動物園も春ですね　あや子
どの子にも生きる権利へ手を延べる　賢子
エンピツのいのち最後まで使う　一歩
終戦を知らずに散った惜しい人　章久
生命線たどる母の掌に　柳昌
鬼は外まだまきたらぬ陸山鬼　鈍甲
突っぱりで何処まで行ける幹事長　千代子
国会と横綱品格で勝負　見清
職安にベビーブームの首並ぶ　哲男
献金の煙は出るが火が出ない　紀雄
意志強く止めた煙草を彼女吸い　弘泰
妻の目は煙幕なんぞつき破る　蕉子
たなびくは野焼の煙杉花粉　忠昭
湯煙の町はのんびりしてまんな　太郎
山の煙祖父鍬鑠と炭を焼く　克己
鶴橋でからだ丸ごと燻される　朝子

川柳さんだ(兵庫)　北野　哲男報

悪友の弔辞心の鉦ひびく　哲男
惚けたかな打てどひびかぬ脳細胞　一良
割れ鍋のままで果せぬ夢ばかり　彰
鍋囲む蟹もみんなも赤い顔　一子
本音とは気付かなかった妻の愚痴　千代子
客なのに本音が言えぬ美容室　宣子
座談会本音を吐いてすっとした　歳子
壁の耳本音しっかり聞いている　章子
風船に本音を入れて送ります　順子
真夜中に恥らい捨てて露天風呂　裕康
真夜中に電話鳴ってる亡母だろか　ちあき
よい目覚め夜中の痛み嘘のよう　美紗子
あの時の言葉を胸に頑張れる　令子
三途の川溺れぬように行くプール　キヨミ
花暦地図を広げて老い二人　雅司
真冬でも釣人誘う日本海　裕美
逃げ足の早い女の脚線美　晃
特老の友の年賀を読み返す　一泉
友が逝くまだいかなごが煮えぬのに　哲夫
遇うたびにだめよだめよと進む恋　好文
ベランダに万年床が干してある　朋月
土壇場になって神様ほとけ様　忠
役員の方が多いが選手団　正和

岩美川柳会(鳥取)　石谷美恵子報

壺の金うっかりしゃべりせびられる　蟹郎
散歩道うっかり素顔盗まれる　孝男
うっかりと見落とす影のうすい人　圭二郎
身を守るためにうっかり本音吐く　忠良
うっかりと酷使していた靴のチビ　一粋

夫唱婦随うっかり眼鏡取り違え　睦子
迂闊にもまたも嵌められ策を練る　幸枝
うっかりとしていたように演技する　公子
約束をうっかり同じ日に入れる　幸子
ここからは鳥取県か雪が降る　螢

家計簿に買い物上手褒められる　節子
買う方が安い野菜に鍬を振る　清帆
買い物は値引きのタイム待って行く　菖子
買い物へ荷物は全部夫が持つ　和枝
福袋買う人見てるテレビ前　和子
倒産で立派な家だ買い得だ　かつみ
達筆を指でなぞっている冬日　完司
足の指ぐっと踏んばる徳俵　重忠
五指全部揃って動く有難さ　一京
一徹を守り通したでかい指　一瑶
血判の覚悟で君を抱いている　茶子
かじかんだ指に算盤狂いだす　たぬ
オヤユビとヒトサシユビで輪をつくる　幸安
百歳の指百年を物語る　雅女
難点は承知で買った品に飽き　美恵子

川柳塔打吹（鳥取）　野口　節子報

討論会尖った野次が乱れ飛ぶ　よしえ
ホットミルク尖る心を静めたよ　和子
とんがった心を丸くするあなた　照彦
人間が軽く飛び交う尖り声　いさお

玉砂利にはまるヒールで伊勢参り　善江
尖塔が天国そこと指している　玲坊
尖るもの優しく包む母の愛　孝恵
尖った靴が大阪弁しゃべる　三津子
何かあるやたら尖ってくることば　くにこ

若者が派遣切れして仕事なし　富恵
知能指数に駄目押しされた志望校　節子
百寿まで恋を忘れず暮したい　禎元
春までは自信の上に志望校　みち子
入ったが卒業出来ぬ志望校　紀の治
第一志望は飛行機乗りだった　螢

志望した仕事について恩返す　陽之助
志望する職も贅沢言えぬ今　龍枝
偉そうに尖った口調北のアナ　公恵
土弄り旬が食卓並ぶ夢　清

ささやかな志望ゆっくり夫婦旅　芙美子
恋志望好きな貴方に添い遂げる　勝憲
志望する職なく家なく金もなし　久芽代
運不運志望の会社的はずれ　小生
川柳に望み託して天を待つ　紀美恵
三味線の竿を大事に旅がらす　貴恵
時々は時の流れに竿さして　泰輔
釣竿が海を見たいと歎いてる　和枝
夜昼と美人の釣れる竿がある　義人
ジーパンが竿を跨いで日向ぼこ　泰山
ピカドンが時の流れに竿をさす　重忠

手心えが竿を伝ってハートまで　滋
竿差せば届くところに日本海　石花菜
竿の位置決めて自分を確かめる　美代子
竹竿を振ったら星が落ちてきた　芳光
釣り竿にハングル文字がひっかかる　完司

南大阪川柳会　吉川　寿美報

さい銭をケチって福があっち向く　章久
幸福になれて不足を並べ出す　たもつ
この顔はおじいちゃんだと福笑い　弘風
雪割ってけなげにぽっと福寿草　ばっは
出発はたった五人の同人誌　克己
再出発乗せてはいけない運輸族　忠昭
振り出しは相思相愛だったのに　柳弘
浄土へのドラの音茶碗の割れる音　清

よろしくと屠蘇酌み交わす老い二人　正春
お年玉仕分けしている孫五人　弘子
小正月七草粥で亡妻想い　憲太郎
年玉を渡す子も無しひとり酒　弘泰
お正月せめてエプロンさらにする　楓楽
お年玉傘寿のわたしにもくれる　ルイ子
お年玉悲鳴をあげる子の育ち　なぎさ
三箇日街の空気も柔らかい　太郎
初日の出千里を駆ける虎の如　滋郎
私には松竹梅の友がいる　勝弘
プライドが邪魔して四十路過ぎた女　和雄

経験が誇る姑の知恵袋　更紗
花守の労苦へバラは咲き誇る　柳伸
反骨の誇りを抱いて一人酒　一歩
引っ越しでやっと古本処分する　栄子
すっきりとけじめ大関土俵去る　あや子
葉を落し枝もすっきり冬の庭　直子
わだかまりすっきり流す母の川　志華子
すっきりと捨てて余白の一頁　集一
民主党出発点がずれていた　昌紀
すっきりの朝シャンはティーンの必須　りか
不揃いのどの子も愛し福寿草　寿美
声限り天に向ってバカヤロー　直樹
棚田の誇り守って父のあとを継ぐ　シマ子
肩書きのプライド名刺重すぎる　恭昌
酒煙草すっきり止めた男意地　タカ子
新年へ決意新たに二度の職　ひさ乃

サークル檸檬(大阪)　松尾美智代報

落陽に結論託し酒にする　久仁雄
夜あけ前まだ結論は闇の中　いわゑ
死ぬことを不幸とばかり言い切れず　哲夫
結論は神に委ねて前向きに　房子
ぶつかってみよう勝負は五分と五分　希久子
結論は首挿げかえただけのこと　たもつ
結局はほっとけなくて母を看る　加お里
いい結論手繰り寄せたい月明り　美智代
どこでどう違ごたか結論気に入らず　千代
寒い寒い明日また続き考える　蕉子
一夜干し悟り開いたように焦げ　昌紀
曖昧な結論火種だけ残す　光久
結論を急かす二月のカレンダー　扶美代
落したパンハトが結論つけました　義子
ケセラセラ終りよければすべてよし　みつ子
尻尾みな見せて仲間にしてもらう　楓楽

倉吉川柳会(鳥取)　竹信照彦報

役立たぬサイン・コサイン・タンジェント　鬼一
ドラマのような三角関係してみたい　由紀子
三角も四角もならず一人住む　秋草
三角田定規はいらず手植えする　英子
なつかしい姉さんかぶり三角布　日出子
冬の海三角波がおしよせる　泰輔
三角の人の関係ままならぬ　けいこ
流れ星力いっぱい燃え尽きる　石花菜
沖縄の基地は流されどこへ行く　よしえ
洗面台愚痴も一緒に流し込む　萩江
兵舎あと兵が流した血の涙　重忠
常識が共通でない三世代　風露
しがらみに流されないよ正統派　祐子
流れ雲親と同居は嫌と言う　喜美子
少子化の流れは止める策もない　瑞子
年金の枠で身動き出来ません　康子
新聞の枠で故人の偉業知る　和子
口の枠自由自在で困らない　次男
法律の枠飛び出して檻の中　節子
枠の中伝統和紙が生き残る　酔芙蓉
絵手紙に大根太く枠越える　美津恵
定員の枠外裏の口で入れ　(故)かつみ
満月になるまで太鼓打ち鳴らす　螢
鬼たちの太鼓だろうかドンドロケ　和枝
太鼓判押して忘れた無責任　いさお
布袋様メタボランク下位になる　玲坊
ネコの皮死んで花咲く太鼓張り　貞子
イベントの太鼓の音でじげ起し　悠子
太鼓持ち連れて町行く票集め　美代子
子ども御輿亡夫は太鼓を叩く役　たかこ
イベントに古い太鼓も鳴り響く　小生
見上げれば僕の写真に黒い枠　照彦

六甲川柳会(兵庫)　伊勢田毅報

わたくしがたんまり生きているノート　いわゑ
師の足跡たどる眩しいことばかり　みつ子
卵抱く鳥は命を惜しまない　光久
穏やかに腹も立てずに暮らせたら　(鼠)弘子
すきっ腹虫の居所悪くする　恵子
腹黒い人でも何処か憎めない　順子
ぐらり揺れ肚の据ったふり出来ず　盛夫
腹の虫二合の酒で恵比須顔　洋一

名医でも腹が立ちます待ち時間　政一
腹の中見透かされても芝居する　勝
残さずに食べる習慣メタボ腹　基輔
腹抱え笑う友達みな元気　保雄
勢いに乗ってこの川ひとっ飛び　能子
勢いに乗れぬわたしを風が押す　美恵子
どん尻に勢いつけた背の声　和郎
風花が舞って勢いづく逢瀬　武彦
カッカッとヒールの音の管理職　礼甫
運筆の勢いありて文字生きる　寿朗
幼児が勢いあまりコッツンコ　(山)弘子
乗り越えて男ピンチを語らない　美穂
結び目がピンチのたびに強くなる　孝子
練習の量がピンチを切り抜ける　茂
ピンチでもどっしりと立つ龍馬伝　武臣
ピンチには俄然ハッスルする息子　利子
ピンチでも何とかなるがならなくて　浩司
また漏らし拭き取る先に子の笑顔　弘
ピンチでも知恵と負けん気あればよい　勤
歳重ね母は無心で童歌　千賀子
ほのぼのと心和んだうた暦　悦子
すれちがいはっと振り向く娘の香り　夏子
世の中を判りかけたら顔にシワ　義行
戎さん人の多さに福追加　芳江
あわててても急に幸せにはなれぬ　無限

隙間風入れて仲良し三世代　毅
老いの恋低温火傷せぬように　楓楽

翠洋会(大阪)　佐々木満作報

淋しくて声する方へすぐなびく　楓楽
独り酒声なき声と対話する　集一
一声をかけて全部が丸くなる　れんげ
列島に喜びの声メダル二個　桃花
よく通る声で春告ぐ揚げ雲雀　満作
声はなし子供部屋からメール来る　希久子
正夢がやっと授かる鯉のぼり　恭昌
電話ベルやっぱり君か待ってたよ　みつ子
いいほうの予感はそっとあたためる　理恵
宝くじ当る予感も運もない　すみ子
今日も鍋予感が当りすぎている　蕉子
大股で歩く予感けとばして　義
拙句だが拾って貰える予感する　浩二
目が合って恋人となる予感する　水昇
茶柱が立ったくじでも買う気分　捷也
いい事が続くと恐い予感する　舞夢
君が代をなつメロと言う孫世代　昭
なつメロに濁声しぼる八十の会　滋彦
母だけが父の音痴に拍手した　日の出
春闘のあの懐しい労働歌　尚士
風雪に耐えた夫婦が軋み出す　富子

梅匂う日溜り探す絵筆箱　千歩
一日を大事に今日はもう二月　照子
春めいて心華やぐ散歩道　久峰
政治屋とぼんぼん仕切る日本国　知之
改革で勝ち越し決めた貴乃花　げんえい
趣味多才いま川柳の糧となり　茶々
ほんとうは気が弱いんだ肩パッド　正雄
婚活の娘に届く青いバラ　弘子
不況下に若者達が貯金する　叡子
東風吹いて菜花も咲いた仮名だより　志華子

川柳ねやがわ(大阪)　籠島　恵子報

太陽の色と似ているプチトマト　壽男
太陽と思うお方がいてくれる　修
新年の句会ブローチネックレス　あやめ
太陽を私と言われたのは昔　銀杏
打ち直し布団は昔エコだった　美江
霜焼けのかゆみを連れて春は来る　敬
仏にも鬼にもなって子を叱り　三郎
愛された記憶の中の羽根布団　柳弘
年ごとにいとおしくなるこの命　鈍甲
良妻賢母心の鬼を手なずけて　弘一
尻尾振る犬のもろさを笑えない　茜
気を付けねば酒が人生狂わせる　さち子
情にもろく我を忘れてつい動く　ルイ子

いのち抱くベビー布団のうふふふふ　朝子
強いのももろく崩れるのも絆　賢子
つくづくと女は強いなと思う　仁清
2代目が継いで地盤をもろくする　寿子
鬼嫁と言われるけれど良い夫婦　かすみ
床の間に子供が書いたアトムの絵　美智子
お互いに仮面を脱いでうろたえる　郁夫
寝たきりの布団へ笑い置いてくる　一風
金メダル鬼の監督目に涙　秀雄
札束がからめばもろい自尊心　栄二
裸女好きな夫が選んだ絵が嫌い　尚世
思春期の心は薄いガラス玉　祥昭
風化などさせぬ広島地獄絵図　洋
川の字の布団幸せそうに見え　忠央
淋しげな絵手紙が来る友思う　弘風
初孫の布団縫う手は夢無限　麗
自画像の目はパッチリと描いておく　恵子
母親の涙へ父は一歩ひく　搏泉

岸和田川柳会(大阪)　仲谷　弘子報

涙もろくなれぬ私へ自己嫌悪　ゆい
目にゴミが入って来たと父頑固　清
涙のない生前葬が理想だが　昭
ドラマ見て夫婦で涙隠し合い　淳風
美女流す涙に負けるうちの人　柳風
義理の娘に「お父ちゃん」「うん」目が真っ赤　笑司
金賞のラベルが招く客の列　若芽
ばあちゃんとレベルが違う孫の知恵　俊昭
バラ一りん活けて至福のレベルです　幸子
これで良い水準がない家事育児　香代
水準の高さは汗の量だろう　ダン吉
二人の子だ鷹にはなれるはずがない　隆昭
年金が水準以下で日々不安　房枝
レベル以下悟れば和む暮らしぶり　蛙城
腕組めば君の歩幅になって行く　愿
老夫婦家もお庭も狭めたい　しげる
初心者が慌てふためく車間距離　はるえ
氷山と緑狭めているヒト科　力子
昇段の権威狭めて値を上げる　東吉
射程距離狭めた愛のチョコレート　仁緑
あの時も確か二十歳と言いはった　なら代
ネジ巻けば音も確かに古時計　浅子
足腰は弱って来たが口達者　玄也
慢心が確かさ甘くして転び　洋
新しいシナリオ確と抱く蕾　すみえ
この本にあったへそくり何故ないの　泰弘
当用漢字確かめて書く戦中派　弘子
確かだと言われたトヨタ揺れている　珠子
借りた金確かに返しておりまする　呂万
百姓一揆昔のデモは命懸け　義泰
ストとデモどんなゲームか子に聞かれ　つかさ
負担増え後期高齢デモしよう　和美

川柳大阪　長井　善純報

ひと言の勇気の証し妻が居る　川童
九条の勇気は国の誇りなり　東吉
勇気いる初体験のマイク持ち　功
真実の勇気はいつも残してる　照月
九条を守る勇気が平和生む　鉄心
体重計そっと置いてる部屋の隅　圭
ときめきは勇気だしても胸のうち　末一
手を掴み痴漢ですよと言う勇気　珠生
不正には内部告発する勇気　義明
ベテランに囲まれ反対する一人　比呂志
くつ返す雑魚一匹にある勇気　朝子
子の寝顔離婚届に要る勇気　章久
勇気ある決断迫る核と基地　柳弘
タイガーは一夫多妻と勘違い　花笑
悪いことばかりが当る勘の冴え　勝弘
ほほにキス勘定書きに無いオマケ　信酔
案内はするが勘定は頼みます　五月
勘違いしていた頃が懐かしい　芳香
勘狂う急にやさしくせんといて　かよこ
いまだかって勘が当った事はない　まつお
財務相健康理由やめはった　美世子

仮病ではあっさり医者に見破られ　和
あっさりとすっぴんになる入院日　柳昌
年賀状如何ですかとそれっきり　紀雄
醒めた目で一途な彼をあっさりと　司
あっさりと基地はなさない星条旗　一風
爽やかであっさりしてる君の洒落　美花
彬の碑あっさり出来た訳でない　一歩
元気かと一筆嬉しい年賀状　善純

川柳塔さかい（大阪）　河内　月子報

お小遣もたせば悪い虫おこす　つづや
濡れ落葉仕事の鬼のなれの果て　時雄
鬼コーチ妻にはあごで使われる　和夫
ダイエットしている友へあんこ餅　公誠
オレオレに関西人は騙されず　好
老化した鬼がしょっちゅうへまをする　玄也
美しいウソにごめんは似合わない　惠勇
みそ汁が冷めてしまうと妻起こし　山彦
起こしてもすぐに寝ているうちのトド　朋月
言いそびれごめんが溜まる喉仏　りつえ
ごめんなさい言える子供に育ってる　半銭
大空の片隅借りて大根干す　扶美代
あっさりとごめんが言えぬ人ですの　冬虹
ちょいごめんおばちゃん人を掻きわけて　かりん
母として謝ることがたんとある　千代
ごめんやすお留守だったら入ります　みつこ
童心にかえった母を抱き起こす　唯教
母さんの起床ラッパは優しすぎ　篤子
おもむろにカルテ眺めて黙る医者　雅明
おばさんを隠すつもりの伊達メガネ　敏治
ごめんねがまだ言い出せぬわだかまり　のん子
ごめんではすまされないよあの誤診　日の出
ごめんやす猫が陣どる妻の膝　俶子
億持って金貯めるのが大好きよ　綾乃
鬼の面外すともっと恐い顔　としお
ごめんとはなかなか言えぬ反抗期　ゆきの
事故ばかり起こす酒癖悪い奴　妻子
1円玉ばかりでごめん募金箱　像山
日和ええ日は鬼瓦目を細め　天笑
ごめんなと有精卵をぽかり割る　愿
起きるまで顔をペロペロなめられる　竜之介
思い抱きカナダの雪へダッシュする　健吾
ごめんねと言わせ草食系にする　清晋
約束があるから朝も起きられる　舞夢
揉めごとをよう起こしはるおばあちゃん　月子

川柳塔すみよし（大阪）　岩崎　公誠報

小心でいつも待ってる残り福　勝弘
ラストまでねばってるのも理由があり　まつお
ラストにはあなたの膝の上がよい　芳香
会うたびに母のラストが近くなる　章久
心こめラストを飾るありがとう　りつえ
一発芸オチの甘さが目に余る　美籠
最後尾みんな見守る山登り　一歩
べべたでも辿り着ければよしとする　克博
終止符を打てないままに抱くラスト　柳弘
始まれば終る理恋閉じる　蕉子
お見合いがラストになった七回目　シマ子
更年期をラストチャンスに妻が翔ぶ　ばっは
百歳で好きな彼女を狙ってる　舞夢
のんびりとラストチャンスを待っている　萠
閉店が決まってからの忙しさ　裕之
ラストではないとブービーほめる母　五月
マラソンのラスト選手に湧く拍手　太郎
ラストまでやり通したと母をほめ　チエコ
おわりですと言ってからが長い客　温子
終電に間に合いほっと眠り込む　昌紀
真心がきっと最後にものを言う　のん子
引退を決めた敗者のラストラン　遠野
折角のラストダンスを外される　半銭
紙の舟ラストは命ゆらゆらと　岳人
転んでも走ってラストワン飾る　かりん
ラストの日神も仏も留守だった　篤子
最後まで自分の足で歩きたい　日の出
三行目さよならと書き別れます　公誠

ご応募ありがとうございました。入選の皆様には賞品をお送りいたします。

第3回 オニザキ「ごま川柳」入選句発表

川柳塔社主幹 河内天笑 選

芹嫁菜春だ春だとごまびたし　大阪 津村志華子
すりごまにもう一杯を誘われる　堺 羽田野洋介
ごま和えをたっぷり食べて医者しらず　和歌山 木本 朱夏
煎りたてのゴマ買った日はゴマ尽し　大阪 原田すみ子
卓上のすりごま孫のお気に入り　高槻 井上 照子
黒ごまをたっぷりかけた葱のぬた　大洲 中居 善信
脇役も主役もこなすごま豆腐　豊中 松尾美智代
さあどうぞゴマ塩効いたお赤飯　河内長野 清水千代子
乾杯のビールにニラのごまよごし　木津川 田中 笑風
イタリアンにすりごま妻の隠し味　羽曳野 吉川 寿美
優しげな薄紫のゴマの花　大阪 平嶋美智子
胡麻和えを一品添える不意の客　篠山 酒井 真由
ごま和えへ菜の花春を連れてくる　大和高田 鍛原 千里
すりごまを引き立て役に春を食べ　旭川 酒井日出子
和洋中ごまは自在に演じ切る　京都 三宅 満子
小粒でも胡麻エネルギー果てもなし　西宮 奥田みつ子
弁当の仕上げにゴマの薄化粧　尼崎 加川 靖鬼
薄味をごまの香りがカバーする　尼崎 藤岡 利子
一撮みごまで御馳走らしくなり　大阪狭山 矢野 梓
ごま塩のおむすびぱくり母の味　札幌 小沢 淳

【準　特　選】

すりごまに美女も野獣も魅了され　黒石 相馬 一花
手みやげに配るすりごま嬉しそう　大阪 笠嶋 惠美

【特　選】

血液のなかをさらさらごまの精　紀の川 辻内 次根

オニザキの すりごま

自宅の台所で始めた手洗いのごま加工・販売から50年。オニザキでは、手作りの風味にこだわり、独自に開発した製法で、ごまの香りと味わいを最大限に引き出し、美味しいすりごまを作り続けています。

株式会社 オニザキコーポレーションセールス
〒862-0951 熊本市上水前寺1-6-41 OCOビルディング
TEL フリーダイヤル 0120-30-5050

くらわんか番傘川柳会

創立３０周年記念川柳大会

礒野いさむ句文集　発刊

日　時　４月２９日（祝）　１２時開場
昼食は済ませてお越し下さい。
会　場　ホテル大阪ベイタワー
（地下鉄中央線・JR環状線「弁天町駅」下車）
会　費　3,000円（句文集・記念品・発表誌）
挨　拶　くらわんか番傘　住田英比古
句文集発刊によせて　礒野いさむ
祝　辞　日川協会長　今川　乱魚
清　興　落　語　桂　三若
宿　題　各題1句 欠席投句拝辞 出句締切1時
事前投句
「　紙　」　住　田　英比古　選
「鮮やか」　上　野　多恵子　選
「伸びる」　松　本　初太郎　選
「学　ぶ」　久保田　半蔵門　選
「主　役」　板　尾　岳　人　選
「ロマン」　森　中　惠美子　選
「ことば」　田　中　新　一　選
投句先〒573-0047枚方市山之上5-3-20
三村一子　TEL072-843-2389
懇親宴　7,000円(同ホテル　予約申込制)

創立５３周年
第21回　時の川柳交歓川柳大会

日　時　５月９日（日）10時30分開場
会　場　兵庫県民会館９階ホール
電話078－321－2131
（ＪＲ元町駅・阪神元町駅から北へ徒歩10分）
（市営地下鉄県庁前東出口から東へ徒歩５分）
会　費　2,000円（記念品・発表誌呈）
講　演「私が影響をうけた作家たち」
柳都川柳社主幹　大野　風柳 氏
兼　題　各題2句　席題なし　欠席投句拝辞
「汚　　染」弓　削　河原　千壽　選
「さわやか」小松島　井上　博　選
「ペ　ー　ジ」西　宮　奥田みつ子　選
「翔　　る」堺　久保田元紀　選
「　渦　　」交　野　住田英比古　選
「自　　由」神　戸　赤井　花城　選
「雑　　詠」神　戸　平山　繁夫　選
特別課題　１句
「弱　　い」神　戸　佐藤寿美子　選
賞　知事賞、市長賞他多数（兼題合点方式）
懇親宴　5,000円　同館10階　当日受付

第11回井笠川柳会記念笠岡大会
（第３１回蘖大会）

と　き　５月22日（土）
開　場　９時30分　締切11時30分
ところ　笠岡市保険センター（ギャラクシーホール）
電話　０８６５－６２－５７０１
笠岡駅から④バスで伏越下車４分
事前投句　【手　紙】　（３選者共選）
岡田千茶、小野真備雄、小島蘭幸
応募方法　２句並記（指定用紙か便箋）
住所、氏名、柳名(振り仮名) 電話、柳社明記
投句料1000円．**４月末日必着**（年間賞対象）
投句先　〒714-0081 笠岡市笠岡2289笠岡川柳会
戸田さだお 宛てTEL・FAX 0865-62-6200
投日投句　【血　　圧】　中田たつお　選
(各題２句)　【痛　　い】　矢沢　和女　選
【弁　　当】　赤井　花城　選
(当日発表)　【特別課題】　高木　勇三　選
会　費　１５００円(句誌呈)
賞品・賞状　事前・当日投句　１位に句碑贈呈
他に知事賞・県議会議長賞等多数
句碑除幕式　22年5月22日㈯　午前11時
古城山川柳公園
主催　井笠川柳会　**後援**　岡山県・笠岡市 他

第７回大野風柳賞作品募集

雑　　詠　５句（未発表作品）
審　　査　大　野　風　柳
審査方法
＊選句は記名選とします。
＊5句1組として総合力で賞を決めます。
＊但し集句をまとめて、特選句3句、秀逸句10句、佳作100余句を選んで発表します。
表　　彰
＊大野風柳賞１名（受賞作品のミニ句碑・賞状・表彰式交通宿泊費）
＊準賞３名（大野風柳表装半折作品・賞状・副賞１万円）
＊奨励賞５名(大野風柳色紙作品額付・賞状)
７月４日（日）の柳都全国川柳大会席上にて表彰します。
投　　句　用紙は自由。**４月25日消印有効**
千円小為替同封。
宛　　先　〒956－8691新津局私書箱15号
柳都川柳社宛。(全員に記念品呈)
発表誌柳都６月号希望の方は500円加算してください。

第34回 全日本川柳2010年鳥取大会

日時 平成22年6月13日（日）午前10時開場
会場 とりぎん文化会館梨花ホール
〒680―0017 鳥取市尚徳町一〇一―五
TEL 0857（21）8700
交通機関 鳥取空港からタクシー20分、JR鳥取駅から県庁方向へ徒歩20分
鳥取バスターミナルから5分（「県庁・日赤前」下車）

宿題 第一部 4月15日締切（当日消印有効）
（事前投句 高校生・一般の部）
「漢字」堀井 勉 選　「渡る」小梶 忠雄 選
「湯」菅原孝之助 選　「トリック」川上 大輪 選
（事前投句 小・中学生の部）
「スポーツ」植木 利衛 選　「妖怪」弘兼 秀子 選
「自由吟」八木 柳雀 選

投句料 専用用紙のない方は2×16㎝の句箋一枚に一句宛記入・各題二句・無記名、封筒の裏面に住所・氏名明記。
一、〇〇〇円（定額小為替・現金書留）を同封して左記宛郵送または郵便振替口座へ送金のこと。（当日消印有効）
小中高生は投句料無料。

投句先 〒530―0041 大阪市北区天神橋二丁目北1―11―905
㈳全日本川柳協会 宛
TEL 06（6352）2210 FAX 06（6352）2433
郵便振替口座 00970―9―3575

宿題 第二部（当日投句、11時10分締切）
「蟹」藤原 鬼桜 選　「格差」小金沢綏子 選　「駱駝」松代 天鬼 選
各題二句、当日配布の句箋に記入。

第二次選者 大野 風柳　河内 天笑　赤井 花城
安藤 紀楽　住田英比古

参加費他 四、〇〇〇円（参加費二、〇〇〇円、昼食他二、〇〇〇円）

表彰 (1)文部科学大臣賞 (2)参議院議長賞 (3)川柳大賞
(4)大会賞 ジュニア部門は賞状とメダルを予定

＊

㈳全日本川柳協会大会委員長 礒野いさむ
全日本川柳鳥取大会実行委員長 鈴木 公弘

＜表彰式典・前夜祭ご案内＞

◎**表彰式典** 平成22年6月12日（土）午後5時半
（功労者・大会10回連続出席者・川柳文学賞）

◎**前夜祭** 表彰式典後、同一会場で
会場 ホテルモナーク鳥取 2F「仁風の間」
〒680―0834 鳥取市永楽温泉町四〇三
TEL 0857（20）0101

参加費 八、〇〇〇円（会食・アトラクション）

大会・前夜祭のお問い合わせ先
〒689―0343 鳥取市気高町飯里八四―四
鈴木 公弘 方　日川協鳥取大会実行委員会事務局 宛
TEL・FAX 0857（84）2886
携帯電話 090（9067）2622

大会・前夜祭参加費の送金先 4月15日（申込締切は必着）まで
郵便振替口座番号 01390―5―53568
日川協鳥取大会事務局 宛

＜宿泊・観光ご案内＞

宿泊 ホテルニューオータニ鳥取・ホテルモナーク鳥取 他
宿泊料金・一泊朝食付・税込み 8、400円～12、600円

観光 ▽春の因幡路観光
6月12日（土）午後1時～午後5時 3、500円
集合場所 JR鳥取駅南口・午後0時45分
募集人員 45名様（最少催行人員35名様）
▽ぐるーっと鳥取 ＝人気観光地めぐり＝
6月14日（月）～15日（火） 35、000円
集合場所 JR鳥取駅南口・午前8時45分
募集人員 45名様（最少催行人員25名様）

宿泊・観光申し込み・問い合わせ先
近畿日本ツーリスト（株）鳥取営業所 担当：芦田・前田
TEL 0857（22）7100 FAX 857（22）6904

句会名	日時と題	会場と投句先
岸和田川柳会	18日(日) 午前11時半締切 姿・競りあう・正しい・テロ	いよやかの郷　南海岸和田駅10時集合 〒596-0807 岸和田市東ヶ丘町808-586 井伊東吉
川柳ねやがわ	18日(日) 午後2時締切 一年生・グルメ・握る・自由吟	「秦公民館」寝屋川駅からバス 秦公民館前下車 〒572-0063 寝屋川市春日町9—9　高田博泉
川柳藤井寺	18日(日) 午後2時締切 エンジン・刺戟	藤井寺市立生涯学習センター・シュラホール3F 近鉄南大阪線藤井寺駅下車南徒歩10分 〒583-0023 藤井寺市さくら町2-2-201 高田美代子
岬川柳会	18日(日) 午後1時半締切 ぶらぶら・境遇・傷口	淡輪17区集会所 〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪3592 八十田洞庵
豊中もくせい川柳会	19日(月)午後1時40分締切 譲る・主婦・ついに・自由吟	豊中市中央公民館　阪急曽根駅南東徒歩5分 〒561-0801 豊中市曽根西町2—8—4　江見見清
川柳さんだ	20日(火) 午後1時から 常連・木・咲く・あくび 自由吟	三田市中央公民館 〒669-1546 三田市弥生が丘5—2—4　堀　正和
川柳クラブわたの花	23日(金) 午前9時半から テンポ・口・幸福・自由吟	八尾市生涯学習センター 〒581-0834 八尾市萱振町1-16-1-501 田邊浩三
川柳塔すみよし	24日(土) 午後2時半締切 はがき・踏む・しみじみ	住吉区民センター　南海高野線沢之町下車3分 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉3-16-8-206 鶴田遠野
和歌山三幸川柳会	24日(土) 午後1時から 口・ゆっくり・数える	和歌山商工会議所4階　第2会議室 〒640-8111 和歌山市新通7—17　古久保和子
はびきの市民川柳会	25日(日) 午後2時締切 予算・生きる・エゴ・流れる	羽曳野市立陵南の森公民館 近鉄高鷲駅北東徒歩10分 〒583-0882 羽曳野市高鷲8—31—11　塩満　敏
川柳ふうもん吟社	25日(日) 午後1時より 横どり・パワフル・匙かげん	鳥取駅2F　シャミネホール 〒680-0872 鳥取市宮長205—45　萩原美雪
南大阪川柳会	26日(月) 午後6時から ちょぼちょぼ・演じる スーツ・雑詠	住まい情報センター（大阪くらしの今昔館・5F） 地下鉄谷町線・堺筋線天神橋筋6丁目駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
京都塔の会	26日(月) 午後1時開場 ○○流・外す・処分	ハートピア京都 〒600-8428 京都市下京区諏訪町通松原下ル 弁財天町328—202　都倉求芽
松露川柳会	26日(月) 午後7時半締切 用心・ユーモア・雑詠	溝口五区集会所 〒689-4201 鳥取県西伯郡伯耆町溝口757-3 小西雄々

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

4 月 各 地 句 会 案 内

（開催日順）

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 な　ら	1日(木) 午後1時開場 炊く・枕・錯覚	奈良市立中部公民館4F　近鉄奈良駅④番出口 〒634-0812 橿原市今井町2—1—24—901 安土理恵
城北 川柳会	3日(土) 午後1時開場 やっぱり・殿・ノウハウ 自由吟	旭区老人福祉センター3F 地下鉄千林大宮③番出口 〒535-0002 大阪市旭区大宮4-10-18 神夏磯典子
富柳会	3日(土) 午後1時から 異・透ける・自由吟	富田林市中央公民館 近鉄南大阪線富田林駅下車南へ200m 〒584-0043 富田林市南大伴4-1-10 TEL 0721-25-0603　池　森子
倉吉 川柳会	3日(土) 午後2時締切 森・近い・湿度	倉吉市　明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
八尾市民 川柳会	4日(日) 午後2時締切 変人・大・笑う・雑詠	八尾神社内　西郷会館 〒581-0086 八尾市陽光園1-3-12-305 宮西弥生
川柳塔 さかい	9日(金) 午後1時から なめらか・出来る 「のむら(折り句)」	堺市総合福祉会館 〒593-8305 堺市西区堀上緑町2-16-3　河内天笑
あかつき 川柳会	9日(金) 午後2時締切 子供・月・染まる・時事吟	ねむかホール（新谷町第2ビル3階） 地下鉄「谷町6丁目」駅③番出口から南へ2分 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳大阪	10日(土) 午後2時締切 転ぶ・噂・贅沢	地下鉄長堀鶴見線京橋駅「研修室」 〒533-0004 大阪市東淀川区小松1-18-24-14　長井善純
川柳塔 まつえ	10日(土) 午後2時締切 声・積む・情け・ごそごそ	松江市雑賀町　雑賀公民館 〒690-0056 松江市雑賀町1388　安達幸子
川柳塔 みちのく	10日(土) 午後5時締切 暗号・習慣・がっかり	弘前市桶屋町4-7 居酒屋とんぼ1階「川柳道場」 〒036-0161 平川市杉館宮元53—1　小寺花峯
川柳塔 打吹	10日(土) 午後1時から 泥・弾む・折る	倉吉市上灘町9　上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637—3　牧野芳光
川柳塔 わかやま 吟社	11日(日) 午後1時開会 ひょっこり・咳・弁当 のに・が(逆説の接続助詞)	近鉄カルチャーセンター2F　JR和歌山駅前 〒640-8482 和歌山市六十谷1188—14 川上大輪
西宮北口 川柳会	12日(月) 午後1時開場 折角・土・ほどく・自由吟	西宮市立中央公民館 阪急西宮北口駅南出口歩3分　プレラにしのみや 〒662-0841 西宮市両度町2—19—515　山本義子
尼崎 尾浜 川柳会	13日(火) 午後2時締切 半額・ためらう・うっかり 自由吟	尼崎女性センター　トレピエ　阪急武庫之荘駅南へ200m 〒661-0953 尼崎市東園田町2-45-8　山田耕治
ほたる 川柳 同好会	13日(火) 午後1時半締切 スイッチ・渡る・あかん	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール　蛍池駅駅前ビル5F 〒561-0813 豊中市小曽根2—4—1　水野黒兎

柳界展望

○第7回（平成21年）島根県民文化祭川柳の部銀賞。

半音を下げて居心地たしかめる　川本　畔

○出雲総合芸術文化祭、川柳大会は平成21年11月14日パルメイトで開催された。

出雲市長賞

先端で風の行方を見定める　伊藤寿美

出雲市教育長賞

平和とは眠いものだね鳩ぽっぽ　新家完司

出雲市川柳連盟賞

折れそうなこころに酒という添え木　新家完司

尽すだけ尽し認知になった母　竹治ちかし

▽出　版△

○西口いわゑさん（参与・西宮市）は川柳生活30年を目前に、句集『女ごころ』を出版。A5版198ページ、序文河内天笑主幹、跋奥田みつ子相談役。句集紹介は72ページ。

▽訂正とお詫び△

三月号、33ページ上段23行目、チラシ・拾った→チラリ・拾った。90ページ中段12行目、マイ・ム→舞・夢。下段20行目、富子→富・子。112ページひとこと欄、憲法・の前で→憲・兵・の前で。

▽新誌友紹介△

篠山市　**酒井　真由**
　　石田　久子
紹介者(右2人)遠山　可住
鳥取市　**松原ひとみ**
　　浜田かず子
　　田住美津子
紹介者(右3人)鈴木　公弘
西宮市　**梅澤　盛夫**
紹介者　酒田　浩司
豊中市　**上村　隆**
紹介者　江見　見清
奈良市　**前田　弘忠**
寝屋川市　**小谷　滋彦**
紹介者(右2人)米田　恭昌
三田市　**尾崎　一子**
紹介者　北野　哲男
大阪府　**中井記久乃**
紹介者　畑中せつ子
東大阪市　**西田いくひろ**
紹介者　西出　楓楽
米子市　**木村　春枝**

▽会　議△

○代表者・役員拡大会議を2月15日(月)に開催。主幹以下本社役員、各地川柳会代表者、合計49名が参集した。天笑主幹の挨拶。「通巻10000号記念大会の開催につき皆様の意見や智恵を聞かせて欲しい。ぜひ成功させたい。」

○議題「通巻10000号記念大会の成功に向けて」は楓楽理事長から意義・目標を説明。「記念大会にむけて智恵を集約したい。500名の参加目標に全員の協力をお願いしたい。」事前に集計の会長アンケートを報告。議論が白熱した。

○議題「同人誌友の現状について」は近年の加入状況を詳細に報告。またアンケートの報告と共に各地の実践例などの意見交換をした。

○蘭幸副主幹が閉会挨拶。「皆様の想いを聞き熱くなった。1000号大会への熱い想いをぜひぶっつけて行きたいと思う。」

常任理事会＝3月5日㈮

出席21名。

①代表者役員拡大会議iまとめと反省ii持ち越し課題②一〇〇〇号記念大会関連i目標の設定と行動計画ii大会当日の運営策③同人2名承認。④定例確認事項⑤各部報告事項。

次回＝4月7日㈬13時半。

新同人紹介

山崎（やまさき）　武彦（たけひこ）
―楓楽・みつ子・毅・光久推薦

足立（あだち）　茂（しげる）
―楓楽・いわゑ・みつ子・光久推薦

藤岡（ふじおか）　りこ
―いわゑ・みつ子・舞夢・光久推薦

佐藤（さとう）　忠昭（ただあき）
―楓楽・たもつ・柳伸推薦

2010（平成22）年　第16回川柳塔まつり

川柳雑誌・川柳塔通巻1,000号
記念川柳大会ご案内

と　き　平成22年10月9日（土）　午前11時開場・午後1時開会

ところ　ホテルアウィーナ大阪　4F　金剛の間
大阪市天王寺区石ヶ辻町19－12　電話 06－6772－1441

祝　辞　㈳全日本川柳協会　会長　今川乱魚氏
番傘川柳本社　主幹　礒野いさむ氏

表彰式　路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬抄・一路賞・各地柳壇賞

おはなし　「路郎と薫風 ― 牽引車の火と継承者の灯」
『上方芸能』発行人　木津川　計氏

兼　題
「虫」　川柳展望社　天根夢草選
「深い」　時の川柳社　平山繁夫選
「渡る」　ふあうすと川柳社　赤井花城選
「車輪」　番傘川柳本社　森中惠美子選
「スピーチ」　川柳噴煙吟社　田口麦彦選
「価値」　柳都川柳社　大野風柳選

事前投句　「千」9月1日必着　川柳塔社　河内天笑選

出　題　各題2句・欠席投句拝辞
出句締切　正午（午後5時終了予定）※各題の「天」位に賞呈

会　費　4,000円（当日いただきます）ご昼食は各自でお済ませ下さい

記念品呈　「麻生路郎読本」・「河内天笑川柳句集」

≪懇親宴≫

と　き　平成22年10月9日（土）（午後5時半～7時半）

ところ　ホテル・アウィーナ大阪　3F　葛城の間

会　費　7,000円（会席料理）

川柳塔社　〒543-0052
大阪市天王寺区大道1丁目14番17号201
電話 06－6779－3490

編集後記

☆中学3年生の新聞投稿の話です。国語の先生がクラス全員に、「一年間に辞書を八千回引こう。学んだ言葉には赤く傍線を引いておこう。」と提案されたそうです。全員が厭厭始めたそうですが、だんだんと言葉の意味を知るのが面白くなり、目的の言葉の類似語も探って、語彙が膨らんでくる歓びを知り、今では全員が熱心に辞書を引いていて、投稿生は年間一万回の達成を目指しているそうです。

☆今月の小川注湖氏のエッセーにも、辞書を熱心に引いておられるとの記述があります。私も川柳を始めてからは辞書を引きまくっています。兼題は先入観で考えずに、必ず辞書でその意味を再確認します。思わぬ意味があったりして「目からうろこ」の時があります。

☆川柳塔誌の校正作業には電子辞書を重宝しています。熟語の漢字が可笑しいなと思う時、送り仮名が何か心に引っかかる時は、必ず辞書で確認します。

率直に言いますと、漢字や送り仮名を思い込みで書く方が少なくありません。

川柳塔も水煙抄も各地柳壇も、柳箋と辞書との突合せが欠かせません。

☆可愛い自身の川柳を送り出す前に、今一度辞書で確認する習慣をつけようではありませんか。（尚）

◇六甲川柳会メダカの学校は順調な歩みである。この度、第二回の川柳作品展を、一月二十六日から二月四日まで十日間行った。この作品展には神戸新聞社の後援を頂き新聞でも報道された。

◇会場は神戸市立六甲道勤労市民センターで来場者の多いところである。同センターロビーでの開催で連日大賑わいであった。

◇作品は三十七名の百十九点を色紙、短冊に筆で書いた。会場では川柳塔誌（バックナンバー）と川柳しませんかの小冊子を並べ来場者にお持ち帰りねがった。事前に用意した川柳塔誌百六十冊、川柳しませんか百三十冊がすべてなくなる人気であった。

◇来場者から貴重な意見や感想が二十五名の方から寄せられ大変勇気づけられた次第。川柳塔を大いにPRできたと思っている。（光）

▽編集の業務に少しは役立てたいと思い、パソコンを習い始めて早や四ヶ月が経ちました。

ウン十歳からのずいぶん遅い手習いで、多少の不安もありましたが、なんとか楽しく続けられています。パソコンの先生と親しい間柄で、SOSを出す私をいつも懇切丁寧に指導して下さるお陰と感謝しています。

▽老化してきた目のご機嫌をとりつつ、六〇分のタイムスイッチもついつい無視する私に驚いています。脳細胞が活性化するからなのか新鮮な気持ちになり、なぜか心が若返ります。

▽川柳の作句においても、新鮮さを忘れぬよう、マンネリ化に陥らず若々しい句を心掛けていきたいと思っています。

▽パソコンさんのお陰で元気が出てきました。（能）

ビギナーズラック

初めて参加した句会でたまたま三句入選し、大変うれしかった。帰りに先輩から「今日は何句抜けた？三句も抜けたか」と褒めてもらった。こういうのをビギナーズラックと言うんだろうと思いつつ、次第に川柳に嵌ってしまった。

それから二年、一端の川柳人らしい顔をして、全没覚悟で毎月の句会に皆勤している。すると神のいたずらか「まぐれ当たり」もあって、全没は殆んどなくなった。

ところが世の中はそう甘くない。出された席題によっては「ウンウン」唸っても何も浮かばない。一回目の壁にぶつかったのだろう。先輩たちは頭に沢山の引き出しを持っているだろうが、私には何もない。出たとこ勝負である。

先輩に上達のコツは「多読、多作、多捨」が基本と教えられ、挑戦していこうと思っている。

各地の句会や大きな大会にも積極的に参加し、腕を磨かねばと思う。しかし気持ちとは裏腹に「多飲」が邪魔をするようで。（足立　茂）

ひとこと

川柳塔（同人）・水煙抄（誌友）投句用紙

種目「　　」発表（6月号）地名

都道府県市　姓雅号

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

きりとりせん

同人・誌友　マルで囲んでください。

投句先　〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

檸　檬　抄　投　句　用　紙

「巻　く」　（４月15日締切）

６月号発表

高田美代子　選 ――共選―― 三宅　保州　選

B　A

地名

県府 市道都

姓雅号

切らないで下さい

B　A

地名

県府 市道都

姓雅号

左右に同じ句を書いて下さい

「私の珠玉の一句」投句用紙

締切（6月15日）　発表（9月号）

同人・誌友（○で囲んでください。）

地名
道県 都府
姓 雅号

投句先

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号
花野ビル201

川柳塔社

本社4月句会

とき　4月7日㈬　午後5時開場・6時20分締切り
―開場時間、締切時間を変更しています。ご注意下さい。

ところ　アウィーナ大阪　4階　金剛
天王寺区石ケ辻町19―12　電06・6772・1441

おはなし「対談のつれづれ」　奥田みつ子

席題「　　」　川端一歩　選

兼題「晴れ着」　太田扶美代　選
「右」　伊達郁夫　選
「なんと」　籠島恵子　選
「極楽」　河内月子　選
「削ぐ」　河内天笑　選
（各題2句以内）

会費　1000円　投句料　500円（切手可）

作品募集

6月号発表（4月15日締切）

川柳塔（8句）　河内天笑　選
水煙抄（8句）　川上大輪　選
愛染帖（3句）　新家完司　選
檸檬抄「巻く」（2句）　（三宅保州　共選　高田美代子）
一路集（3句）「借りる」　米田恭昌　選
「社会」　山中康子　選
「しずく」　金子美千代　選
初歩教室「飛ぶ」（3句）　鈴木公弘　担当

7月号

檸檬抄「距離」
一路集「越える」「能力」「ほどほど」
初歩教室「チャンス」

本社5月句会

7日（金）午後5時から

兼題「福の神」「頃」「パック」「無理」「労う」

第28年度　夜市川柳募集

第11回「溜める」　大野風柳　選
ハガキに3句　4月末日締切

投句先　〒593-8305　堺市西区堀上緑町2-16-3
河内天笑方　川柳塔さかい

「川柳塔」への投句について

(1)川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。

(2)愛染帖・檸檬抄・一路集への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。

(3)各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。

(4)各欄への投句数および**投句締切期日の厳守**をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から16時までにお願いいたします。

定価　八百円（送料76円）
半年分　五千円（送料共）
一年分　九千八百円（同）
二〇一〇年（平成二十二年）四月一日発行

発行人　河内權治
編集人　穴吹尚士
印刷所　美研アート
発行所　川柳塔社
〒543-0052　大阪市天王寺区大道一―一四―一七　花野ビル201号室
電話（〇六）六七七九―三四九〇番
振替　〇〇九八〇―四―二九八四七九番

川柳塔のホームページアドレス　http://www.senryutou.com/

昭和四十二年一月九日 第三種郵便物認可
平成二十二年四月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通巻九九五号
川柳塔 四月号
定価 八百円（送料 七十六円）

信頼され、社会に役立つ製品を作る

高級封筒専業メーカー

コーキ封筒株式会社

本　　社　富田林市若松町東３丁目７番８号　〒584-0023
TEL 0721-25-7210　FAX 0721-25-9484
東京営業所　東京都中央区日本橋本石町４丁目５番８号　〒103-0021
（日本橋川村ビル４F）
TEL 03-5255-5158　FAX 03-5255-5159
http://www.koki-envelope.com

医療法人社団
湯川胃腸病院
・日本医療機能評価機構・ISO9001-2000認証取得
健康保険取扱　看護２A・緩和ケア病棟
・消化器科・内科・外科
・放射線科・ホスピス
・デイサービスセンター
診療時間
月～金　8:30～16:00
土　8:30～11:00
JR桃谷駅徒歩3分
http://www.yukawa.or.jp
電話 大阪(06) 6771-4861(代)

雑誌 05703-4